学校法人南山学園

2022 年度

事業報告書

NANZAN
SCHOOL CORPORATION

Ⅰ．学校法人の概要

学 園 概 要

法人の名称	学校法人南山学園
名称英語表記	NANZAN SCHOOL CORPORATION
学園設立	1932 年（昭和 7 年）
学園創立者	ヨゼフ・ライネルス師（神言修道会員）
学園本部所在地	愛知県名古屋市昭和区南山町 1
電話番号	052-832-0217（経営本部総合企画室）
FAX 番号	052-832-8315（経営本部総合企画室）
ホームページ	https://www.nanzan.ac.jp/
設置母体となるカトリック修道会	神言修道会／聖霊奉侍布教修道女会／聖心の布教姉妹会

南 山 学 園 の 教 育 理 念

南山学園は、幼稚園から大学院までを擁するカトリックの総合学園で、キリスト教世界観に基づく教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成をめざしています。

本学園がその基礎においているキリスト教世界観の要は、「一人ひとりの人間がまさに一個人としてかけがえのない存在であり、侵すべからざる尊厳をもつ」という考えです。したがって、キリスト教世界観に基づく教育の目標は、一人ひとりがまず自分の尊厳に気づき、その徹底を図る一方、他者の尊厳を認め、共に、人間の尊厳が尊重され推進される社会づくりに役立とう、という生き方を培うことです。

この建学の理念を端的に表現するために、南山学園の各学校はラテン語で“Hominis Dignitati”、すなわち「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを掲げています。

法 人 の 沿 革

年月	概要
1909 年 8 月	南山学園創立者ライネルス神父来日
1932 年 1 月	財団法人南山中学校設立 （名古屋市中区五軒家町 6 番地の 1＝現在、昭和区五軒家町 6）
1936 年 1 月	南山小学校設立（1941 年 3 月名古屋市に移管）
1946 年 7 月	財団法人南山中学校を財団法人南山学園に組織変更 南山外国語専門学校（英語科・華語科）設立
1947 年 4 月	学制改革により新制南山中学校（男子部）設立 外国語専門学校に独語科・仏語科を増設 （8 月名古屋外国語専門学校と改称、1951 年 4 月廃止）
1948 年 4 月	新制南山高等学校（男子部）設立 南山中学校に女子部を設置
1948 年 5 月	南山高等学校（男子部）に定時制を併設（1953 年 3 月廃止）
1948 年 10 月	財団法人南山学園の経営をカトリック名古屋教区から神言修道会に委譲
1949 年 4 月	南山大学設立

1950 年 3 月	大学附属南山第二高等学校設立（1952 年大学附属四日市南山高等学校と改称）
1951 年 3 月	財団法人南山学園を学校法人南山学園に組織変更、同時に四日市市の財団法人海星学園を併合（1955 年 3 月四日市南山高等学校の経営を学校法人エスコラピオス学園に委譲）
1951 年 4 月	南山高等学校に女子部を設置
1952 年 5 月	学校法人長崎東陵学園を併合、長崎南山高等学校・中学校と校名変更（1955 年 2 月学校法人長崎南山学園を新設し学校法人南山学園より分離）
1953 年 11 月	南山高等学校女子部、昭和区隼人町の新校舎（現在地）に移転（中学校女子部は 1956 年 4 月同地に移転）
1964 年 4 月	南山大学　昭和区山里町の新校舎（現在地）に移転
1968 年 4 月	南山短期大学（英語科）設立
1971 年 4 月	南山短期大学　昭和区隼人町の新校舎に移転
1979 年 4 月	南山中学校に海外帰国子女特別学級を設置
1981 年 4 月	南山中学校に国際部を設置
1982 年 4 月	南山高等学校に国際部を設置
1993 年 4 月	南山高等学校・中学校国際部を発展させて南山国際高等学校・中学校設立（豊田市亀首町八ツ口洞 13-45）
1995 年 6 月	学校法人名古屋聖霊学園と法人合併し、名古屋聖霊短期大学、聖霊高等学校、聖霊中学校が設置校となる。
2000 年 4 月	南山大学瀬戸キャンパス開設（瀬戸市せいれい町 27）
2005 年 3 月	名古屋聖霊短期大学閉学
2008 年 4 月	南山大学附属小学校開校
2011 年 4 月	南山短期大学を南山大学短期大学部に名称変更、南山大学名古屋キャンパスに移転(2020 年 10 月廃止)
2014 年 9 月	南山学園史料室と南山大学史料室を統合し、学園に南山アーカイブズを設置
2015 年 4 月	南山大学理工学部を名古屋キャンパスに移転
2016 年 4 月	学校法人聖園学院と法人合併し、聖園女学院高等学校、聖園女学院中学校、聖園女学院附属聖園幼稚園、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園が設置校となる。
2017 年 4 月	大学キャンパス統合 南山大学総合政策学部を名古屋キャンパスに移転

（注）南山学園の主な沿革を記したもので、大学・大学院等の学部・研究科等の設置（改組等）については記載しておりません。

設 置 す る 学 校 ・ 学 部 ・ 学 科 等

２０２２年５月１日現在

南山大学

〒466-8673　愛知県名古屋市昭和区山里町 18
Phone 052-832-3111（代表）　Fax 052-833-6985（経営本部総務課） https://www.nanzan-u.ac.jp/

【大学院】

人間文化研究科	キリスト教思想専攻（博士前期課程）／宗教思想専攻（博士後期課程）／人類学専攻（博士前期・後期課程）／教育ファシリテーション専攻（修士課程）／言語科学専攻（博士前期・後期課程）
国際地域文化研究科	国際地域文化専攻（博士前期・後期課程）
社会科学研究科	経済学専攻（博士前期・後期課程）／経営学専攻（博士前期・後期課程）／総合政策学専攻（博士前期・後期課程）
法学研究科	法律学専攻（博士前期・後期課程）
理工学研究科	システム数理専攻（博士前期・後期課程）／ソフトウェア工学専攻（博士前期・後期課程）／機械電子制御工学専攻（博士前期・後期課程）
法務研究科（法科大学院）	法務専攻（専門職学位課程）

【学部】

人文学部	キリスト教学科／人類文化学科／心理人間学科／日本文化学科
外国語学部	英米学科／スペイン・ラテンアメリカ学科／フランス学科／ドイツ学科／アジア学科
経済学部	経済学科
経営学部	経営学科
法学部	法律学科
総合政策学部	総合政策学科
理工学部	ソフトウェア工学科／データサイエンス学科／電子情報工学科／機械システム工学科
国際教養学部	国際教養学科

南山高等学校・南山中学校

男子部：〒466-0838　愛知県名古屋市昭和区五軒家町 6
Phone 052-831-6455　Fax 052-831-7059　https://www.nanzan-boys.ed.jp/
女子部：〒466-0833　愛知県名古屋市昭和区隼人町 17
Phone 052-831-0704　Fax 052-834-4575　http://www.nanzan-girls.ed.jp/

【課程[高等学校]】　・全日制普通科

南山国際高等学校・南山国際中学校（2023 年 3 月末に閉校）

〒470-0375　愛知県豊田市亀首町八ツ口洞 13-45
Phone 0565-46-5300　Fax 0565-46-5303　http://www.nanzan-kokusai.ed.jp/

【課程[高等学校]】　・全日制普通科

聖霊高等学校・聖霊中学校

〒489-0863　愛知県瀬戸市せいれい町 2
Phone 0561-21-3121　Fax 0561-82-2025　http://www.seto-seirei-js.ed.jp/

【課程[高等学校]】　・全日制普通科

聖園女学院高等学校・聖園女学院中学校

〒251-0873　神奈川県藤沢市みその台 1-4
Phone 0466-81-3333　Fax 0466-81-4025　https://www.misono.jp/

【課程[高等学校]】　・全日制普通科

南山大学附属小学校

〒466-0838　愛知県名古屋市昭和区五軒家町 17-1
Phone 052-836-2900　Fax 052-836-7401　https://www.nanzan-p.ed.jp/

聖園女学院附属聖園幼稚園

〒251-0053　神奈川県藤沢市本町 4 丁目 8-7
Phone 0466-22-2636　Fax 0466-22-2766　https://www.misono.ac.jp/misono-k/

聖園女学院附属聖園マリア幼稚園

〒251-0871　神奈川県藤沢市善行 7 丁目 1-4
Phone 0466-81-4141　Fax 0466-81-6113　https://www.misono.ac.jp/maria-k/

1．学校法人南山学園役員等

２０２２年５月１日現在

理事長　市瀬英昭

理事

ロバート・キサラ	ヨセフ・ブルーノ・ダシオン	山田利彦
マイケル・リンストロム	ミカエル・カルマノ	鳥巣義文
ｼﾞｪﾌﾞｰﾗ･ｴｳｹﾞﾆｳｽ･ﾕｾﾞﾌ ※	梅村祥子 ※	市瀬英昭
井上淳	品田豊 ※	松田京子
ﾒﾚ，ｳｨﾆﾊﾞﾙﾄﾞｽ ｽﾃﾌｧﾇｽ	笹山達成	上田薫
天野源之 ※	片岡明典 ※	

※私立学校法第 38 条第 5 号に基づく、選任時に本学園の役員または職員でない者（外部役員）

監事　蒔田一　根本景子

評議員

赤尾道夫	青木清	福田尚登
濵口和孝	濵口末明	濵口吉宏
ヘラ マリアヌス パレ	星野昌裕	池田真一
井上淳	クチツキ ヤヌシュ	松田京子
松浦典文	ﾒﾚ，ｳｨﾆﾊﾞﾙﾄﾞｽ ｽﾃﾌｧﾇｽ	ミカエル・カルマノ
マイケル・リンストロム	ムンシ ロジェ ヴァンジラ	西脇良
ロバート・キサラ	笹山達成	鳥巣義文
上田薫	山田利彦	ヨセフ・ブルーノ・ダシオン
市瀬英昭	小島隆史	松岳大樹
西脇正導	梅村祥子	九鬼綾子
松浦悟郎	永井淳	佐久間勤
品田豊	武田ミヱ子	坪光正躬
ｼﾞｪﾌﾞｰﾗ･ｴｳｹﾞﾆｳｽ･ﾕｾﾞﾌ		

学長・校長・園長	南山大学長	ロバート・キサラ
	南山高等学校長・南山中学校長	ヨセフ・ブルーノ・ダシオン
	南山国際高等学校長・南山国際中学校長	山田利彦
	聖霊高等学校長・聖霊中学校長	マイケル・リンストロム
	聖園女学院高等学校長・聖園女学院中学校長	ミカエル・カルマノ
	南山大学附属小学校長	鳥巣義文
	聖園女学院附属聖園幼稚園長・聖園女学院附属聖園マリア幼稚園長	濵口末明
事務局	事務局長	笹山達成
	経営本部長	児玉和典
	大学本部長	福田尚登

■役員にかかる賠償責任保険等の締結について

南山学園は役員を対象に、以下のとおり役員賠償責任保険に加入しております。

保険契約内容	保険契約者	学校法人南山学園
	被保険者	学校法人南山学園の理事および監事
	契約期間	1 年間
	保険金額	10 億円（1 請求/加入期間内の総額）
	補償対象	役員が役員としての業務につき行った行為に起因して、保険期間中に第三者から損害賠償請求を提起された場合において、被保険者が負担する損害賠償金・争訟費用
職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置		・理事の職務執行については、監事が常時理事会に出席し業務執行状況を確認しています。 ・学園に大きな影響を与える可能性がある事項等、理事会で合議して決定する事項は理事会付議事項一覧を理事会の決定に基づいて定めているほか、利益相反に関する事項は私立学校法等法令に基づいた対応を行っています。

２．南 山 学 園 学 生 ・ 生 徒 ・ 児 童・ 幼 児 数 一 覧 表

２０２２年５月１日現在

南山大学

（１）大学院［博士前期課程・修士課程］

研　究　科	専　攻	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
人間文化研究科	キリスト教思想専攻	8	2	16	6
	人類学専攻	8	8	16	18
	教育ファシリテーション専攻	10	1	20	4
	言語科学専攻	12	2	24	10
	計	38	13	76	38
国際地域文化研究科	国際地域文化専攻	20	2	40	6
社会科学研究科	経済学専攻	7	7	14	15
	経営学専攻	7	4	14	13
	総合政策学専攻	7	6	14	14
	計	21	17	42	42
法学研究科	法律学専攻	6	0	12	2
理工学研究科	システム数理専攻	18	8	36	14
	ソフトウェア工学専攻	18	11	36	23
	機械電子制御工学専攻	18	16	36	30
	計	54	35	108	67
合　　計		139	67	278	155

（２）大学院［博士後期課程］

研　究　科	専　攻	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
人間文化研究科	宗教思想専攻	3	2	9	3
	人類学専攻	3	0	9	0
	言語科学専攻	4	0	12	5
	計	10	2	30	8
国際地域文化研究科	国際地域文化専攻	3	0	9	4
社会科学研究科	経済学専攻	3	0	9	1
	経営学専攻	3	1	9	1
	総合政策学専攻	3	2	9	5
	計	9	3	27	7
ビジネス研究科	経営学専攻(※1)	－	－	－	1
法学研究科	法律学専攻	3	1	9	2
理工学研究科	システム数理専攻	2	0	6	1
	ソフトウェア工学専攻	2	0	6	0
	機械電子制御工学専攻	2	0	6	0
	計	6	0	18	1
合　　計		31	6	93	23

※1　2016年度から学生募集停止。

（３）大学院［専門職学位課程］

研　究　科	専　攻	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
法務研究科	法務専攻	20	4	60	16
合　　計		20	4	60	16

（４）学　部・学　科

学　部	学　科	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
人文学部	キリスト教学科	20	24	80	91
	人類文化学科	110	127	440	453
	心理人間学科	110	123	450	477
	日本文化学科	100	103	400	411
	計	340	377	1,370	1,432
外国語学部	英米学科	150	159	618	618
	スペイン・ラテンアメリカ学科	60	43	240	221
	フランス学科	60	59	240	236
	ドイツ学科	60	57	240	227
	アジア学科	60	62	246	269
	計	390	380	1,584	1,571
経済学部	経済学科	275	287	1,100	1,102
経営学部	経営学科	270	279	1,080	1,097
法学部	法律学科	275	285	1,100	1,109
総合政策学部	総合政策学科	275	297	1,120	1,120
理工学部	システム数理学科（※1）	－	－	150	154
	ソフトウェア工学科	70	70	300	301
	機械電子制御工学科（※1）	－	－	160	163
	データサイエンス学科	70	71	140	138
	電子情報工学科	65	60	130	129
	機械システム工学科	65	53	130	119
	計	270	254	1,010	1,004
国際教養学部	国際教養学科	150	168	610	640
合　　計		2,245	2,327	8,974	9,075

※1　2021年度から学生募集停止。

（５）外国人留学生別科(正規生)　40　名

南山高等学校

区　分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
男子部	200	194	600	595
女子部	200	200	600	598
合　計	400	394	1,200	1,193

南山国際高等学校*

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
－	－	160	56

*2021年度新入生より募集停止

聖霊高等学校

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
240	231	720	696

聖園女学院高等学校

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
120	73	360	229

南山中学校

区　分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
男子部	200	204	600	610
女子部	200	205	600	612
合　計	400	409	1,200	1,222

南山国際中学校*

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
－	－	－	－

*2020年度より休校

聖霊中学校

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
200	200	600	638

聖園女学院中学校

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
120	64	360	196

南山大学附属小学校

入学定員	入学者数	収容定員	児童数
90	93	540	549

聖園女学院附属聖園幼稚園

入園者数	収容定員	幼児数
39	245	168

聖園女学院附属聖園マリア幼稚園

入園者数	収容定員	幼児数
37	280	146

学園合計（別科を除く）

入学定員	入学者数	収容定員	学生･生徒･児童･幼児数
4,005	3,944	15,070	14,362

注記

・入学者数は、再入学者、編入学･転入学者および原級留置者（新入生でない1年次生）を除いた人数。

３．南　山　学　園　専　任　職　員　数

２０２２年５月１日現在

［専任教育職員数］

南山大学

学部・研究科 等	専任教育職員					計
	学　長	教　授	准教授	講　師	助　教	
人　文　学　部	(1) ＊	31	18	10	1	60
外　国　語　学　部		24	14	10	0	48
経　済　学　部		15	9	2	0	26
経　営　学　部		15	10	1	0	26
法　学　部		17	8	1	0	26
総合政策学部		20	6	1	0	27
理　工　学　部		29	4	3	0	36
国際教養学部		12	7	2	0	21
法務研究科		12	1	0	0	13
人類学研究所		1	1	0	0	2
宗教文化研究所		3	0	2	0	5
社会倫理研究所		1	2	0	0	3
外国語教育センター		8	3	17	0	28
教職センター		3	2	0	0	5
情報センター		0	0	0	0	0
体育教育センター		2	4	0	0	6
国際センター		0	0	4	0	4
保健センター		1	0	0	4	5
ハラスメント相談室		0	1	1	0	2
外国人留学生別科		0	0	5	0	5
合　計	(1) ＊	194	90	59	5	348

南山高等・中学校

	校　長	副校長	教　諭	養護教諭	講　師	計
男　子　部	(1) ＊	(1) ＊	57	1	1	59
女　子　部		(1) ＊	56	2	5	63
合　計	(1) ＊	(2) ＊	113	3	6	122

南山国際高等・中学校

校　長	教　諭	養護教諭	講　師	計
(1) ＊	14	1	－	15

聖霊高等・中学校

校　長	副校長	教　諭	養護教諭	講　師	計
(1) ＊	(1) ＊	58	2	6	66

聖園女学院高等・中学校

校　長	副校長	教　諭	養護教諭	講　師	計
1	－	30	2	6	39

南山大学附属小学校

校　長	副校長	教　諭	養護教諭	講　師	計
(1) ＊	－	35	1	2	38

聖園女学院附属聖園幼稚園

園　長	副園長	教　諭	養護教諭	講　師	計
1	(1)*	11	－	－	12

聖園女学院附属聖園マリア幼稚園

園　長	副園長	教　諭	養護教諭	講　師	計
(1)**	(1)*	11	－	－	11

南山学園専任教育職員数合計　651

(　)*の数字は内数、(　)**は他の学園内設置校と兼任

［専任事務職員等数］

区　　分	専任職員	専任嘱託	実験助手	計
経営本部（学校事務部除く）	50	11		61
南山大学	107（再雇用4含む）	47		154
南山高等学校	6	2	2	10
南山国際高等学校	3	2		5
聖霊高等学校	4			4
聖園女学院高等学校	4			4
南山中学校	3	3		6
聖霊中学校	1	1		2
聖園女学院中学校	4（再雇用1含む）			4
南山大学附属小学校	3	2		5
聖園女学院附属聖園幼稚園		1		1
聖園女学院附属聖園マリア幼稚園	1（再雇用1含む）			1
合　　計	186	69	2	257

４．土 地 お よ び 建 物

２０２２年５月１日現在

土　地　　（㎡）

	校舎等	運動場	その他	合計
南山大学	119,630	32,627	8,210	160,467
南山高等学校 南山中学校	35,221	19,566	7,799	62,586
南山国際高等学校 南山国際中学校	32,462	16,664	0	49,126
聖霊高等学校 聖霊中学校	86,471	30,765	55,722	172,958
聖園女学院高等学校 聖園女学院中学校	54,914	21,450	344	76,708
南山大学附属小学校	6,968	977 *1	0	7,945
聖園女学院附属 聖園幼稚園	1,643	876	0	2,519
聖園女学院附属 聖園マリア幼稚園	1,080	2,380	1,805	5,265
法人本部	0	0	99,782	99,782

＊1：他に 11,783 ㎡を南山高中校と共有する。

建　物　　（㎡）

	校舎等	体育用	寄宿舎	その他	合計
南山大学	128,337	13,320	9,630	3,900	155,187
南山高等学校 南山中学校	35,072	5,431	0	688	41,191
南山国際高等学校 南山国際中学校	13,764	4,627	0	0	18,391
聖霊高等学校 聖霊中学校	21,703	2,267	0	0	23,970
聖園女学院高等学校 聖園女学院中学校	11,167	4,234	0	100 *2	15,501
南山大学附属小学校	8,435	1,316	0	0	9,751
聖園女学院附属 聖園幼稚園	1,535	0	0	0	1,535
聖園女学院附属 聖園マリア幼稚園	1,694	0	0	0	1,694
法人本部	0	0	0	5,398	5,398

＊2：職員宿舎

【注】学校法人基礎調査（日本私立学校振興・共済事業団）の報告形式に則り、建物・土地ともに項目ごとに１平方メートル未満は四捨五入しています。

５．学　園　施　設　お　よ　び　学　園　関　連　施　設

２０２２年５月１日現在

学　園　施　設

名　　称		住　　所	収容定員
南山アーカイブズ		名古屋市昭和区五軒家町６	
南山学園講堂		名古屋市昭和区五軒家町６	客席 ９２２名
南山学園研修センター		名古屋市昭和区広路町字隼人３０	７０名
南山学園伊勢海浜センター		伊勢市大湊町４９７－１	５０名
南山大学キリスト教センター （ロゴスセンター）		名古屋市昭和区八雲町１０４	
学　生　寮 （南山大学）	名古屋交流会館	名古屋市昭和区山里町５０	５６名
	山里交流会館	名古屋市昭和区山里町９０	２０名
	フォワイエ南山	名古屋市昭和区五軒家町７－３	５７名

学　園　関　連　施　設

借用マンション （南山大学 学生用）	四ツ谷の里	名古屋市千種区朝岡町１－２２	５２名
借用学生寮 （南山大学 学生用）	ヤンセン国際寮	名古屋市昭和区八雲町１３８－１	１７８名

神言会施設	多治見修道院 ログハウス・研修センター	多治見市緑ヶ丘３８	８０名

Ⅰ．２０２２年度事業報告（学園全体）

★は「南山学園中期計画」（2020 年度～2024 年度）において取り組む事項と関連している項目です。

Ⅰ．２０２２年度事業の概要

2022 年度は、新型コロナウイルスによる影響を受けながらも、様々な工夫を凝らし、できる限り制約が少なくなるよう学園経営および各単位校の教育・研究活動に努め、年度当初に計画した事項を確実に実行した 1 年となりました。特に南山国際高等学校・中学校については、2022 年度末の閉校に向けて、各種調整や校舎解体等にかかる諸費用の財源確保、閉校式の開催などを学園として準備を進め、2023 年 3 月 31 日をもって閉校を迎えることができました。

2022 年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

・南山国際高等学校・中学校の閉校に向けた準備を進め、2023 年 3 月 31 日をもって閉校を迎えました。
・年々複雑化する相談に対応できるようハラスメント相談体制を見直し、南山学園全体のハラスメント相談体制を構築しました。
・事務職員の自律的なキャリア形成を支援するため、外部研修への学園内公募制度を導入しました。

2022 年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

・各種計画等の実施状況の点検・評価を通じて、学園運営の課題を明らかにし、解決に向けて取り組みました。また、その評価方法の課題について共通認識を持つことができました。
・校舎等の非構造部材を中心とした建物点検を行い、各校で安全対策を進めました。
・学園財政の健全な運営のため、遊休資産の処分を行うとともに、中長期の収支およびキャッシュフローの回復を意識した「基準財務シミュレーション」を策定しました。

Ⅱ．新規事業

１．学校全体

（１）BCP（事業継続計画）の策定に向けた具体的な作業開始　★

2020 年度に学園として BCP（事業継続計画）の策定の必要性が課題として提示されて以降、南山学園危機管理委員会が中心となり検討を進めています。具体的には、2021 年度は、外部コンサルティングを導入しての BCP 策定の進め方等について理解を深めることを目的とした説明会を開催しました。2022 年度は、学園および単位校の実態に即しつつ、より専門的かつ具体的な BCP を策定するため、外部コンサルティングを導入することを常務理事会へ提案し、承認されました。2022 年度中の BCP 策定の着手には至りませんでしたが、2023 年度に外部コンサルティングの業者選定を行い、BCP 策定に向け準備を進める共通認識のもと協議を行う予定です。

２．その他

（１）南山国際高等学校・中学校閉校式の開催

1993 年に開校した南山国際高等学校・中学校は、2023 年 3 月 31 日をもって閉校し、長年に渡る帰国子女および外国人生徒教育の使命は、南山学園がその教育理念を継承することとなりました。閉校にあたり、ご支援いただいた行政、企業等のみなさまへ改めて御礼を伝える機会として、南山学園主催の閉校式を開催いたしました。式典内容については、学園指導司祭から助言を得ながら、南山国際高等学校・中学校閉校式検討ワーキンググループにおいて検討を重ね、カトリックの学校に相応しい式典とすることができました。また、インターネット上に同時配信することで、国際校卒業生をはじめ多くのステークホルダーに御覧いただくことができました。

（２）ハラスメント相談体制の構築

南山大学を中心として、南山学園全体のハラスメント相談体制を構築し、新たな枠組みならびに体制をスタートさせました。南山学園で学ぶ人、働くすべての人を対象とした、ハラスメントのない環境づくりに努めました。

（３）文書業務の電子化の促進

事務執行に係る意思決定の迅速性および正確性を高め、ペーパーレス化を推進し、業務の効率化を進めるため、電子決裁システムの拡充、電子契約の取扱の検討を進める予定でしたが、2022 年度は事業を提案できず、電子化事業促進に至りませんでした。

（４）各単位補助金に係る交付状況の分析

2021 年度各単位に交付された補助金について前年度と比較し、2022 年度以降の申請においてより多くの補助金が獲得できるよう分析しました。特に大学の一般補助・特別補助における教育の質に係る補助対象項目については、補助金獲得に向けた改善案を提案しました。

（５）外部研修への学園内公募制度の導入

外部研修への参加について、事務職員の自律的キャリア形成を支援するため、学園内公募制度を導入しました。2022 年度は、「大学職員短期集中研修（主催：一般社団法人日本私立大学連盟）」と「私学スタッフセミナー（主催：日本私立学校振興・共済事業団）」を対象に参加者を公募し、それぞれ 1 名ずつ参加者を決定しました。2023 年度以降も一部の外部研修において参加者の公募を継続的に実施していきます。

Ⅲ．継続事業

１．学校全体

（１）南山学園中期計画の実行と評価　★

2020 年 4 月に改正私立学校法が施行され、新たに 2020 年度から 2024 年度の 5 年間を計画期間とした「南山学園中期計画」を策定し、実行を始め、2022 年度は計画 3 年度目となりました。2022 年度の事業計画策定時に、各単位校が中期計画を意識した目標策定を行ったことなどから、全体として「完了」もしくは「進行中」が約 9 割を占め、2021 年度の割合から増加しています。今後、新型コロナウイルス感染症の影響により中止や変更を余儀なくされた計画について、工夫しながら可能な範囲で実施することで、更なる中期計画の実現を進めます。なお、南山学園自己点検・評価委員会においては、進捗評価方法（評価の基準およびエビデンスのあり方）を課題として認識しており、次期計画（2025 年度～2029 年度）の立案時には、より明確な進捗評価方法を定めておく必要性があることを共通理解といたしました。

（２）学園内連携のさらなる充実　★

学園内連携推進協議会の下にある高大協議会、小中高協議会、小学校・大学連携協議会の各協議会において「学園内相互連携の一層の充実」の実現に向けた議論を 2020 年度より開始し、設置校間の教員交流や情報交換の場の必要性について、これまでに確認しています。2022 年度は、学園内連携推進協議会において、学園内連携の中心的役割を担う大学の役割ならびにあり方についての課題を共有し、議論を行いました。

（３）「私立大学版ガバナンス・コード」に基づく対応

学園運営の指針を明示した「南山学園ガバナンス・コード」の 2022 年度の遵守状況点検では、4 つの基本原則のうち、「自律性の確保」および「信頼性・透明性の確保」は、「達成している」と「おおむねできている」の評価が 9 割を超えています。「公共性の確保」および「継続性の確保」は、そこまでには至らないものの 2021 年度から改善が見られた結果となりました。引き続き、遵守できていない項

目の改善に取り組み、ガバナンス強化と学園運営のさらなる健全化を進めます。

２．広報活動

（１）学園広報活動　★

中期計画に定めた「学園のブランドイメージ形成に資する広報戦略の実施」の実現のために、2021年度の南山学園広報委員会において検討を行い、2022 年度から新たな広報活動を展開しました。具体的には、「カトリックのミッションスクール」と「国際性」を軸に、従来の新聞広告のみの広告展開から、鉄道・空港・集客施設等の各種媒体を活用した広告展開へシフトし、広報活動を行いました。また、2019 年度から実施している各単位校合同での進学相談会「トワイライト合同相談会」を、2022 年 10月 5 日に開催し、カトリック総合学園としての南山学園の PR とともに、各単位校入試広報活動の支援を行いました。

３．施設・設備

（１）PCB 廃棄物の処分　★

高濃度 PCB 廃棄物である蛍光灯安定器の処分は 2021 年度に完了しました。低濃度 PCB 含有の可能性がある機器については順次 PCB 含有濃度検査を実施しており、処分期限の 2027 年 3 月末までに適切に処分を行います。

（２）校舎の耐震対策　★

2021 年度に専門家による非構造部材を中心とした建物点検を実施しましたので、2022 年度は指摘を受けた各校で安全対策を進めました。

（３）省エネルギーならびにカーボンニュートラル対策　★

CO2 排出量の削減を目指し、耐用年数を過ぎた空調機を省エネタイプに取り替えました。次年度以降も同様に進めます。運用面では、例年通り、クールビズやウォームビズの推進、空調の温度設定、無人時の消灯と空調オフを徹底しました。

2050 年のカーボンニュートラルに向けて、太陽光発電等再生可能エネルギー設備の導入の検討を開始しました。

（４）遊休資産等の活用と処分　★

南山学園が所有する遊休資産等について、活用方法や将来性を視野に入れて検討した結果、2022 年度は学園が管理する瀬戸市内にある瀬戸第一および第二交流会館の土地･建物を処分する手続きを進め、2023 年 3 月に売却しました。

（５）聖園女学院高等学校・中学校正門前土地問題

聖園女学院高等･中学校正門前の土地は､合併前から国道 467 号線との境界が明確ではなかったため、合併後、神奈川県と協議を進めています。2022 年度においても進展せず、問題解決には至りませんでした。

４．社会貢献

（１）中部経済連合会・中部経済同友会への加盟等による経済界とのつながり ★

学校法人は教育活動および大学での研究活動を通じて、次世代の育成や新しい知見・技術等の学術を通じて、経済発展の一翼を担っています。そのため、理事長を中心として、中部経済同友会等の講演会や座談会へ参加し、社会のニーズや変化を把握し、中部地域の経済発展への寄与と本学園の教育・研究活動の向上に努めました。

５．財務

（１）財政改善に向けた取り組み　★

これまでの南山学園における財政改善に向けた取り組みは､単年度ごとに各経理単位の目標値を設定し、段階的な改善を図るというものでした。しかしながら昨今の新型コロナウイルス感染症拡大、物価上昇に伴う光熱水費増加、ICT 教育環境の整備前倒し等による収支変動の影響もあり、多くの単位にお

いて年々の目標の実現に至らない状況が続いています。こうしたなかで長期的な財政改善傾向の維持・促進を図るためには、各単位が中長期的な視野を明確に持ったうえで教育・研究の発展に努力することが重要になります。そこで財政基盤をこれまで以上に強固なものにするために、単年度ごとの収支目標に加え、中長期の収支およびキャッシュフローの回復を意識した「基準財務シミュレーション」を設けることにしました。各単位には 2027 年度までを目標期間として、このシミュレーションに沿った収支改善と資金の維持・回復を実現してもらいます。また、毎年度決算後には、各経理単位の収支とキャッシュフローを評価・分析し、必要に応じて各経理単位に精査を求めることとします。

（２）有価証券運用の取り組み　★

今年度については、既存の資産運用方針を遵守しつつ、昨今における金利上昇等の市場環境の変化を踏まえ、リスクを十分に考慮した有価証券運用を行いました。次年度以降についても、南山学園の財政に安定的に貢献可能な有価証券運用を行っていきます。

（３）南山国際高等・中学校の閉校に伴う財源確保　★

2022 年度に閉校する南山国際高等・中学校の校舎解体等にかかる諸費用については、南山学園総合事業引当特定資産を充当することとしました。当該特定資産の活用により、南山学園における支払資金の減少を防ぐとともに、教育・研究活動への影響を最小限に留めました。

以　上

２０２２年度南山大学事業報告

★は「南山学園中期計画」(2020 年度～2024 年度)において取り組む事項と関連している項目です。

Ⅰ．２０２２年度事業の概要

大学創立 75 周年を迎えたことを契機として、諸施設・学内環境を整備しました。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、徐々にコロナ禍前の「日常」に戻す事業を実施しました。加えて、志願者獲得のための制度の見直しや連携を行いました。大学創立 100 周年に向け、南山大学の建学の理念および「人間の尊厳のために」という教育モットーに立ち返り、2020 年度から掲げているキーフレーズ「地球規模の関心、私たちの貢献」を心に刻み、学生や教職員が安心して教育・研究に取り組める環境を整えます。

2022 年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

・南山大学「人間の尊厳賞」の表彰式
・大学院博士後期課程奨学支援制度
・南山大学ヤンセン国際寮の開寮
・南山大学ライネルス中央図書館の竣工
・ハラスメント問題対策委員会の新体制

2022 年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

・NU-COIL プログラムの発展的継続
・学内国際交流のさらなる活性化
・国際的な大学間連携の推進
・認証評価を踏まえた改善計画の策定と実行
・Nanzan International Certificate の発展・強化
・オープンアクセス化の推進
・社会貢献と各種連携の強化
・入試制度の見直し
・大学戦略広報の強化
・安定的な財政基盤の構築

Ⅱ．新規事業

１．学校全体

（１）南山大学「人間の尊厳賞」の表彰式　★

大学創立 75 周年を記念して、南山大学「人間の尊厳賞」が創設されました。同賞は、人間の尊厳のために特別な貢献をしてきた方を対象に授賞します。2022 年 5 月、大学創立記念式典にあわせて表彰式と記念講演会を開催しました。引き続き、「人間の尊厳賞」の授賞を通じて、本学の理念を世界に向けて発信していきます。

２．教育・研究

（１）大学院博士後期課程奨学支援制度　★

2022 年度より大学院博士後期課程奨学支援制度を開始しました。この制度は、博士後期課程に在籍する大学院生を対象に、授業料および施設利用料の半額を免除するというものです。2022 年度は 20 名が支援の対象となりました。引き続き、人材育成機関としての本学の役割を果たすために大学院博士後期課程へ進学する学生を支援していきます。

３．施設・設備

（１）南山大学ヤンセン国際寮の開寮　★

2022 年 4 月、南山大学ヤンセン国際寮が開寮しました。同寮は、「ダイバーシティ＆インクルージョン実践力養成プログラム」と呼ばれる教育プログラムを実施し、日本人学生と留学生が協働し国境を越えて活躍する力を育む場を提供しています。

（２）南山大学ライネルス中央図書館の竣工　★

大学創立 75 周年を記念した事業として「南山大学ライネルス中央図書館」が竣工しました。2023 年 4 月にリニューアルオープンします。新たな図書館では、動的、積極的に人と人、人と書物や知識、そして社会とが全人的かつ個性的存在として「であう」「つながる」「かわる」ことによって、新たなイノベーションが実現するよう種々のサポートを提供します。

４．その他

（１）ハラスメント問題対策委員会の新体制

ハラスメントの相談内容は年々複雑化し、増加する傾向にあります。こうした状況に対応するため、2022 年度、新たに南山学園全体のハラスメント相談体制を構築しました。新体制のもと、単位校の実情・ニーズに合わせた形で着実に業務を遂行することができるよう、引き続き体制の改善に努めていきます。

Ⅲ．継続事業

１．学校全体

（１）ウィズ・コロナ/ポスト・コロナの大学運営

会議や授業の運営において、これまでに得たオンラインに関する知見を 2022 年度も継続して有効活用することができました。こうした経験を踏まえ、コロナ禍から「日常」へ戻る過程においても、大学運営におけるオンラインの有効活用について引き続き検討していきます。

２．教育・研究

（１）NU-COIL プログラムの発展的継続　★

2018 年度から開始した大学の世界展開力強化事業（米国）のプログラムが 2022 年度に終了しました。この 5 年間の活動については、3 月に「NU-COIL 総括報告書（2018-2022 年度）」をとりまとめ、刊行しました。また、海外学生と本学学生のオンライン交流（CJS Online Cafe「和（なごみ）」、 Global Chit Chat、Modern Japan Discussion Table）等も継続して進めてきました。これらの成果を踏まえ、NU-COIL プログラムの発展的継続を検討していきます。

（２）学内国際交流のさらなる活性化　★

多文化交流ラウンジ（Stella）、ワールドプラザ、ジャパンプラザにおいては、単なる国際交流にとどまらず、文部科学省「トビタテ！留学 JAPAN」事務局が主催する SIPS 事業に参加し、NaSIP と称する学生による学生のための留学動機付けの活動を実施してきました。

南山大学ヤンセン国際寮においては、日本人学生と留学生とが協働して国境を越えて活躍する力を育む場「ダイバーシティ＆インクルージョン実践力養成プログラム」のもと、宿舎の動画紹介やイベントの実施等を通じて、より交流を深め、ダイバーシティ＆インクルージョンを考え実施することができました。

引き続き、各種プログラムの実施と実践を通じて、国境を越えて活躍できる人材を育成できるよう努めます。

（３）国際的な大学間連携の推進　★

2021 年度に文部科学省「大学の国際化推進フォーラム形成事業」において採択された「COIL を活用した持続的グローカル・イノベーション人材育成プロジェクト」では、2022 年度に幹事校の琉球大学の学

生 3 名が本学に派遣され、本学の授業の受講や名古屋の企業訪問を行い、本学学生は琉球大学の「太平洋特定課題研修プログラム」に参加し、太平洋島嶼地域に共通する地域課題の認識やその解決について、SDGs の観点からともに考えました。科学技術振興機構「令和 3 年度大学発新産業創出プログラム(START)」に採択された Tongali プロジェクトでは、東海地方の大学とともに次世代の起業家育成やグローバルなイノベーションシステムの構築に取り組んでいます。2022 年度は、Tongali プロジェクトの協力のもと「アントレプレナーシップ養成プログラム」として、2 回の講演会、アイデアワークショップ、事業開発講座を実施しました。

また、学生交流協定を締結した海外の大学・機関は、2022 年度末の時点で 33 カ国・地域で 117 大学となりました。引き続き海外協定校の開拓に努めるとともに、2015 年策定の「南山大学国際化ビジョン」を見直していきます。

（４）認証評価を踏まえた改善計画の策定と実行

2020 年度に受審した大学基準協会の認証評価の指摘事項について、内部質保証委員会が中心となって改善計画を策定し、実行しました。中間報告にあたる改善報告書を提出することになる 2024 年に向けて、引き続き改善に取り組んでいきます。

（５）Nanzan International Certificate の発展・強化

国際科目群から 24 単位以上修得すると、本学で国際力を獲得した証として Nanzan International Certificate（以下「NIC」）が発行されます。2022 年度には英語以外の言語（スペイン語、フランス語、ドイツ語）で行われる科目も国際科目群に加えました。2022 年度末には、ワーキンググループが答申を出しました。答申に従い、学生とって NIC がより魅力的になるための策を講じます。

（６）オープンアクセス化の推進

本学は 2020 年度に「南山大学オープンアクセス方針」を策定し、2021 年度には「南山大学オープンアクセス実施要領」を定めました。この方針に従って、2020 年 9 月 25 日以降に発表された刊行物は原則としてオープン化しました。2022 年度は、新規発行の学内刊行物が 200 件、雑誌掲載論文や各種報告書のリポジトリへの公開も 50 件近くとなり、公開が進んでいます。過去の成果については、今後一層オープン化を推進していきます。

３．社会貢献

（１）社会貢献と各種連携の強化

社会の発展に貢献することは、基本方針でも掲げた「地球規模の関心、私たちの貢献」に資する重要なステップです。2021 年度は創立 75 周年を記念するにあたって南山大学「人間の尊厳賞」を創設し、2022 年度はその表彰式を開催して、「人間の尊厳のために」という理念の実現に多大な貢献をしてきた方を表彰しました。本賞の授賞を通じて、大学の理念に立ち返りながら、社会において大学としての使命を果たしていきます。

大学間連携では、南山大学が連携校として参加する「COIL を活用した持続的グローカル・イノベーション人材育成プロジェクト」事業の一環として、幹事校である琉球大学との学生交流事業を実施しました。また、キリスト教系大学との連携では、カトリック大学・短期大学連盟が 2023 年度に実施する、オンラインによる複数会場配信形式の 4 大学連携神学講座において、宗教史の講座を担当することになりました。引き続き、様々な分野において、各大学との連携を深めていきます。

環境問題について、南山学園は 2008 年度に「南山学園環境宣言」を発表し、早くから環境問題に関心を寄せてきました。その一環として南山大学は、2021 年度創設された「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に参加し、具体的な計画を策定するとともに、CO_2排出量の削減を目指し、電気・空調等の各設備の省エネルギー運用を実施しています。本学の研究・教育活動を通じて、環境問題の改善に関するアイデアを出し合い、議論を重ね、より良い未来を創造できるよう引き続き努めていきます。

４．その他

（１）入試制度の見直し

「入試制度検討ワーキンググループ」の最終報告書における推薦入試の多様化の提案を受け、2022 年度は、海外指定教育機関との推薦制度として「外国人留学生推薦入学審査【指定校】」、長期留学経験者を対象とした「学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）」、そして、高大連携に関する協定を締結したカトリック系高等学校を対象とした「推薦入学審査（特別協定校）」という入試制度を新設しました。様々な社会変化に対応することができるよう、引き続き中・長期的な視野で入試制度を検討していきます。

（２）大学戦略広報の強化

大学の広報活動は、より多くの方々に本学を知ってもらう機会を提供します。とりわけ教職員の研究成果や教育活動の発信、在学生や卒業生の活躍は、大学の社会的評価の獲得に大きく影響します。本学構成員のそれぞれが、大学広報の一端を担っていることを今一度自覚するとともに、関係課室はより一層連携して、戦略的な大学広報活動に取り組んでいきます。とりわけ入試に関する広報について、2022 年度は、オープンキャンパスや大学見学会等の対面実施をはじめ、Web ページ、YouTube、SNS 等でも積極的に情報を発信しました。引き続き高校生の情報入手の傾向を踏まえて、どのような媒体で何を伝えることが効果的なのかを検証し、実践していきます。

大学のブランディング強化は国内にとどまりません。世界の優秀な留学生にも選ばれる大学になるために、本学の国際性を活かした国際戦略広報の展開に努めていきます。2022 年度は、4 月に開寮した南山大学ヤンセン国際寮が開催した各種イベント、日本での就職を希望する留学生を対象としたキャリア支援プログラム You+NIIC（ユニーク：Nanzan Initiative for International Students’Career）の取り組み等、留学生にとって魅力的な情報を積極的に発信しました。引き続き、関係課室が協力する体制を強化するとともに、学部・大学院は相互に連携して留学生向けの広報活動を強化します。留学生同窓会や海外事務所等を活用した現地高校訪問や SNS 等の積極的な活用により、本学の国際性を発信するよう努めます。

（３）安定的な財政基盤の構築

本学の魅力を維持・向上させるためには、安定的な財政基盤を構築することが不可欠です。教育・研究の充実を図るため、今後も補助金の獲得に努めていきます。また、入学定員の充足率に留意しながら、学納金改定および支出削減計画策定小委員会で検討された支出削減等の方策を実施しました。

寄附金については、南山大学創立 75 周年記念募金、新型コロナ対策学生応援募金、大学院博士後期課程奨学支援募金、南山大学教育研究支援募金を進めてきました。これらについて卒業生・企業等への周知を図るとともに、寄附金の多様化についても検討していきます。

以　上

２０２２年度南山高等学校・中学校（男子部）事業報告

★は「南山学園中期計画」(2020 年度～2024 年度)において取り組む事項と関連している項目です。

Ⅰ．２０２２年度事業の概要

南山高等・中学校（男子部）における教育は、授業を通じた学問の教授だけでなく、行事や日々の生活の中にも学びや成長の機会を意図し、どちらが欠けても「人間の尊厳のために」の教育モットーの理解や「小さな紳士」たる資質の向上は十分に得られません。そのような中で、2022 年度は新型コロナの感染防止に十分配慮しながら、学校活動をできるだけ従前の状態に戻し、この 3 年間に経験させられなかった体験を補う努力をした 1 年となりました。また、新しい教育課程や ICT 環境の整備、ペーパーレスの取り組みによる環境配慮など、時代にあった教育のあり方について 1 つ 1 つ対応を進めました。

2022 年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

・高校新教育課程や大学入試改革への対応と検討を進めました。
・教育の ICT 化に向けた生徒 PC 端末 1 人 1 台体制の導入準備を行いました。
・デジタル採点システムを導入し、評価作業の効率化を図りました。
・ペーパーレス化と校内情報伝達の効率化を推進しました。

2022 年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

・聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養を図りました。
・教職員の研修・研鑽・自己点検を実施しました。
・スクールカウンセラーによる相談室の体制を維持し、安心して学校生活を送る環境を整えました。
・危機管理体制の充実・向上を図りました。
・図書館の充実や 6 か年一貫の進路・進学支援を行いました。
・Web ページの拡充等広報活動の充実を図りました。
・生活指導や生徒自治会活動、部活動等を通じた生徒の人間形成の充実を図りました。
・南山大学をはじめ学園内他単位校との学園内連携を推進しました。
・財政状況にかかる検討と改善へ向けた取り組みを行いました。

Ⅱ．新規事業

１．学校全体

（１）新教育課程への対応と検討

高校 1 年生を中心に、教科書内容、指導内容および学習内容が大きく変化していくことに伴い、高校 1 年生においては 1 年後の高校 2 年生の新しい学習への繋がりを意識した学習を実施しました。さらに、高校へ繋がる中学校での学習や、移行期間にあたる高校 2 年生以上においても、新しい学びにも対応しうる学習活動を加えた創意工夫のある授業を行うように努めました。今後示される必履修以外の教科書の選定、大学入学試験の変更点に関わる情報を積極的に収集し、新教育課程の改善も視野に入れた検討を重ねました。

（２）進路意識の涵養を目的とした高大連携の模索

2021 年度入試より始まった入試改革と、2025 年度入試より予定されている新課程入試を含め、大学入試も大きく変化してきており、それに伴って進路に対する意識や理解はこれまで以上に重要なものとなってきています。そうした状況の中で生徒自身が望む進路を拓いていくため、これまでに培ってきた方針・指導を継続しつつ、より生徒に資する取り組みを南山大学の助言・協力を仰ぎながら模索しました。

２．教育・研究

（１）教育の ICT 化に向けた生徒 PC 端末１人１台体制の導入準備　★

教育の ICT 化に向けた環境整備の一環として、全教室へ電子黒板が配置され、Wi-Fi 完備の環境が実現していますが、2023 年度の中学 1 年生より開始する生徒 PC 端末 1 人 1 台体制について、具体的な検討を行いました。先行校の視察や情報収集も行い、PC の調達方法や機種選定、学校側のネットワーク設備の増強等を含めた運用計画の立案を行いました。これにあわせて必要な整備費用の一部に充てるため、「ICT 教育にかかる生徒負担金」を年次進行で増額改定することを決定しました。また、ICT 教育環境の向上に伴い、アカウントや情報機器およびソフトウェアの管理・メンテナンスにかかる教員の負担も年々増えてきています。その負担を軽減するため、南山大学情報センターとの連携により ICT 支援員を 2022 年 10 月から配置しました。これにより ICT 機器の管理・活用にかかる教員の負担軽減が一定程度可能となったため、2023 年度は ICT 支援員の勤務時間を増加して対応することを決定しました。ICT 環境を充実させながらも教員が教育活動により時間を割くことが出来るようなることで、さらに教育の質を向上させます。

（２）デジタル採点システムの導入

成績処理システムに加えて、デジタル採点システムを導入したことで、採点作業の効率化が図れ、考査後の生徒対応の時間を拡充することができました。また、改ざんの発生を防ぐことも出来ることに加え、採点結果をスコーレ（校務システム）へ貼り付けることも可能となり、素点確認での訂正申出も減少させる効果もありました。生徒用 PC 端末 1 人 1 台体制が実現した際に向けて、電子化した採点結果を生徒 PC へと「Microsoft Teams」を介して返却する方法や、中学入試での導入を目標に、分配採点などの方法についても、業者との打ち合わせを進めました。考査および回答返却においてはこれまでペーパーレス化を進めることが難しい部分がありましたが、今後はこの点についての改善に取り組みます。

３．社会貢献

（１）校内でのペーパーレス化の推進

2022 年度は、これまでに教職員および生徒の間で利用している Teams をさらに活用し、職員会議や校内での各種会議資料を Teams にて関係教職員にデータで配信したり、保護者への連絡についても、可能なものはプリント配付からメイル配信システムでの配信に変更したり、新型コロナウイルス感染報告を Teams の 1 つの機能である Forms を活用して報告・集計したりと、さまざまな場面でペーパーレス化を推進し、環境負荷を減らす取り組みを行いました。また Teams は教員と生徒間でのみ活用してきましたが、事務職員にも権限を付与し、事務部門でも紙媒体での回覧を可能なものは取りやめたほか、教員と事務職員との間の連絡の効率化にも役立ちました。

Ⅲ．継続事業

１．学校全体

（１）中長期を見通した将来構想の策定

「将来構想委員会」を中心として、生徒の優れた才能を発見してその個性を伸長できるように、「生徒に求めるべき学力」と「教科教育力の向上」について議論しています。その合意を基準として各教員が自覚と責任を持って自らの教育実践を見直します。中学校の卒業生 200 名がそのまま高等学校に進学することで、6 年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、ゆとりを持った効果的な一貫教育が可能です。また、カトリック学校としての男子部の使命、学園内他単位との連携、南山大学附属小学校との教育の接続、財政見通し等、内的刷新が図れるよう将来計画を継続して議論し、策定します。

（２）聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養

宗教の授業は、人間にとって大切な事は何か、何を目指して生きていけばいいのかを考え、心を豊かにしていくための時間であり、カトリック学校として何より大切にしています。中学校では最初に男子

部の歴史を学び、南山をよく知ると同時に、母校を愛する人物の育成を目指します。また高等学校では古今東西の世界の思想を学び、より広い視野の育成に資するよう、聖書に基づく価値観と宗教心を涵養します。

（３）新学習指導要領・高大接続改革への対応　★

生徒が希望する進路を実現できるよう、新学習指導要領が求める、社会に求められる実践的な力を育む本校独自のカリキュラム編成をしました。大学入学試験の変更情報に応じて、柔軟性をもって検討を重ね、高校 3 年生以降の学習内容も考慮して、旧学習指導要領に準拠する学年の生徒にも新しい力の育成を取り入れることにより､幅広い対応力をもつ生徒の育成に努めました｡定期考査の時間割や日程も、観点別評価に対応しながら、新学習指導要領に応じたものへと変更し、追試を含め、現在の成績処理システムが持つ機能の中で活用できていなかった部分の活用・拡充もできました。

（４）教職員の研修・研鑽・自己点検

教員研修は 2022 年 12 月にスクールカウンセラーに講師を依頼し、「暴力的な言動の SNS 拡散～架空事例に学ぶ学校緊急支援～」をテーマにいじめや体罰の未然防止に関して取り組みました。また、生徒による「中学校学習アンケート」･「高校進路調査」を分析した自己点検も継続して実施しました。さらに、2022 年度は愛知県私学協会の特別研究費助成金の交付を受けて英語科教員 1 名が教科に関する研究を行ったほか、校外で行われる各種授業研究や教員対象セミナーに複数の教員が参加し、意欲的に授業力・教育力の向上を図りました。

（５）スクールカウンセラー（SC）との連携による生徒へのサポート

週に 4 日間、2 名の臨床心理士の資格を持った SC が相談室を開室し、心のケアが必要な生徒および保護者が利用できる場を整えています。SC は、個人情報を堅守しつつ、該当生徒の担任・学年・カウンセリング委員会（教頭・指導部長・養護教諭）と密接かつ迅速な連携をとりました。さらに、外部の医療機関や相談機関とも綿密に情報交換を行ってきました。教職員･保護者が SC･外部医療機関等と協働して、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を作りました。

（６）危機管理体制

2020 年度以降、新型コロナ禍の影響で行うことができなかった「避難訓練」について、入学したばかりの中 1 を対象に 4 月に 1 回目を、避難行動は学んでいるものの、入学後 1 度も避難訓練を行っていない中学生全員を対象に 11 月に 2 回目を実施しました。これで、校内の全生徒が入学後 1 度は避難訓練を経験したことになりました。また、毎年行っている「防災用資料」の作成や、非常事態用の食料・日常品・簡易トイレ等の備蓄の追加・更新を行いました。

その他、校内の各種トラブル等にも生徒案件では学年団と指導部長および執行部での連携を、施設設備関連案件では、事務と執行部の連携をスムーズに行い、適切に対処することができました。

（７）保護者・在校生・卒業生・外部向け Web ページの拡充

保護者・在校生・卒業生だけでなく、男子部に興味・関心のある方々に向けての情報発信をさらに充実させていく一環として、フェイスブックでは学校生活の様子等を写真とともに英文・和文の解説付きで年間 169 件の記事を発信しました。また、男子部が主催する学校説明会・体験授業においては、学園 Web 受付フォームを活用した参加申込受付を実施し、参加者の定員管理ができるようになったほか、24 時間受け付けられるため、来場希望者の利便性も格段に向上しました。Web ページでは、生徒関係の届出様式のダウンロードを可能にしたほか、行事予定表を掲載するなど、これまで紙で手渡ししていた書類をデータで提供することにより、生徒・保護者・教員それぞれの利便性の向上に取り組みました。

（８）植栽の検討　★

緑溢れるキャンパスを目指し、四季を通じて生徒や教職員、来校者の癒しの場となるよう継続して植栽を実施しています。2022 年度は学校南東部にある教職員駐車場の緑地帯にツツジを植えました。また中庭の花壇では、2022 年度も理科の授業の一環として生徒たちが球根植えや種まきを行い、春はチュー

リップ、秋はコスモスが咲きました。花を通じて季節を感じ取れる空間を作り上げたほか、自然環境教育の場としても活用しました。

（9）コロナ禍における点検

2022 年度は 7 月から 9 月の第 7 波と呼ばれる感染拡大の時期がありましたが、できる限り「学び」の機会を取り戻すことを念頭に、工夫を重ねました。9 月の文化祭「飛翔祭」では、3 年ぶりに校内での開催とし、各クラスや文化部がそれぞれ展示発表に工夫を重ねたほか、一定の制限をしながらも保護者や卒業生、受験を検討する小学生とその家族の来場を得ることができました。また体育祭も半日の規模に短縮しながらも実施したほか、中学生の合唱コンクールは一堂に会することはできませんでしたが、学年ごとに「発表会」という形式で実現することができました。校外行事については、中 1「山の生活」、中 2「スキー訓練」、中 3「旅」、高 2「修学旅行」のほか、入学後校外学習ができていなかった学年では、中 2 が野外炊事を伴う遠足、高 1 が「旅」を行いました。新型コロナ感染により自宅待機を余儀なくされた生徒へのオンライン授業配信の対応も定着し、安定的に実施できました。

２．教育・研究

（1）図書館の充実

アクセスのよい立地にある図書館を、コロナ禍を経て再び「知の拠点」として利用の促進が図れるよう、縮小していた利用スペースを、利用可能な環境として拡充し、開館時間も段階的に拡充しました。図書配置についても、南山国際高等・中学校から譲り受けた書架を利用して、生徒にとってよりアクセスのしやすいよう工夫を行うことができました。また、生徒の要望に可能な限り応じる形で、蔵書の拡充を図り、生徒、教員ともに使用機会の向上へとつなげられました。他私立学校との図書館研究会への参加を通じて他校の事例見学も、図書館担当教員と事務職員で行いました。

（2）6 ヵ年の体系的な進路・進学支援

2022 年度は、中学生のキャリア教育として、中 1「市内探訪」、中 2「職業体験」、中 3「福祉体験」を実施したり、高 1・高 2 の「進路の日」では社会人・卒業生による講話、高 2「総合講座」では、名古屋大学の協力を得て様々な学部の教員による模擬授業を実施していただいたほか、大学説明会や南山大学学園内オープンキャンパスへの参加、進路調査や外部模試受験等、計画していた事業をおおむね実現し、進路・進学支援を行うことが出来ました。4 月に実施した高 1 の「オリエンテーション」では、新型コロナの影響により、当初予定していた京都方面での 1 泊での研修旅行が実施できず、代替活動として南山大学の協力を得て大学見学や模擬授業の受講等を実施しましたが、生徒にも好評であり有意義な機会となったため、次年度以降も学園内連携により、南山大学を活用して行事を実施することとしました。

（3）生活指導

「安全・健康・美化」のテーマに沿って、2022 年度も主体的に生活実践できる生徒の育成に努めました。始業式や終業式の式典後に生徒への情報提供や注意喚起を行いました。新型コロナへの対策として、毎朝登校後の手洗いや未検温者への検温実施を呼びかけて実施を指導したほか、各学年では、合同ホームルーム等を通じて、生活一般の指導や、スマートフォン利用安全に関する研修、自転車安全講習等を行い、生徒が実践するのに必要な知識の提供を行いました。また、中学風紀厚生委員会では、清掃担当職員の方に日々の業務で困っていることをヒアリングし、その結果を全校に知らせ、ごみの分別や美化への取り組みを促すといった生徒自身による主体的な取り組みが行われ、指導の成果が現れています。

（4）生徒の自治活動と社会貢献　★

生徒会行事については 2021 年度の教訓を生かし、時間をかけて検討し、時間短縮などの対策をして実施しました。前年度からのもっとも大きな変化として、文化祭を 3 年振りに対面開催しました。入場者制限や時間短縮、模擬店自粛など生徒にとっては決して満足できる条件では無かったものの、久しぶりに来場者のある従来の文化祭を経験できたことが大きな糧となったことと考えています。体育祭も文化祭同様 3 年振りに実施できました。安全に実施できる競技内容を熟慮し、午後の実施を取りやめ、午前中で終

えるプログラムとしました。生徒は久しぶりに全力でグラウンドを駆け抜ける喜びを噛みしめているように笑顔を見せていました。3 学期に予定していたスポーツ大会も一部種目を変更し実施することが出来ました。芸術鑑賞では、高校は落語と曲芸という伝統芸能を観覧しました。中学校はイリュージョン・マジック・アクロバットショーを観覧しました。生徒の満足度は非常に高く、どちらも学園講堂で実施できたことが非常に良かったと評価しています。

日常的な生徒会活動として、新型コロナウイルスにより活動が制限される中、生徒は話し合いを繰り返し、学内環境の充実と美化、講演会や講習会等の文化活動、機関紙『南窓』の発行と電子化など様々な企画・運営を通して自治意識・自立意識を醸成することができました。

例年清掃活動を共に実施してきた 3 校(男子部・女子部・中京大学附属中京高校)合同企画については、例年の活動時期である 3 学期に 3 校で集まることが難しく、2022 年度は見送りました。

社会福祉施設の児童生徒とともに活動するスプリングカーニバルは、3 年振りに実施できました。昭和区内の 3 つの児童養護施設にお声掛けをし、奇術部のマジックショー、ブラスバンド部の演奏を楽しんでいただきました。例年喜んでいただいている生徒お手製のぶたのぬいぐるみをお菓子とともに施設の子どもたちへお渡しすることができました。

（５）部活動

部活動は自主性・創造性、他人を思いやることのできる人間の育成を目指します。心身ともに健康で安全な部活動が継続できるよう、事故防止の対策・啓発として、熱中症対策・コロナ対応・AED 講習会等も開催しました。運動部ではバスケットボール・野球・ソフトテニス・硬式テニス・陸上・卓球・水泳・サッカー・ラグビー・柔道・アメリカンフットボール・バドミントン・剣道、各部が活発に活動しています。文化部では将棋・アマチュア無線・ブラスバンドが各大会で活躍をしており、写真・奇術等々が外部の発表会に積極的に参加しました。なお、ブラスバンドは恒例の女子部器楽部との合同コンサートを 2022 年度も開催しました。

（６）オーストラリア研修、ニュージーランド・ターム留学およびイタリア・キリスト教文化研修

新型コロナウイルスの感染拡大により、「オーストラリア語学研修」「ニュージーランド・ターム留学」ともに 2022 年度も中止せざるを得ませんでした。しかしながら、2021 年度から始めた国内の大学に在籍する世界からの留学生とともに、新しい価値観や異文化への理解を深め、グローバル感覚を養い、英語力の必要性に気づくことができる校内実施プログラム「エンパワーメントプログラム」を 2022 年度も夏休み中の 5 日間を使って実施し、25 名の生徒が参加して、国際的視野の育成の機会としました。

また、「イタリア・キリスト教文化研修」は、例年 12 月 23 日から 30 日までの 1 週間、クリスマスを祝うバチカン、サンピエトロ寺院のローマ、聖フランチェスコのアッシジ、フィレンチェ、ピサ、ミラノを訪れます。ヴェネツィア派・ロンバルト派などの展示が充実したブレラ美術館や、メディチ家の美術コレクションをはじめルネサンス絵画で有名なウフィツィ美術館、その他世界遺産となっている史跡を訪れ、現地では教会のミサにも参加するプログラムですが、2020 年度以降、2022 年度も継続して中止としました。

（７）広報活動の充実

2021 年度は塾や私学協会主催の説明会・相談会の多くが中止になるなど大幅な説明機会の減少がありましたが、2022 年度は学校説明会を 2021 年度に続き 3 部制で実施したり、塾訪問も大手だけでなく中小規模の塾、個人塾等にも精力的に足を運んだりと、本校の教育活動や魅力をより多くの方々に伝える努力を重ねました。塾が主催する受験希望者への説明会を、本校を会場に実施してもらったほか、フェイスブックや Web ページでの情報提供の頻度や質の向上に努めました。さらに、学園内設置校の合同学校説明会「トワイライト合同相談会」も 3 年目となりましたが、男子部への相談者数は設置校の中でも一番多かったほか、進学塾にも「総合学園である南山学園だからこそできる説明会」として注目をして

いただいています。結果として 2023 年度入試では、2022 年度と同程度の約 800 名近い志願者を得ることができ、合格者の入学辞退率も 2022 年度と比較して低かったことから、男子部の教育方針を理解して、男子部を目指して受験する児童が増えており、広報活動の効果が出てきていると評価しています。

（８）南山大学・学園内他単位・南山大学附属小学校との連携推進

南山大学附属小学校とは、秋に小学 5 年生児童の「中学校見学」を実施し、男子部を実際に自分の目で見て、進学のイメージを持つ機会を設けました。また、男子部ブラスバンド部が南山大学附属小学校へ出向いて演奏会も行ったほか、2023 年度学園内推薦入試では 30 名の児童が男子部を志願し、連携を継続しています。また南山大学とは、大学説明会・オープンキャンパス等への参加に加え、人類学博物館所蔵品を男子部校舎内で展示する「社会科展示」のほか、2023 年度の学園内推薦入試制度を利用し 10 名の生徒が南山大学へ進学しました。高大連携についても積極的に進めています。現状でなかなか進んでいないのは、学園内高中校との連携です。2023 年度以降新たな連携ができるよう検討を進めます。

３．社会貢献

（１）地域清掃

社会貢献の一環として、高校の野球部員が毎週木曜日の朝に学校周辺からいりなか駅周辺までの清掃活動を継続して実施しました。近隣住民の方からも評価されており、地域の中で男子部が教育活動を行えていることの恩返しの 1 つとして、引き続きこの活動を継続していきます。

（２）ボランティア活動

奇術部においては、年間 20 か所程度、老人福祉施設・子ども食堂・愛知県母子寡婦福祉連合会などの施設を訪問しています。加えて、養護施設応援イベントやひとり親家庭支援イベント「わくわくカーニバル」などの主催や、地域にあるいりなか商店街のイベントなどにも積極的に参加するなど、積極的に社会とかかわりを持ちました。八事小学校トワイライトスクールへは毎月訪問しマジックを通じた交流を行っています。また、男子部は青少年赤十字奉仕団にも登録しており、いのちと健康を大切にし、地域社会のために奉仕する活動を行いました。

４．その他

（１）学園内単位校における教職員の人事交流　★

学園内単位校との人事交流に努め、より良い実践を共有することで活性化に繋げていこうとしましたが、新型コロナの影響もあり、十分な交流の機会を持つことは出来ませんでした。次年度以降継続して取り組みを検討します。

（２）校務分掌の検討　★

6 ヵ年一貫教育を体系的に推し進めていくために、国際校からの移籍による専任教員数増加に伴う校務分掌を検討しました。2023 年度に 5 名の専任教員が移籍します。養護教諭も 2 名体制となることも含め、専任教員の充実が学習面だけなく、生活面での教育の充実にもつながるように教員の担当・配置を検討し、2023 年度より実行します。

（３）財政状況にかかる検討　★

2036 年度までは校舎建築の借入金返済が続くことに加え、社会情勢による光熱費の高騰、ICT 環境整備を含めた今後の施設・設備のさらなる充実にかかる設備投資など、学校財政については、依然として厳しい状況が続いています。支出削減に努めることはもちろんのこと、学納金改定以外の手段での収入増加に向け、各種補助金の積極的な獲得に向けた取り組みや、私学助成の充実に向けた請願活動に取り組みを行ったほか、寄附金収入の増加に向け、クレジットカード決裁による寄附受入について検討しました。また、学納金収入が学校の収入の大部分を占めることから、広報活動の充実による生徒確保も財政改善に向けた大切な事項として取り組みました。なかなか目に見えた効果が上がらない現状がありますが、収入増と支出削減に引き続き取り組み、安定した財政運営に向けた努力を継続します。

以　上

２０２２年度南山高等学校・中学校（女子部）事業報告

★は「南山学園中期計画」(2020 年度～2024 年度)において取り組む事項と関連している項目です。

Ⅰ．２０２２年度事業の概要

新型コロナウイルス感染症対策を講じながらも、学校活動全般にわたりかつての日常を少しずつ取り戻してきました。海外研修の再開は見送ったものの、行事関係では、学校祭(前夜祭・文化祭・体育祭)や宿泊を伴う研修旅行(中 3 長崎・高 2 長崎と天草・熊本)や静修会(中 1・中 2)、遠足(中 3・高 2・高 3)、日帰りの自然体験活動(希望者参加型)などの校外での体験的プログラムを実施しました。日常の学校活動については、ICT 環境という学校インフラを最大限活用しながらの授業展開、生徒一人一台タブレット端末の学習や課外活動への活用も随分と定着してきました。

2022 年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

・新カリキュラムへの移行に伴い、新校時表による授業を実施しました。
・生徒一人一台のタブレット端末の幅広い活用が定着してきました。
・構内に整備された ICT 環境をフル活用して校務の効率化に努めました。
・第 1 体育館の空調機の一部(大型 2 台・小型 1 台)を入れ替えました。
・現行の制服に加え、スラックスやカーディガン、ベストを導入しました。

2022 年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

・精神的なストレスを抱えた生徒に対して、きめ細やかなケアとサポート体制を強化しました。
・ICT 環境の活用について、研究授業や公開授業を実施しました。
・財政状況改善に向け、一般寄附金募集の周知を図るとともに、経費削減に努めました。

Ⅱ．新規事業

１．学校全体

（１）新カリキュラムへの移行開始　★

2022 年度から新カリキュラムがスタートしましたが、平日の授業時間数増(7 限授業日増)に伴う影響を軽減すべく、生徒会活動や部活動などの課外活動の時間確保の観点、引き続き新型コロナウイルス感染防止策を講じたなかでの学校生活を行う必要があることから、新校時表(1 コマ 47 分授業・8 分休み時間)による授業を実施しました。中学の「総合的な学習の時間」については、業者提供のプログラム(中 1 は「新しい大学入試問題-日本アクティブラーニング協会」、中 2 は「ソーシャルチェンジ-教育と探求社」、中 3 は「ENAGEED-エナジード」)を学年会主導で実施しました。また、高校の「総合的な探究の時間」については「総合」の科目を新たに設け、高 1 から年次進行で一人ひとりの興味関心に基づいた研究活動を開始しました。

課外活動、とりわけ部活動のあり方をめぐっては生徒会、教員組織双方で議論を進めてきましたが、継続課題となっています。

２．教育・研究

（１）生徒一人一台の端末を活用した授業や課外活動の実践研究　★

BYOD(Bring Your Own Device)方式による生徒一人一台のタブレット等端末(iPad を推奨)導入から 2 年が経過し、端末使用の最低限のルールも生徒たちと協働で策定(2022 年度一部改訂)し、概ね定着した感があります。授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」の利用にも慣れ、教員からの一方向ではない

双方向型の授業に役立てており、生徒会活動や部活動等の課外活動にも幅広く活用されるようになってきました。また、オンライン動画講座の「スタディサプリ-リクルート」も、生徒の学びを止めない手段の一つとして学校全体で契約し、授業や課題等に活用しています。

（２）専任教員一人一台 PC 環境の運用開始　★

教員の校務軽減および情報セキュリティ強化のため､2019 年度に学園共通統合型校務支援システム(スコーレ)を導入し、2022 年度から専任教員一人一台ノート PC および無線 LAN 環境が整い、成績処理の際に PC が空くのを待つ事態が解消されました。また、タブレット端末についても、授業はもちろん校務全般に活用の幅が広がっています。ペーパーレス化も一層進み、年間概ね 50 万円を超える経費削減に寄与しています。

３．施設・設備

（１）第１体育館空調機の入れ替え

現在、体育館内に 5 機ある空調機のうち 2 機は稼働不能状態で、残った 3 機も不具合で冷房の効きが悪い状態でした。夏場の生徒の熱中症対策をはじめとした安全管理上の観点から、3 機(大型 2 機・小型 1 機)の入れ替えを行いました。

４．その他

（１）制服に新アイテムを追加

全国的にはジェンダーレス制服の導入が拡がっていますが、本校でも生徒会の特別委員会のメンバーを中心にモニター活動を実施し、2022 年秋から現行の制服にスラックス・カーディガン・サマーベストの新アイテムが追加されました。

Ⅲ．継続事業

１．学校全体

（１）キリスト教精神に基づく人間観、世界観、学園の教育モットーである｢人間の尊厳のために｣生きる人となるための価値観の醸成

2022 年度は新型コロナウイルスへの感染対策を講じながらも、多くの行事が再開されました。中 1・中 2 の静修会では校長や指導司祭による宗教講話を現地で実施しました。中 3 の長崎研修旅行と高 2 の長崎・天草・熊本研修旅行の折には、長崎の浦上教会で前校長(西経一神父)の講話を聞き、平和の祈りを捧げました。また、12 月にはクリスマス聖式を南山教会(2021 年度同様中 1 のみ参加・他学年は HR 教室にてオンライン参加する形で)で行いました。中 1 の希望者参加のクリスマス修養会も少人数でしたが多治見修道院にて日帰りで実施し、学園創立者の墓参も行いました。

日々の朝の聖歌とお祈りは欠かせません。聖歌については、感染予防の観点から音楽部の録音テープに合わせて歌う形を継続しました。校長や指導司祭による講話も月 1 回程度のペースで金曜日の終礼時に実施しました。また、月 1 回のミサも放課後に行いました。3 月には東日本大震災犠牲者のために祈りを捧げる集いも行いました。

残念ながら、大事なミッションの機会でもあった音楽部員を中心としたクリスマス聖歌隊コンサートや、器楽部員有志による医療施設でのクリスマスコンサートについては、2022 年度も再開には至っていません。

（２）６ヵ年の体系的な一貫教育の確立　★

中高 6 ヵ年の体系的な一貫教育の内容を科目ごとに明記した『中学学習の手引き(教科別)』･『高校 学習の手引き(教科別)』をそれぞれ入学時に配付しました。また、年度初めに、学習についてのアドバイスやさまざまな学問分野の紹介、職業紹介、大学入試の仕組み等を詳述した『学年別進路の手引き』を中 3 から高 3 に配付しました。1 月には、主に卒業生の社会人や大学生等によるアドバイスをまとめた

『進路の手引き・別冊』を全校生徒に配付しました。6ヵ年のゆったりした流れのなかで生徒たちが自らの将来をじっくりと構想できるよう、合わせて計 11 冊の『進路の手引き』を在学中に配付しています。

生徒たちが安全・安心に生活できるよう、中1には生活指導部長による「スマートフォン等の使い方」に関する講話、中2には愛知県弁護士会による「いじめ予防出張教室」、高1には「ネットいじめ対策講座」を実施しました。

6ヵ年の縦のつながり・交流としては、部活動はもちろん、文化祭や体育祭の行事を中高一緒に開催しました。6月には中1～高2対象に、芸術鑑賞会「柳家花緑の落語バレエ」を実施しました。高3の3学期の特別授業では、6ヵ年の集大成として高3担当以外の教員も授業を担当し、最終学年の最終学期にふさわしい有意義な授業を実施しました。

進路指導関係では、高1を対象としたOG大学生によるオンライン(Zoom)パネルディスカッション(4月)、キャリア教育の一環としての外部講師授業(6月)、中3対象の外部講師による進路講演会(11月)等を実施しました。また、中学生対象の「(中高一貫校向け)学力推移調査」、高校生は「外部模試」を実施し、6ヵ年を通した系統的な学習・進路支援体制を推進しています。

（3）第1体育館建て替えの検討　★

建築基準法改正に伴い変更が生じた建て替え計画を見直すため、専門委員会を設けており、引き続き学園内関係部署とも連携・折衝しながら建築場所等を含めた協議を進めています。

（4）精神的なストレスを抱えた生徒に対するケア、サポート体制の強化

精神的な不調を訴える生徒が増加傾向にあることから、2021 年度からスクールカウンセラー(臨床心理士)の勤務を週3日(月・火・木)に増やしました。生徒の多様化に伴い、広い視野をもったサポート体制をめざして教育相談とサポート委員会を一本化し、組織名を「教育相談委員会」と改めました。各学年会と連携してケアの必要な生徒の個別なサポートを組織的に取り組んでいます。学年主任を中心とした隔週の報告会では、各学年の生徒が抱えている問題点などを共有しています。教育相談委員会主任、および補佐、養護教諭、生活指導部長、教頭、副校長、スクールカウンセラーで構成される報告会も毎月1回開いています。また、このような問題を抱える生徒との橋渡しになっている養護教諭については、これまでは常時2名体制でしたが、2022年度より専任教員を1名増員しサポート体制を強化しました。

2022年度は、不調の一因ともなっている成績不振者への手当てを拡充すべく、卒業生の協力を得る形でのチューター制の導入に向けて検討し、2023年度から本格導入を図ります。

（5）家庭(保護者)とのより密接な連携の推進

新型コロナウイルスの影響で、授業参観は2022年度も見送りましたが、学年別保護者会、クラス別保護者会、個別面談、部活動の保護者会については可能な範囲で実施しました。保護者対象の講演会や宗教講話も実施しました。また、2月より「ウェブでお知らせ」試用版を導入し、ウェブで毎朝の欠席や遅刻連絡を朝礼前に受け取ることが可能になり、学校からの連絡等もウェブ主体に切り替えていく準備を進め、2023年度からの本格導入を決定しました。

（6）植栽管理についての検討

校舎建築から年月が経ち、また近年の気候変動により、植栽という資本を失っていく状況にあります。対処として、校舎建築当初のコンセプトおよび植栽の状況を熟知する業者のコンサルティングを活用して費用対効果の高い、かつ教育の観点もふまえたメンテナンスを引き続き検討し植栽の入れ替えも一部行いました。猛暑対策として自動灌水システムの保守・点検等も随時行いました。

また、高くなりすぎて台風時に倒木の危険性が指摘されていた校舎北東側の3本のヒマラヤスギを伐採し、弱っていた低木の手入れを行い、桜の苗木を数本植樹しました。

２．教育・研究

（1）国際的視野の育成

新型コロナウイルスの影響で、2022 年度もこれまで実施してきた 3 つの海外研修プログラムは中止しましたが、英語科主催の「エンパワーメントプログラム」と題する新しい形の短期国内研修を実施しました。本プログラムは、将来の日本を担う潜在能力の高い日本の若者を対象に、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、カリフォルニア大学などの欧米をはじめとする現役の大学生・大学院生を招聘し、ディスカッションなどを通じて自らのあり方・生き方について考えるものでした。英語の受信力と発信力を向上させる効果が期待できるため、2023 年度についても同様の企画の実施を検討しています。

また、巣鴨中学校・高等学校で行われた「Double Helix: Translational Medicine」という 5 日間のプログラムにも 6 人の生徒が参加しました。

（2）男女別学の特色を生かした教育の推進　★

愛知県下唯一の男女別学校という特色を生かすため、男子部ブラスバンド部・女子部器楽部の「ジョイントコンサート(第 40 回)」を開催しました。その他、生徒自治会レベルでの交流も継続しました。

（3）特色ある教育づくり

2009 年度から世界 117 カ国が参加する文部科学省指定事業「地球学習観測プログラム(グローブ)」の指定校として GLOBE 委員会を設置し、生物・水質・大気の観測調査をしています。2015 年度に国立研究開発法人科学技術振興機構の「中高生の科学研究実践活動推進プログラム(学校活動型)」に採択されました。学校が主体となり、学校と大学等が連携・協働し、中高生自ら課題を発見し、科学的な手法にしたがって進める探究活動の継続的な取り組みを推進するプログラムです。2018 年度でプログラムは終了しましたが、学校独自で引き続き活動を継続しました。

理科主催の特別企画として、中 1 動物園実習、中 2 プラネタリウム見学、JAXA や国立天文台による授業やさまざまな分野の研究者による「出前授業」を継続しました。家庭科と保健体育科が共同で 2019 年度に初めて実施した近隣の 2 つの保育園での保育実習は 2022 年度も新型コロナウイルスの影響で中止しました。

社会科では 7 月に、「JICA 中部なごや地球ひろば訪問プログラム」や「『石灰岩』と『湧き水』のまち美濃赤坂・大垣を歩く！」と題したフィールドワークを実施しました。また、自然体験活動委員会が企画して、夏休み中には 2 つのコース(白川郷コース・伊勢志摩コース)の自然体験プログラム、春休み中には「春の近江神宮散策と比叡山延暦寺ハイキング」を実施しました。

中 3 は長崎への研修旅行(3 泊 4 日)、高 2 は沖縄の代替地として長崎・天草・熊本への研修旅行(3 泊 4 日)を実施しました。

（4）大学入学者選抜試験への対応

3 回目を迎える「大学入学共通テスト」に向けて、大学入試センターや各種教育業界からの情報なども分析しながら、必要な対策を講じました。

（5）英書の多読の実施

英語科では、大学入学共通テストに向けて 4 技能(聞く、話す、読む、書く)の育成を図るため、中 1 から高 2 においては授業内、全学年で授業外の英書の多読活動を行っています。また、希望者向けの朝多読や、休み時間でも使える読書室を設けました。将来的には iPad を使っての多読、多聴が同時にできるよう計画中です。現在の蔵書は約 5,000 冊、一部入れ替えも随時行っています。

（6）キャリア・トライアル（職業体験プログラム）

2016 年度からキャリア教育の一環として、夏休み期間中に高校生(高 1・高 2)の希望者を対象とした職業体験プログラム(3 日～5 日間)をスタートさせました。2021 年度は募集定員を拡充し実施しましたが、年々ニーズが増えていることから、2022 年度から新カリキュラムへ移行するのを契機に、高 1 の総合的な探究の時間の一環として組み入れることを決定・実施しました。実施後は中 3 に向けた紹介動画を作成しました。また全生徒が報告書を作成し、その一部を「進路の手引き・別冊」に掲載しました。中

3は6月に「総合探究企業訪問プログラム」と題した企業訪問を初めて実施し、後日報告会を開催しました。

（7）性に関する教育

保健体育科・家庭科の授業で性に関する教育は実施していますが、加えて毎年高2・中2を対象に産婦人科医による性に関する講演を実施しています。2022年度もオンライン(Zoom)で実施しました。

（8）教職員の研修・研究

教員の研鑽・自己点検に資するため、学校生活、学習、進路、行事等についての生徒アンケートを全学年で実施しました。ICT委員会が中心となって研究授業や、授業公開週間を設けるなど、ICTを活用した授業実践等についても意見・情報交換を図りました。2022 年度の教育・研究活動をまとめた『年報』33号を発行しました。

年に2回実施している教員研修については、教職員の意見を聞きながらニーズに合ったプログラムを策定していますが、2022年度は「Action Card」を用いた緊急時の対応について、専門講師を招いてロールプレイング方式の訓練等を実施しました。

（9）南山大学・南山大学附属小学校との連携の推進　★

高校生の南山大学学園内オープンキャンパスおよび保護者向けの南山大学キャンパス見学会、高1対象の南山大学の先生による特別授業「南山大学セミナー」を実施しました。また、心理人間学科の先生に依頼して 2019 年度から始めた中 2 を対象としたコミュニケーションスキルアップのための講話を実施し、中2の保護者向け講演会も行いました。社会科主催で中1希望者による南山大学人類学博物館見学を実施しました。その他インターンシップ研修生としての南山大学の学生を受け入れました。

南山大学附属小学校との連携については、小中高協議会や同引継ぎ分科会等を例年通り実施しましたが、双方の教員が交流・意見交換できる機会を設けることは叶いませんでした。

３．施設・設備

（1）ICTを活用した教育環境の保守・点検・更新　★

ICT 環境は一通り整備されましたが、これまで ICT に精通した一部の教員に依存してきたことは確かです。全校的な運用に際しては、日常的な ICT 環境の保守・点検・更新等については専門の支援員を配置し(週3日勤務)、教員が本来の業務に専念できるよう、授業時の ICT 機器のトラブル処理や生徒対応、教員の ICT スキルアップを図っています。

４．社会貢献

（1）地域清掃

近隣住民の方への感謝の気持ちも込めて、学校周辺の地域清掃を含む「全校一斉大掃除」を、年に3回実施しました。

（2）募金活動

寄附活動として、宗教活動委員会の呼びかけによる、クリスマス献金(教会を通じた世界児童福祉・国際協力援助・国内生活困窮者援助等のための献金)、および生徒自治会の呼びかけによる、学校祭収益金の寄附(社会福祉活動・国際医療活動・私学奨学金等)等の寄附活動を続けていきます。トルコ・シリア大地震に際しては生徒会が呼びかけて緊急募金を行い、ユニセフを通じて被災者のための支援金を送りました。

東日本大震災直後に始まった、教員・生徒有志が参加しての「被災地支援チャリティーコンサート」(11回目)を開催し、募金活動やチャリティーに関連した物品販売なども行いました。

（3）ボランティア活動　★

新型コロナウイルスの影響で、これまで実施してきた各種ボランティア活動はいずれも保留状態にありますが、状況をみて再開していきたいと考えています。一方で、高2の数人の生徒たちが、総合的な探究の時間を通して出会いのあった「こども食堂」でのボランティア活動をするなど新しい動きも見ら

れました。

（４）地域貢献

バンテリンドームナゴヤ・南山大学附属小学校グラウンド等で行われている日本サッカー協会主催ユニクロ共催の JFA ユニクロサッカーキッズ企画(愛知県内児童対象)に、サッカー部の生徒がボランティアで指導に参加しました。

５．その他

（１）危機管理体制の確立

守衛室常駐体制を維持し、教員による授業中・放課後の校舎内巡回を継続しました。また、火災・地震対策のための避難訓練を年 2 回実施しました。2019 年度の内部監査で指摘のあった大災害発生後の事業継続計画(BCP)については暫定的な策定を終えて周知していますが、今後は学園全体の BCP との整合性を図っていく予定です。

危機管理委員会、災害対策本部、生活指導部、教育相談委員会、いじめ対策委員会等と、外部諸機関(警察・消防署・児童相談所・医療機関)との連携については、随時行いました。

緊急連絡等の体制については、双方向的なものに拡充すべくメイル配信に代わるものを検討してきましたが、2023 年度から新システムに移行することを決定しました。

宿泊を伴う学年行事等については、緊急事態発生時の対応マニュアルを整備して迅速な対応ができるように備えています。

（２）広報活動の充実

学内における入試説明会(5 月)と学校説明会(11 月)の実施、年間 30 回以上の外部説明会・個別相談会への参加については、予約制やさまざまな制約のかかるなかでも継続しました。また、校舎見学会や体験授業を増やすなどして受験生のニーズに応えてきました。Web ページやフェイスブックで学校の日常を広く発信し、女子部への理解を深めてもらえるよう努めてきました。75 周年記念動画も完成し、既に公開されています。

（３）財政改善に向けた検討

北・南校舎の建築から 16 年が経過し、2021 年度は空調機の全面入れ替えを行いましたが、他にも修繕等を要する箇所は多々あります。築約 60 年の第 1 体育館はもとより、築 30 年を迎える東校舎、とりわけトイレ設備の更新は喫緊の課題でしたが、2 階トイレの改修(洋式化)を 2023 年 3 月に終えました。

ただ一方で、収支均衡に向けた財政改善に向けた努力もしていかなければなりません。2023 年度からは年次進行で、月額 3,000 円の学納金値上げを行い、収入増の見込みです。2020 年度から開始した一般寄附金の募集についても引き続き周知徹底を図るとともに、事業計画等についても中・長期的な視点から精査することに努めています。

以　上

２０２２年度南山国際高等学校・中学校事業報告書

★は「南山学園中期計画」(2020 年度～2024 年度)において取り組む事項と関連している項目です。

Ⅰ．２０２２年度事業の概要

南山国際高等学校・中学校は 2022 年度末をもって閉校しました。2022 年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス(COVID-19)感染防止を進めるため、教育活動は制限をされてきました。しかし、その中でも徐々に活動を再開してきました。南山学園理事会が表明した「最後の 1 人まで、入って良かったと思える学校」を実現するため、南山学園と南山国際高等学校・中学校が一体となり、生徒・保護者・卒業生のご理解とご協力を得て、工夫を凝らし、活動を続けることができたのではないかと考えます。

2022 年度の主な事業は次の通りでした。

・スコーレ(学園共通統合型校務支援システム)、Google for Education(学習管理アプリケーション)、一斉メールシステム等をさらに活用しました。

・帰国生の受け入れの機会を提供しました。

・英語教育、ICT 教育、個別指導等を柱に、教育プログラムを進めました。

・感染対応策を含め、安全で安心できる学校環境を整備しました。

・PTA、卒業生、同窓会、他の単位校との連携を深めました。

・閉校後の証明書等の発行システムを学園と連携して構築しました。

・閉校後のモニュメントの制作、閉校セレモニー等の準備を進めました。

Ⅱ．新規事業

１．学校全体

（１）閉校にともなう諸作業　★

施設・設備・備品等の処分や学園内外での再利用の作業を、学園全体の協力をいただき段階的に進めました。また工事等により近隣住民の皆さまにご迷惑をかける事のないよう、学園と協力し説明を行いました。なお 2020 年度から実施している本校教員の学園設置校への計画的な移籍プログラムも完了しました。

（２）関係各位・関係組織・団体へのお礼　★

本校が開校し現在に至るまで、多くの個人、組織・団体の皆さまに物心両面にわたって支えていただきました。閉校のお知らせに合わせ、感謝の意をお伝えしました。

Ⅲ．継続事業

１．学校全体

（１）効率的な学校運営、閉校後の証明書発行等のシステムの活用　★

学校の小規模化に対応して運営組織の見直しを行いながら、スコーレ（学園共通統合型校務支援システム)、やGoogle for Education（学習管理アプリケーション)、一斉メイル配信システム等を、成績処理、業務の効率化、教育活動等に活用しました。ICT 教育、双方向コミュニケーション、防災対策等の多様な面でデジタル化を進め、効率的な学校運営を行うことができました。これと並行し閉校後(2023 年

度以降)の在籍証明書・成績証明書などの発行が可能となるように、スコーレ(学園共通統合型校務支援システム)を活用して、成績証明書・調査書をPDF化するなど、そのシステム化を行いました。閉校後は学園のWebページから申請できるようにしました。

（２）生徒募集・編入の実施　★

2022年度も編入試験を計画しましたが、受験希望者はいませんでした。

（３）安全で安心できる学校の実現　★

行政・関係機関および学園危機管理委員会と連携しながら、緊急時の対応マニュアルを見直し、安全で安心できる学校づくりに努めました。特に小規模校であることを活かして感染対策を徹底し、クラスター発生や長期の休校等を回避することができました。気象災害、南海トラフ大地震、Ｊアラート、熱中症等のリスクへの対応に関しても、各家庭と双方向での情報共有を強化し、施設・設備のハード面の点検、災害時の初期対応および心肺蘇生訓練、緊急時の防災備品や携帯用品の整備等を行いました。

また、キリスト教精神に基づく「いじめ防止対策基本方針」を遵守し、毎学期に実施する全校生徒アンケートも活用し、「いじめ」があった場合、迅速な対応をするとともに、総合的な視点で「いじめ」を生まない学校をめざしました。世界各地から帰国した生徒一人ひとりにとって、安心できる母校となり、不安や危険を感じた場合、生徒や保護者がすぐに相談できるような信頼関係を育てていく不断の努力をしました。SNS の普及などの生徒を取り巻く環境に対応し、専門機関とも連携して啓発活動や研修を行いました。

（４）保健室業務・スクールカウンセリングの実施　★

保健室では、養護教諭が生徒の傷病等の対処に加え、精神的な悩み等に対応できるようにしました。また、スクールカウンセラー(臨床心理士)による通常のカウンセリングに加え、子育てに悩む保護者からの相談にも対応しました。

（５）教育全般の自己点検　★

保護者を対象にアンケートを実施し、PTAの協力を得て学校関係者評価を行い、公開しました。日常的に保護者会、PTA 活動等を通して寄せられる要望等も含め、自己点検・評価委員会等の各校務組織で分析・検討し、最終年度の行事予定や学校運営にも反映させました。

（６）南山学園内連携事業の推進　★

学園内の単位校と連携を進め、南山学園だからこそできる教育を目指しました。南山大学各学部と「学校推薦型選抜入試（指定校入試）」「外国高等学校卒業者等入学審査」等を通して高大連携を進めながら、①南山大学外国語教育センターでの英語授業、②南山学園内オープンキャンパス参加、③本校PTAの南山大学見学説明会（オンライン）等を実施しました。また本校で使用しなくなった備品等は、2023年度以降に他の単位校に移譲し、有効活用を図ります。なお2023年度以降、本校卒業生の教育実習は、南山高等・中学校（男子部・女子部）・聖霊高等・中学校で受け入れていただけます。

（７）PTA活動との連携　★

感染防止のため、保護者が来校する機会を制限せざるを得ませんでしたが、PTA予算からの教育活動への助成、各種行事参加等を通じて、会員数が減少する中にあっても学校を支える重要なパートナーとして活動をしていただきました。10月に2021年度同様、劇団四季劇場でPTA助成により「芸術鑑賞」を実施することができました。「南山国際ブリテン」と「PTAだより」も合同で編集しました。またカフェテリア営業終了後の昼食サービス（冷凍食品等の販売）にも支援をしていただきました。

（8）生徒表彰「校長賞」の実施　★

生徒が努力した成果に対して栄誉を称え、学年から選ばれた生徒 1 名に「校長賞」を授与しました。

（9）『記念誌』・モニュメント・閉校イベント等の準備　★

旧国際部も含む国際校『記念誌』を発行しました。3 月 5 日(日)に学園主催による南山国際高等学校・中学校の閉校式を行いました。南山国際高等学校・中学校の全貌を残すためにジオラマ模型を作成し、南山アーカイブズに設置しました。また、将来的に国際部・国際校の存在を残すために旧国際部跡(現ライネルス館)前にモニュメントを設置しました。

２．教育・研究

（1）教育環境の改善　スコーレ(学園共通統合型校務支援システム)の活用　★

南山学園の国際的な教育の一端を担い、帰国生徒教育の質の向上を図る教育を継続し、各自の特性をより伸長させていくための教育を日常的に行いました。Google for Education(学習管理アプリケーション)と Chromebook を効果的に利用することで授業の質の向上につながりました。特に、1 学年となり生徒数が少なくなったことで Chromebook は一人 1 台の専有的な使用が可能となりました。また、「南国祭（文化祭)」等の学校行事については、生徒・教職員が一体となって思い出に残る開催ができました。

スコーレ(学園共通統合型校務支援システム)の活用により、成績の処理・通知表・成績証明書・調査書の発行などをスムーズに行うことができました。

（3）宗教教育　★

カトリックのミッションスクールとして、キリスト教思想の授業を開講し、多言語による朝の祈り、校内ミサを行い、キリスト教精神の涵養を図りました。

（4）語学教育　★

「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学び、表現する」のことのできる高いレベルの語学力を、すべての生徒が修得できることをめざし、次のような独自の授業プログラム実施とともに、英語検定、TOEFL 等の資格取得を積極的に呼びかけました。 具体的には、①習熟度別授業の展開、②南山大学外国語教育センターでの英語の授業受講、③ワールドプラザ、④日本語弁論大会等を実施しました。

（5）ICT 教育・情報リテラシー　★

視聴覚教室およびメディアセンター常設の PC に加え、2020 年度より休校・自宅待機対応として本格導入した Google for Education、PTA の支援により購入した Chromebook(64 台)やプロジェクタ等を、さまざまな授業、生徒会活動、部活動、家庭学習、個別指導、諸連絡等において利用し、日常的に実践的なアクティブラーニングを実現しました。同時に、生活指導や情報の授業を中心に、総合的な情報リテラシーの涵養を進めました。

（6）サマースタディ（夏期集中講座）　★

夏期休業期間を利用し、オンラインも併用して各教科の補習・補充授業、英語検定試験対策、小論文指導等を「サマースタディ」の名称で開講しました。

（7）留学・国際交流

アメリカノースカロライナ州ホープウェル高校との短期留学プログラムは、ここ 2 年感染拡大により実施できませんでした。閉校により、長年続いた短期留学プログラムはなくなりました。豊田市のダービーシャー高校生派遣プログラムも 3 年生のみとなるため、辞退しました。

３．施設・設備

（１）教室設備等　★

教育環境や安全性に配慮して補修を実施しました。学校規模縮小にともない使用しない教室・施設・設備の有効活用を進めました。建築構造部だけでなく、非構造部材の安全性も引き続き点検し、必要な修繕を実施しました。

（２）エネルギー管理委員会による省エネの検討・実施　★

夏期の熱中症・食中毒・感染症等のリスクを軽減できるようエアコンを適切に使用しながら、南山学園環境宣言を踏まえ、電気使用量の削減に取り組みました。

（３）スクールバス・昼食提供　★

通学バス交友会役員会で 2022 年度までの運行計画に基づき、感染対応を徹底しながら安全で快適な運行を行いました。閉校後にスクールバスを聖霊高等学校・中学校に譲渡するための手続きを行いました。

PTA からの寄附を活用した冷凍食品のセルフ販売や、時々のイベントに合わせた販売車等により、安心して昼食がとれるようサポートしました。

４．社会貢献

（１）学校施設の社会的利用　★

施設の貸出等を実施し、①近隣の豊田市民（広域避難場所：体育館、グラウンド）、②豊田市ジュニアオーケストラ（練習場所：講堂）など、地域のニーズに応えました。

（２）地域交流　★

豊田市の「環境美化の日」に合わせて、生徒有志による学校周辺の清掃活動を行いました。

（３）同窓会活動（南山常盤会およびアルマ・マーテル）　★

10 月に卒業生による文化祭を行い 1600 名以上の参加がありました。12 月にはアルマ・マーテル企画として卒業生による演劇が行われました。3 月 5 日の閉校式後に感謝式を行い多くの卒業生が参加しました。

以　上

２０２２年度聖霊高等学校・中学校事業報告

★は「南山学園中期計画」(2020 年度～2024 年度)において取り組む事項と関連している項目です。

Ⅰ．２０２２年度事業の概要

1949 年に名古屋市中区三の丸で誕生した本校は、2020 年度に完成した瀬戸キャンパス内の新校舎で新たな出発を迎えました。南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」と本校創立時の建学の精神である「光の子として生活せよ」を中心に据え、多くの人々によって育まれた伝統的な教育を継承しながら、未来の聖霊生のために新しい時代に輝く学校を目指しています。

2022 年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

・ 教職員研修を充実させました。
・ 「創立 75 周年記念」記念行事に向けて、実行委員会を設置しました。
・ 中学 1 年生の数学の授業において、授業補助員の試験的配置を実施しました。
・ 部活動全般の見直しを推進しました。
・ 生徒の安全に配慮して、やや薄暗かった新乙女坂に街灯を増設し、生徒玄関前の階段に手すりを新設して転倒対策をしました。

2022 年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

・ ICT 教育環境整備計画の実践と検討を行いました。
・ 新しい施設設備の確認を進め、さらに今後必要となる機器整備を進めました。
・ 新しい教育課程を完成させるとともに各教科の専任教員数を点検し、中長期の教員採用の計画を検討しました。
・ 2022 年度聖霊中学校の入試について、入試日程や入試課題等を総合的に再検討しました。
・ 聖友会が運営するスクールバス、本校伝統行事である「EVE, My 青春！」、海外研修など本校の生命線とも言える数々の事業について、更なる改善を重ねました。
・ 本校教職員の働き方改革について検討し、着手可能なところから順次進めました。
・ 完成した新キャンパスを最大限活用し、教育で「選ばれる学校」となるよう広報活動を強化しました。

Ⅱ．新規事業

１．学校全体

（１）教職員研修の充実

新教育課程対応等の現職教育や、危機管理や安全教育（AED 講習・教職員の防災訓練・刺股など不審者対応訓練）などの具体的な計画を検討しました。2022 年度は、生徒のメンタルケアを重視して①臨床心理士による「生徒の SOS を受け止める－気持ちの理解と対応について」②臨床心理による「不登校の子どもたちへの支援」③トランスジェンダーによる「LGBTQ＋」といった内容の研修を行ないました。これらは全て「生きやすさ」をテーマに据えました。

（２）創立 75 周年記念行事に向けて実行委員会を設置

2024 年度に迎える「創立 75 周年記念」記念行事に向けて、実行委員会を設置しました。式典・記念講演・記念行事・記念誌の作成などの計画・準備を進めました。「75 周年・聖霊に関わっていただいた方々への感謝を表す」をテーマとしました。2023 年度より、具体的な実行プランの作成と資料収集を行います。

２．教育・研究

（１）授業補助員の試験的な配置

中学１年生数学の授業において、授業補助員を各クラス週１時間、試験的に配置しました。授業の円滑な展開や個々の生徒へのきめ細かなサポートを行いました。年度末に行った自己点検において、生徒の観察・授業者との綿密な打合せ・授業展開の工夫・きめ細やかな対応などによって、授業補助員を導入したことによる学習意欲の向上や授業の円滑な展開に効果があったことが、授業アンケート等による数値で確認されました。単年度の改善効果が確認されましたが、経年での効果検証のため、2023 年度も試験的な配置を継続します。

（２）部活動全般の見直しを推進

働き方改革に対する社会的要請も視野に入れながら、複数顧問体制を手厚くすることや、外部コーチの活用を試みました。特に、部の廃止に関するルールを確立するなど、部活動全般の見直しを進めました。生徒への安全かつ持続可能な課外活動支援を目指しました。まずは現行のルールにおける支援のバランスを考え、父母の会カリタスからの活動援助金の見直しとルール改定に着手しました。今後は、1 月にとった顧問別アンケートの結果を元に、部活動全般の見直しを推し進めます。

３．施設・設備

（１）新乙女坂に街灯の増設、生徒玄関前の階段に手すりを新たに設置

スクールバスのロータリーから生徒玄関までの「新乙女坂」を、下校時に明るくより安全にするために、街灯を増設し、生徒玄関前の階段には手すりを新設しました。これらにより、安全性が非常に高まりました。さらに登下校時にスクールバスを利用する生徒が発車までの時間を確認しやすいようにするため、バスロータリー近くに時計を設置しました。

４．社会貢献

（１）募金活動 ★

2022 年度は特にロシア・ウクライナ戦争やトルコ・シリア地震への支援に力を入れました。とくに高校 2 年生の活動ではウクライナ戦争について学習し、学校内外の募金活動で 100 万円を超える支援金を集めることができました。このような活動を通して学校全体の意識が高まり、平和への強い思いを共有・発信することができました。

（２）ボランティア活動 ★

Zoom（ビデオ会議システム）などのツールに慣れたこともあり、認定 NPO 法人の企画等を通して海外のボランティア活動団体とリアルタイムでミーティングを行うことができました。そのミーティングを通して学びを深めるとともに、募金活動などを行うことができました。

（３）地域との連携 ★

和太鼓部が瀬戸市の行事に参加して交流を深めることができました。2023 年度は「コロナ禍にあってもできること」からはじめ、地域の皆様との間でこれまで築き上げてきた関係を、今後も大切にしながらコロナ禍後の連携を進めたいと思っています。実際に、瀬戸市役所シティプロモーション課と協働で、新たな行事に参加したり、広報活動を相互に行う予定です。

Ⅲ．継続事業

１．学校全体

（１）キリスト教に基づく全人教育の継承と宗教教育の確認

宗教の授業、学年ごとに実施される朝礼、中学 1 年生の修養会から高校 3 年生の静修の日そして卒業式へと中高一貫で進められる宗教行事と、生徒の実態や時代にふさわしい改善を常に意識しながら、本校の校風にふさわしい宗教教育の内容の確立を目指しています。そして、教員一人ひとりのことば一言にさえも本校の教育の精神が宿るように、引き続き全教職員で聖霊教育の基本精神の共有を推し進めま

した。本校はもともとシスターの学校でしたが、教育活動や学校生活をシスターとともに送った教職員が年々減少する中、精神や校風をどのように継承するかが大きな課題となっています。

（２）新キャンパスでの新しい教育の構築と新キャンパスの教育的活用 ★

キャンパス移転した 2020 年度からの 3 年間は、新型コロナウイルス感染症対策のための制限を多く受けました。校舎移転を受けて、文化祭・式典などの学校行事、オープンキャンパスなど外来者の来校を伴う企画とともに日常の学習活動や課外活動における施設設備使用について、様々な視点から実施場所、実施要項などを点検し、年間を通して教育上有効な活用方法を継続してさらに工夫を重ねました。

2019 年度末に始まった新型コロナウイルス感染症対策との向き合い方も徐々に獲得し、2022 年度はある程度コロナ禍以前の状態に回復できた行事もありました。

2023 年度は、基本的な新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、従来からある聖霊ならではの生徒に寄り添った教育活動を回復させて行く一方で、感染症対策のために様々な制限を必要とする環境下でも教育活動を維持し続けた経験値を活かし、ICT 教育環境を活用した新たな教育の在り方にも積極的に取り組んでいきます。

（３）スクールバスの財政改善 ★

毎年 90%を超える生徒が利用しており、本校の通学手段の生命線ともいうべきスクールバス事業は、2017 年度から大学との共同運営から本校単独の事業となった結果、大幅な支出超過状態に陥っていました。この事業を長い将来に渡って持続可能な事業とするために必要な収支バランス改善のため、理事会の助言を仰ぎつつ、父母の会カリタスや事業運営の主体であるスクールバス聖友会会員である保護者の皆様との意見交換を経て、2020 年度に財政改善計画（2021～2030 年度までの 10 か年計画）が策定されました。

2021 年度に引き続き 2022 年度もこの計画に則り、会費の段階的な値上げと同時に、路線の改廃や利用者数の少ない時期や時間帯での便数削減などの支出削減への取り組みとの両面から検討し、計画を実行しました。皆様のご協力を得て本計画は順調に改善に向けて推移しておりますが、大学キャンパス統合後に伴う聖霊単独事業としてのスクールバス運営に対する学園総合教育研究基金援助（5 か年計画）が 2022 年度をもって終了したため、今後もこの計画を基本として、より自立した事業運営をするべくより一層の改善努力を進めます。

（４）「EVE, My 青春！」の継続実施と将来設計の検討 ★

この行事は、本校の伝統行事として 2022 年度で 41 回目となりました。2022 年度も愛知芸術文化センター・コンサートホールにて多くの来場者に温かく迎えられました。2023 年度も引き続き同コンサートホールで開催します。また 2021 年度に続き、メディアヒロバ（旧もちの木広場）でプレイベントも開催することができました。開催場所の確保と実施方法について試行錯誤が続きましたが、漸くプレイベントまで含めた当初の計画を 2 カ年継続して実現することができました。2023 年度も、伝統を引き継ぎつつ、これまで以上に十分に準備し成功に向けて努力します。

２．教育・研究

（１）ICT 教育機器の運用と教育活動での活用の研究 ★

全教室映像配信システムやインタラクティブホワイトボードなどの環境整備、さらには教員用 PC の一人１台体制後の活用方法など、ICT 教育機器運用の研究を進めました。学習指導における効果的な活用や校務における運用等について更なる研究を進めています。また、グーグル・クラスルームの活用や 2024 年度から生徒一人１台のタブレット端末の導入を実現するために、整備計画をより具体化しました。さらに実践運用するための財源確保の課題解決も前進させることができました。

（２）大学入学共通テストへの対応 ★

過去数年間にわたって変革の時期にある大学入学共通テストへの備えについては、進路指導部の高い情報収集力と共有を基盤に対応してきました。今後も、大学入学共通テストに対して前年までの動

向を踏まえつつ、生徒に対して模擬試験受験を積極的に勧めながら、大学ごとの入試情報や指導方針などを教員間で共有し、一体となって生徒の指導にあたります。

（３）本校における中学・高校の教育課程の改訂 ★

教務部が推進の中核となって、高校の教育課程における選択講座や総合的な探究学習のあり方について、2022 年度も校内での研修を進めました。スクールポリシー策定・カリキュラム検討・入試推進の各委員会が一体となって中学生徒募集から高校卒業後の進路指導までの六年一貫の指導の課程について、さらに研究を推し進めました。

（４）オーストラリア海外研修およびアイルランド語学研修の見直し ★

2020 年度から 2022 年度は、オーストラリア海外研修・アイルランド語学研修ともにコロナ禍の中にあって実施することができませんでした。一方でオーストラリアにある姉妹校の MSJ 校とのオンラインによる交流は継続することができ、3 年目を迎えることができました。また、2021 年度に校内実施の国際交流プログラムを二つ立ち上げ、2022 年度もこれを継続して実施しました。

2023 年度に向けては、相手校の受け入れ態勢が整わないことやウクライナ情勢の緊迫化による欧州飛行ルートの不安定さなどの事情により、オーストラリアおよびアイルランドでの研修は見送らざるを得ないと考えます。しかし、コロナ禍における様々な制約から解放されつつある現状に鑑みて、本校の教育の柱の一つである外国語教育を充実させるために重要な要素である海外研修を実現する方法を模索した結果、ニュージーランドでの語学研修ならば実現可能と判断し、これを実施するべく準備を進めています。

（５）南山大学・南山大学附属小学校・学園内中学・高校との連携 ★

南山大学附属小学校から本校へ、さらに本校から南山大学への学園内一貫教育の流れを積極的に紹介し、部活動、文化活動での生徒児童間の交流や提携のみならず、教科指導などでの教職員間の人的交流などの検討を進めました。南山大学附属小学校での学校説明会と本校での学校見学会を引き続き実施しましたが、両校の教員・生徒児童の親和性がよく発揮され、同じ学園であることの喜びが強く感じられました。

（６）職業体験やキャリア指導、進路指導の充実 ★

2021 年度から引き続き、コロナ禍の中でも多くの事業所の協力を得ることができ、高校生の活動としての校外事業所でのインターンシップなどを継続実施できました。中学 3 年生のハローワーク講座も実施することができ、貴重なキャリア指導の機会を得て、さらに充実させることができました。それぞれの学年にふさわしい職業観を育成することを目標に、今後も活動の継続を目指します。

３．施設・設備

（１）既存施設設備整備の検討 ★

より安心・安全な学校生活と魅力あるキャンパスづくりを進める中で、第 2 体育館や給水塔設備、グラウンドの表土整備など、補修や改修の必要性を見極めて整備計画を推進しました。

（２）旧修道院の改修についての検討 ★

旧修道院は本校のキャンパス南端に位置しており、すべての生徒が登校する際に通行する生徒玄関に隣接する施設として活用範囲は広く考えられるものの、補修や維持管理経費の必要性も無視できません。聖堂の利用を中心とした今後の活用方法や、補修・維持管理について現実的な検討を進めました。

４．社会貢献

（１）募金活動 ★

聖霊降臨祭、クリスマス聖式などの宗教行事において、全校生徒による献金という形態で、聖霊会の関係する様々な事業所への支援を続けています。国外国内の被災・生活困難地域に向けて生徒会や学年単位での活動、DAC 部（Discussion Action Circle 平和学習とボランティア活動）などによる募金活動を積極的に推進しました。

（２）ボランティア活動 ★

日常的なボランティア活動だけにとどまらず、学校として継続的な支援活動を模索しました。また、コロナ禍ならではの活動やそれにかかる支援を行いました。

（３）地域との連携 ★

2022 年度もコロナ禍にあって、地元幡山地区および山口地区の自治組織や瀬戸市観光協会との連携のほか、中学 3 年生の職業体験などにおいても瀬戸市を中心とした事業所への連携協力は断念せざるを得ませんでした。そんな中でも創立記念式典での伝統行事「花いっぱい運動」では、全校生から集められた花束を瀬戸市長はじめ地域の方々や、様々な施設に感謝の言葉とともに届けました。2022 年度は一部で対面での活動や、介護施設などに手作りのメッセージカードをお送りするといった活動を実現できました。

５．その他

（１）Web ページリニューアル ★

2021 年度にセキュリティを強化しつつより活発な情報発信を行うため、Web ページ全体のリニューアルを進め、スマートフォンへの対応も意識した新しいデザインとなりました。2022 年度は、より見やすくセキュアな環境とスピーディーな情報発信を行うためのリニューアルを進めました。

（２）教育課程の改訂後の教員構成についての検討 ★

2023 年度中の完成を目指し、本校の新しい教育課程の準備を進めています。その中で教科ごとの授業数や教員数を点検し精度を上げました。引き続き、今後の退職者や学園内他単位からの教員の移籍等による教員の年齢構成の変化に十分に配慮して人事計画の検討を進めました。

（３）校務組織改編についての検討 ★

役職人事や部署の配置および配属人数等、校務分掌全体の組織改編について検討しました。各部署の役割を見直し、併せて勤務時間内での会議のあり方、部活動、学校週番、退勤時刻や校舎管理方法など、働き方改革の視点からも総点検と実践への準備として課題の具体化も進めました。

（４）ICT 機器の教育活動における活用の推進と財政計画 ★

ICT 機器を利用した教育実現ための年次計画（ICT 教育環境整備 5 か年計画）に基づいて、ICT 教育機器の導入時期や導入方法､校内･校外での利用範囲等について慎重に議論を重ね試行錯誤を続けました。コロナ禍の影響もあり、早期の導入と運用開始の要請が社会的に高まっていることを実感しています。一部の機器やシステムやアプリケーションを試験的に先行導入することや、外部研修会等を通して授業研究は加速させてきましたが､「教育の中身として何が発信できるか」「生徒たちにどう働きかけるか」「日常の教育活動において ICT 機器をどのように使うのか」など、学校として共有すべき課題を一つひとつ解決しています。

一方で、こうした ICT 教育環境を整備し、かつ維持していくためには、長期的かつ大規模な予算を必要とします。これは、国や地方自治体の補助金を活用してもなお学校や保護者にとって大きな財政的負担となるものであるため、教育効果とそれに見合うコストを見極め、費用負担の在り方を含めた適切な財政計画を検討しました。

（５）学校財政の安定化 ★

財政面における大目標である収支均衡のために安定収入の確保に向けて学納金改定の中長期的な計画、経常費補助金の獲得、寄附金募集の継続等に努めるとともに、本校の将来を見据えた長期的な目標に向けて、主体的な目線で中長期および単年度の事業計画立案を進めました。引き続き、予算執行段階においても精査しつつ、支出の抑制に努めることにより学校財政の安定化を図ります。

以 上

２０２２年度聖園女学院高等学校・中学校事業報告

★は「南山学園中期計画」(2020 年度～2024 年度)において取り組む事項と関連している項目です。

Ⅰ．２０２２年度事業の概要

本校にとって喫緊の課題である定員確保、財政状況の改善および生徒が満足できる学習環境の構築に向けて、これまでの宗教教育や国際教育の伝統を継承しつつ、加速する ICT 化に対応するための教育内容・環境の充実を、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けつつも、徐々にではありますが平時の活動の再開とともに進めました。

2022 年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

・将来構想検討ワーキンググループを中心に南山学園理事会と連携を取りながら、定員確保のあり方を打ち出しました。
・学校運営上の組織のスリム化と効率化、連携強化を実現するべく、管理職制と分掌を再編しました。
・英語科内に「国際交流室」を設け、インプットとアウトプットをより系統化しました。
・安定した通信ネットワーク環境を生徒に提供するために、校内 LAN 設備を更新しました。
・新しい学校案内パンフレット作製を開始しました。

2022 年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

・宗教性・国際性の涵養、課題解決のための総合力の育成に取り組みました。
・ICT 機器を積極的かつ適切に利用するための研究を進めました。
・自主的な学習習慣の定着から大学受験指導に至るまで、放課後学習支援の環境を整備しました。
・現地研修、校内研修を通して、日本の文化や人間の尊厳への理解の深化に取り組みました。

Ⅱ．新規事業

１．学校全体

（１）定員確保と財政改善

本校の将来構想検討ワーキンググループを中心に、定員確保と財政改善について南山学園理事会と密に連携し、定員確保のための方向性の一つとして、聖園女学院中学校以外の中学校を卒業する者を対象とした高校入試を、2024 年度から導入することを決定しました。

（２）管理職制と分掌の再編

「宗教部」と「国際交流部」を発展的に解消して、「教務部」「進路指導部」「生徒指導部」「入試広報部」「校務部」の 5 部体制とし、学校運営における組織のスリム化と効率化を図りました。

２．教育・研究

（１）国際教育の充実　★

「国際交流部」を「国際交流室」に改めて英語科の一部として編成したことに加え、2020 年度、2021 年度に中止したカナダ研修、ニュージーランド中期留学を再開することができました。

（２）南山大学との教育連携の強化

2022 年度も夏季休業期間を利用して南山大学教員による出前授業を行いました。また、進路指導の一環として 6 月 1 日に行った学問別大学説明会では「国際」分野の希望者に対し南山大学の協力を得て、説明が行われました。さらに、翌 6 月 2 日には南山大学の説明会を校内で全学年の希望者を対象に開催し、南山大学を知る機会を設けています。11 月には中学生を対象に南山大学教員による心理学講座および国際理解に関する講座を開催し、連携の幅を拡げました。

３．施設・設備

（１）校内 LAN 設備の更新

文部科学省の GIGA スクール構想を背景として、本校の ICT 教育の充実を図るためには、全校生徒に貸与している iPad のインターネット接続の不具合を解消し、通信品質の一層の向上が不可欠であることから、2021 年度に調査した現況設備の接続状況をもとに、一部 2023 年度に持ち越すものもありますが、校内 LAN の設備更新を行いました。

４．その他

（１）新学籍管理システム導入準備

高校学習指導要領改訂に対応するため、学園全体のポリシーと齟齬がないよう、より慎重に新学籍管理システム導入について検討し、2023 年度内に導入、2024 年 4 月より本格稼働することとしました。

（２）学校案内パンフレットの更新

2019 年度から使用している「踏み出す人に」をイメージした学校案内パンフレットが 4 年目となったことで、最新の聖園女学院の様子を広報できるよう、2023 年度春の完成を目指して更新作業を進めました。

Ⅲ．継続事業

１．学校全体

（１）宗教性の涵養　★

年 3 回のミサ、講堂朝礼・聖書朝礼での祈りと聖歌および 5 月と 10 月のロザリオの祈り、クリスマス行事として、中 1・中 3 を中心とした「クリスマスキャロル」に取り組み、全校で鑑賞しました。今後も、本校での伝統宗教行事を通して、生徒の宗教性を育みます。

（２）国際性の涵養　★

海外研修（ニュージーランド中・長期留学、カナダ研修）、Misono English Academy、Advanced Class of English を通して、生徒の国際性を育みました。また、聖園祭では、カナダ研修参加者のプレゼンテーションや PechaKucha スピーチコンテストを行い、生徒達が英語で発信する機会を作りました。

その他、UPAS(University Pathway Admission Service)加盟校として、推薦入試制度を利用した海外大学進学支援制度の紹介や奨学金制度の説明などを行いました。

（３）留学支援のための奨学金制度

2019 年開始のニュージーランド、Sacred Heart College, Napier での 1 年留学は該当者がいませんでしたが、2014 年度から実施しているニュージーランド中期留学に参加の生徒 7 名に給付型奨学金を支給しました。生徒・保護者への負担軽減と、参加意欲の促進、また中学入試の広報活動への PR にもなっています。

（４）総合力育成　★

中学校の総合的な学習の時間で、学びの基本技能である「調べる・まとめる・表す」の力を高めることをテーマとし、高校の総合的な探究の時間では、課題解決の基本技能である「対話・提案・質疑応答」の力を高めることをテーマとして、課題解決のための思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の育成を継続しました。

（５）ICT 活用　★

高校棟、中学棟のすべての普通教室にプロジェクタが設置されたことを機に、各教科の特性に応じて、ICT を活用した教育法を研究する中で、ICT 機器を積極的かつ適切に利用するための研究、実践を進めました。

（6）放課後学習支援　★

自主的な学習習慣を定着させるために、平日 18 時まで授業の予習復習、宿題を始め、検定試験、大学入試に備えた学習環境を継続して充実させています。外部業者を利用した大学生によるメンター制度の導入と教科・クラス担当者による事前指導により、より効果的な活用促進も同様に継続しています。また、2021 年度に利用生徒の入退室を管理する入退室システムの導入は、生徒が参加しやすくなるとともに、保護者にとっても安否確認もできる点で高い評価が得られました。

高校生を対象とする受験支援は、2022 年度からは英語・数学・国語の主要 3 教科に絞り、進路実現に向けて、外部講師による希望者への大学受験指導の講座を継続して実施しました。

２．教育・研究

（1）シラバス改良、評価方法研究、試験作成研究

2022 年度の高等学習指導要領改訂に伴い、指導と評価の一体化を目指した授業の評価とあり方の研究を継続しました。

（2）補習・講習・自習　★

長期休業中の補習・講習・自習について、これまでの反省点を活かすとともに、教科横断型など様々な形態の取り組みも積極的に取り入れられる環境整備を継続しました。

（3）現地研修・校内研修　★

中 3 全員が 2 泊 3 日で京都と奈良に出向き、日本の伝統文化への理解を深めるための研修を 2 年ぶりに行いました。また、高 2 全員が 3 泊 4 日で長崎と平戸に出向き、「祈りと平和」について思いを深めるための研修を行いました。コロナ禍ではありましたが、いずれも大きな問題もなく、無事終えることができました。

その他、中 1 の祈りを中心とした校内研修、中 2 の鎌倉研修、高 1 の「愛といのち」の研修、中 1･2 の「相互尊重とコミュニケーション能力の育成を目指すプロジェクトアドベンチャー研修」によって、心と体の体験学習の取り組みを実施しました。さらに、2022 年度より、中 1 の「礼法講座」を実施し、相手を思う心について礼法を通して学び、人間関係を円滑にし、各自が女性として品格を身につける基本を学びました。

（4）聖園祭・球技大会

生徒会活動の一環として取り組む学校行事は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて実施しました。球技大会は、球技大会委員会を中心に 2 日間、中・高合同で、クラス対抗で実施しました。勝敗にとらわれず、クラス、学年の連帯感を強めることができました。また、聖園祭企画委員会を中心に聖園祭を 2 日間実施しました。委員会による企画・運営により、日ごろの成果を発表する機会を提供し、SDGsをコンセプトに、社会貢献・社会との関わりを学び、実践的な社会性を育む取り組みから成果を上げることができました。

（5）芸術鑑賞教室

生徒の情操発達に資する演目の選択とその円滑な実施に努めました。2022 年度も新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、11 月 17 日に本校講堂にて中高別の 2 部構成で学校寄席（寄席入門・江戸落語・上方落語・紙切り）を実施しました。

（6）教員研修

通常は年一回の開催ですが、2022 年度は 3 回実施しました。まず「教職員向け防災研修」を実施し、地震災害を中心に防災の基本を学び、命を守るための備えと対応の基礎を学びました。

続いて、南山大学から講師を招いて、「個人情報保護に関する研修」と「ハラスメントに関する研修」を実施しました。いずれも学校運営において重要なテーマであり、様々な観点から多くの気づきが得られました。

３．施設・設備

（１）省エネ活動・環境保全・美化活動

全校で取り組んでいる節電・節約を通じて、地球環境への負荷を意識し、自らの生活を顧みる取り組みを継続しました。また、聖園生全員で取り組んでいる清掃活動で、自ら進んで環境美化に努める意識を育みました。

４．社会貢献

（１）ボランティア活動

新型コロナウイルス感染状況から、各社会福祉施設（聖園子供の家、小さき花の園および藤沢育成会など）と連携しての活動は中止しましたが、校内活動において、「赤い羽根共同募金」「カリタスジャパンクリスマス募金」を実施しました。

５．その他

（１）神奈川私学修学支援センター利用

2022 年度も登校困難な生徒が、支援を受けるために通室しました。中学卒業を目指した学習の支援を受け、無事に卒業につなげることができました。

（２）Web による出願

現金取り扱いのリスクを低減するとともに、より多くの受験生を確保するために、Web による出願、入学金納入に関するシステムの活用を継続しました。

（３）積極的な入試広報活動　★

校内外の説明会・見学会・外部模試の実施、塾訪問を継続するとともに、Web ページをリニューアルし最新情報をより早く分かりやすく発信しました。その他、入試過去問題集の出版・書店販売なども継続し、定員確保に努めました。

（４）試験採点システム導入準備

検討の結果、費用面・運用面・生徒数(答案枚数)の観点から導入が必要というまでに至らないと判断しました。

（５）中学入試期間中の緊急時対応体制の整備

地震、大雪、公共交通機関の乱れなどによる試験開始時の延期等を本校 Web ページから受験生および受験生保護者に、迅速で分かりやすく発信できる仕組みを整えています。2022 年度は中学入試期間中に公共交通機関の一部に乱れがあり、遅刻者への対応を迅速に伝えることができました。また、入試実施中の緊急事態に備え、各部署で対応方法を検討し、一元化しました。さらに、2022 年度も神奈川県私立中学高等学校協会主催の新型コロナウイルス感染対応「共通試験」も積極的に利用し、受験生に安心感を与え、受験機会を提供しました。

（６）他校との交流　★

上智大学との教育連携が決定し、最初の取り組みとして、3 月に上智大学にて、外国語学部・理工学部での授業プログラムを実施しました。

以　上

２０２２年度南山大学附属小学校事業報告

★は「南山学園中期計画」(2020 年度～2024 年度)において取り組む事項と関連している項目です。

Ⅰ．２０２２年度事業報告の概要

本校は、「校訓*を体現する児童」「知的・精神的側面において高度に磨かれた児童」「真のリーダーシップを発揮する児童」「自らに与えられた使命を自覚する児童」の育成を目指しています。2022 年度もこの目標に向け、全学年にわたり、家庭および地域との教育連携を得ながら、一人ひとりの児童を慈しみ深く、時に厳しく、育てました。2022 年度も、2021 年度からの続いている新型コロナウイルス感染症への対策を講じながらでしたが、南山学園のモットー「人間の尊厳のために」の実現を大切に、活動を行いました。

2022 年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

・St Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携に向けて準備を進めました。

・感染状況に対応した宿泊学習を実施しました。

2022 年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

・「南山小学校ならではの学習」を展開しました。

*校訓

かけがえのないあなたと私のために
神さまに愛されていることを　知る人になろう
みんなで助けあって　生きる人になろう
最後まであきらめず　努力する人になろう
まわりの人やものを　愛する人になろう

Ⅱ．新規事業

１．学校全体

（１）St Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携に向けて

コロナ禍以前の第 6 学年で実施していた海外研修（シドニー）では、隔年で St. Brigid's Catholic Primary School との交流を行っていました。持続的に相互交流活動を実施していくことで一致しており、Our Lady of the Angels Primary School(2019 年度提携校)に引き続き、今後、St. Brigid's Catholic Primary School とも姉妹校提携を結ぶ予定で、現地のエージェントを通じて交流への意欲を確認し、姉妹校提携に向けて準備を進めました。

（２）感染状況に対応した宿泊学習の実施

宿泊学習における新型コロナウイルス感染対策ガイドラインに従って宿泊先を選定し、実施計画を作成することによって、3 年生～6 年生の全学年で宿泊学習を実施することができました。

Ⅲ．継続事業

１．学校全体

（１）家庭との連携

「かけがえのないあなたと私のために」の理念を実現するために、誰に対しても受容的である学校風土をつくることに努めています。そのため、本校の教員が講師となり保護者と交流する活動を年に 4 回実施することができました。特に 12 月からは対面で交流することができるようになりました。

教育的な配慮が個別に必要な児童に対しては、家庭との連携を積極的に図り、継続的な面談による支援を行うことができました。

保護者への連絡を丁寧にし、保護者との連携をさらに深め、児童の学校生活や家庭生活がともにより豊かなものとなることを目指しました。2022 年度は、年 2 回の保護者面談を対面で実施することができました。本校の考えをよりよく理解していただくとともに、保護者の考えも理解できるように保護者アンケートを踏まえて、家庭との連携がより深まるよう話し合いや連絡のあり方の改善に向けて取り組みました。2022 年度末にも保護者アンケートを実施しました。

２．教育・研究

（１）学習指導

2022 年度は、2021 年度に引き続き「書く活動」を重視した取り組みを通して、自分の学びを豊かに表現することができる子の育成を目指し、個人研究に取り組みました。2023 年度も引き続き、日々の授業の中で、児童一人ひとりが互いの良さや持ち味を尊重しながら、学びを深めていく力と姿勢を育む学習指導のあり方を探究します。また、教科ごとの授業研究や全校での授業研究にも取り組んでいくことで、「真教育」の精神に根ざした学習指導の具現化を図ります。

（２）英語教育

2022 年度も、コミュニケーション能力の育成と実践の場で活用できる姿勢・能力の育成を一層重視した指導について、研究的な実践を積み重ねました。また安心して英語にふれあうことができる環境づくりを意識し、英語科教員との交流の場を授業時間以外にも廊下やフリールームで随時英会話を楽しむなど多様に展開しました。

（３）海外研修旅行と学校間交流　★

2022 年は、2018 年度に交流した学校である St. Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携に向けて準備を継続しました。

学校間交流では、2021 年度に引き続き、5 年生と 6 年生がクラスごとに文化を紹介し合う形で台湾聖心小学校とオンラインでの交流を実施しました。今後も姉妹校として、安定した協力関係を築いていきます。

（４）生活指導

2022 年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、状況に応じた対応を行いました。手指消毒の徹底や各家庭での朝の検温はこれまで通り行いました。一方で弁当ランチから通常ランチへの移行や、清掃活動の再開を行い、感染対策をしつつも少しずつ以前の学校生活を取り戻しました。

生活時程改定による休み時間の過ごし方については、2022 年度も生活の重点目標として示しました。授業準備をきちんと行いチャイムで始業できるよう声をかけたり、定期的に月の目標として意識できるようにしたりして、落ち着いた生活ができるようにしましたが、習慣として根付くまで今後も指導を継続していくことが必要です。

（５）中学接続に係る取り組み

本校で目指す子どもの姿と中学校進学にあたり必要な学力・生活態度の両面の資質が一致するよう、授業改善、学習支援に努めました。また、必要な学力に達しない児童への個別の声かけを繰り返し行い、意識改善を手助けするとともに、家庭の協力体制を促す指導をしました。必要に応じて面談を繰り返しました。早い段階からのアプローチとして学年団の教員に働きかけるとともに、個別指導に力を入れ、家庭と対話しつつ細かな対応ができる必要があります。

（６）大学・高校・中学との連携

学園内連携推進協議会のもと、小中高協議会や小学校・大学連絡協議会で互いに共通理解を図ってきました。2023 年度入学試験では、多くの大学の先生方にご協力いただきました。南山大学生による入試業務補助も継続しました。新型コロナウイルス感染拡大のために、縮小したり、見送ったりして

きた「校外学習」や「大学訪問」、「単位校見学」などの事業を少しずつ再開してきました。

（７）児童の自治的活動

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症への対策をしながら、定期的に委員会の時間をもつことができ、制限があるなかで常時活動や集会、企画を実施することができました。

（８）児童の安全の確保

1 学期までは新型コロナウイルス感染拡大防止対策として登下校時の自動車送迎を認めていましたが、2 学期からは全員が公共交通機関を利用しての登下校を行いました。「保護者会わかみどりの方の見守り」による声掛けや、学期ごとに行っている「色別下校班会」での子どもたち自身によるふり返りを通して、マナーの見直しを行いました。見直すべきマナーについては、その都度情報共有をして改善に向けて指導をしましたが、今後も「家庭」と「学校」の連携を充実させ児童の安全確保の強化が必要です。

2022 年度も、2 年生対象の防犯キッズプロジェクトや全校児童による避難訓練を実施しました。コロナ対策を行いながらも児童自らが自分の命を守る術を知ることができる体験活動や訓練ができました。

また、毎月グラウンドの設備点検を行いました。その都度整備をしたり、状況を教員に周知したりして、児童が安心して学校生活を送ることができるよう努めました。

（９）教師力の向上　★

2022 年度は、2021 年度に引き続き「書く力」に注目して、自分の学びを豊かに表現することができる子の育成を目指した研究に取り組みました。新たな気づきを得るために、教科内に限らず様々なメンバーで小集団をつくり、授業研究を行いました。その成果と課題を明らかにし、2023 年度も研究を積み上げ、授業力をさらに高めます。また、2022 年度は ICT を効果的に活用する研修を行いました。外部の講師だけでなく、ICT 活用をリードしている教員からも学ぶことで、より具体的な活用について全職員で共有することができました。2023 年度もこれまで大切にしてきた「真教育」に根ざした学びを実現するための ICT の効果的な活用方法を探ることを通して、「南山小学校ならではの学び」の発展に向けて、視野を広げます。

３．施設・設備

（１）校内施設の改装

グラウンドに新たに倉庫を設置し、児童が遊具を安全に使用したり、教員が快適に道具を使用したりできるようにしました。また、校内施設の修理・点検を継続して行いました。

４．その他

（１）広報活動

入試でのアンケートを活用し広報を見直すことができました。本校に関心のある保護者は、まずは本校の Web ページを確認しているという事実がはっきりし、SNS の活用が必要不可欠であると判断しました。そのため、2022 年度後半は、積極的に校内トピックスの発信、入試情報の発信を含め積極的に活用し閲覧数を増やすことができました。

また、ネットワークを活用した学校説明会、年中幼児保護者対象の学校説明会、入試説明会など本校の良さを伝えることも継続的にしてきました。また、保護者の皆様に来校していただく機会も徐々に増えており、学校説明会などで来校することも行いました。

マスメディアの活用としては、幼稚園・保育園対象の雑誌へ学校紹介の記事を掲載するとともに卒業生の進路について広報することも計画しています。2023 年度もコロナ禍が続くことが考えられ、ネットワークのさらなる活用を掲げ、取り組むべき広報活動とします。

（２）保護者への教育相談の広報および教育相談事業

2022 年度も、教育相談担当者へ教育相談予約ができる体制、南山大学保健室から助言を受けられる

体制を継続しました。さらに、南山大学人間関係研究センターと連携し、子育て支援講演会と子育て支援グループの会合を定期的に実施しました。保護者の教育相談予約に対しての認知度も高く、相談体制も整っています。子育て支援グループは、希望する保護者が増加し、2022 年度は、4 グループで実施しました。

（３）地域との連携　★

2022 年度も新型コロナウイルスの影響で連携が縮小していましたが、2022 年度は、商店街の方に地域清掃に参加していただきました。「いりなか商店街」との連携が定着しています。「南山小見守り隊」も地域の方の新規登録を継続して募集しています。

生活科や社会科の学習などでも地域の方とふれ合う活動を大切にし、児童の地域への感謝の気持ちが高まることを目指しました。地域社会の一員としての奉仕の心や地域を愛する心も育みました。このことが、児童の安全確保にもつながると考えます。地域の小学校とも連携し、地域社会の中で共に児童を育てました。

以　上

２０２２年度聖園女学院附属聖園幼稚園事業報告

★は「南山学園中期計画」(2020 年度～2024 年度)において取り組む事項と関連している項目です。

Ⅰ．２０２２年度事業の概要

2022 年度に創立 80 周年を迎えたことの意味を教職員全員が意識し、これまでの伝統を尊重、維持しつつ、新たな課題に挑戦し、共同で解決していく力を園児に身につけさせるよう保育を行いました。そのために、自立心・道徳心・思考力を養い、言葉によって伝える力をつけるなどの、園児個々の能力を高めていく環境作りを整備しました。

また、園児の安定的な確保に向けて、正課保育はもちろん、預かり保育、プレ保育、満 3 歳児受け入れおよび課外活動のあり方の確認ならびに改善を進めました。

新型コロナウイルス感染状況を注視し、これまで行ってきた事業全体あるいはその実施方法を見直すとともに、園児を始め、教職員および保護者の安全・安心を心がけながら、可能な限りこれまでの内容を基本として事業を進めました。

2022 年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

・園児と教職員を対象とした創立 80 周年記念事業を実施しました。
・正課英語を専門業者へ委託し、大切にしてきた英語教育の質的向上を図りました。
・課外クラスとして新たにチアダンス・チアリーディング教室を導入しました。
・教職員が快適な環境で保育や業務に従事できるよう、園舎空調機器を更新しました。
・地域の方も参加対象とした、子どもの防犯に関するセミナーを新たに実施しました。

2022 年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

・新型コロナウイルス感染防止を含めた、園児の安全・安心を守るための危機管理体制を継続しました。
・聖園女学院高等学校、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園との教育連携を継続しました。
・保護者との協力体制をより一層深め、子育て支援の援助を継続しました。
・クリスマス献金や老人ホーム訪問など、社会貢献や地域貢献を継続しました。

Ⅱ．新規事業

１．学校全体

（１）創立 80 周年記念事業

2022 年に創立 80 周年を迎え、在園児と教職員を対象とした記念式典を開催しました。これまで多くの方々に支えられてきたことに感謝し、自らがこれからの歴史を作っていくという思いを培いました。その他、記念グッズ（クリアファイル）作成、記念花壇の設置、ドローンによる記念写真撮影を行いました。

２．教育・研究

（１）正課英語クラスの専門業者導入　★

長年大切にしてきた正課中の英語教育について、2022 年度より、外部の専門業者への委託を開始しました。これにより、より質の高い教育を提供できることとなり、園児や保護者からも好評を得ました。

３．施設・設備

（１）園舎空調機器（職員室、事務室、会議室系統）更新

園舎建築時より 30 年以上が経過し、2018 年に実施した省エネルギー診断でも性能低下により消費

電力増加の懸念が指摘されたことから、空調機器を更新し、省エネおよび適切な職場環境を整備することができました。

（２）登はん棒更新

設置から 27 年が経過し、当初、更新を計画していた登はん棒については、点検等の結果、現在のものでも法令上の安全基準に違反せず、周囲の構築物の配置を工夫したことで安全を確保できることが確認できたため、計画を見送ることとしました。

４．社会貢献

（１）子どもの防犯セミナー開催

園児保護者に加え、地域の方々も参加対象とした、子どもの防犯セミナーを新たに開催しました。限られた人数の参加には留まりましたが、講師を交えて子どもの防犯について具体的な話ができる機会となり、参加者から好評を得ました。

５．その他

（１）新たな課外クラスの導入　★

課外クラスについて、従来行ってきた体操教室に加え、湘南地域で活動する外部チアクラブと連携し、新たにチアダンス・チアリーディングのクラスを開始しました。参加者から好評で、他の園児等へも良い影響が広がっていくことを期待します。

（２）神奈川中央交通バスへの車内広告掲載

本園の認知度向上を図るために、聖園マリア幼稚園と合同で、藤沢市内を走る神奈川中央交通バスの車内広告を開始しました。

Ⅲ．継続事業

１．学校全体

（１）教育プログラムの見直しの継続

本園では、教育目標として、キリスト教世界観に基づき、学園共通の教育モットーである「人間の尊厳のために」を尊重し、幼児期に必要な心身の調和の取れた人間の育成を目指しています。新規事業として先に述べたように、新たな課題に挑戦し、幼児の幅広い能力を高めていく環境作りの継続とともに、幼児の体力増進に向けて一層の体育強化に取り組みました。また、国際性の涵養のため英語を他者理解のツールとして楽しく学べる環境作りを引き続き行うために教育プログラムの充実を図りました。さらに、学園内連携として、聖園女学院高等学校の高 1 家庭科での保育実習を引き続き行い、総合学園だからこそできる活動を一層深めることができました。

（２）保護者との協力体制

社会情勢が混沌とした傾向にある現代だからこそ、聖園幼稚園の教育方針をクラス懇談会や個別面談などの機会を通してきめ細かく伝え、園と家庭との協力により「心の通い合うつながり」をもって、子どものより良い育ちを援助していく体制を続けました。

（３）危機管理体制の継続

園児の安全確保のために、2022 年度も来園時や送迎時における保護者カードを携帯するよう保護者へ要請しました。また、新型コロナウイルス感染症対策については、2020 年度に整備した次亜塩素酸空間除去脱臭機や小型オゾン除菌・消臭機、加湿器などを今後も活用し、消毒などの日々の取り組みも含め継続しました。

（４）子育て支援に関する援助　★

保護者の要望を受け導入した預かり保育や給食提供、満 3 歳児受け入れを 2022 年度も継続し子育て支援を行いました。預かり保育では、家庭教育の温かさを保ちながら、園児に無理のないカリキュ

ラムに沿った活動を展開しました。また、給食については、園児の健康や安全面を配慮した提供を継続しました。

２．教育・研究

（１）季節の行事に触れ、体験する知的理解教育の促進

季節の行事に触れることは、幼児教育での知的理解において重要な意味を持ちます。四季を通して行事に触れ、また、体験させることで、より興味・関心が持てるように取り組みました。

（２）宗教性教育の促進

イエスの降誕を表現する劇（聖劇）を通して、園児の表現力を培うとともに、神の愛を知り、すべての人を愛する心を育みました。

（３）戸外遊び・活動の充実

多人数での体育遊びなど、戸外における遊びや活動を充実させ、体力はもちろん、協調性を培いました。

３．社会貢献

（１）プレ保育の実施　★

2019 年 10 月より未就園児とその保護者を対象に開設したプレ保育を 2022 年度も実施しました。保護者が子育ての悩みを保護者同士で分かち合い、園の教員に相談する場として、実施を継続し、子育てにかかる地域のサポーターとして機能することを目指すとともに、次年度の入園にもつながる場となりました。

（２）クリスマス献金　★

「世界のお友だちのために」とクリスマス献金を行うことで、世界には恵まれない子どもたちがいることを知り、自らの献金により救われる命があることと命の大切さを学ぶことで、社会的視野を広げる教育を続けままました。

（３）勤労感謝　★

スクールバスの運転手や用務員の方々などへの感謝を、自分たちの作品を贈るという形で表しました。日常生活は多くの方々の陰の力で成り立っていることに気づき、感謝する気持ちを育む教育を続けていきます。

（４）修道院への訪問　★

聖心の布教姉妹会修道院へ園外保育などで訪問することを予定していましたが、訪問予定時期の新型コロナウイルス感染状況に鑑み、感染拡大を防ぐため訪問を取り止めました。

（５）老人ホームへの訪問　★

クリスマスに老人ホームへ訪問し、歌の発表のプレゼントを行いました。地域の方々とのふれあいを通して、他者の喜びが自らの喜びへとつながることで、他者のために生きるという将来のキャリア教育につなげました。

（６）エコキャップの回収

「世界の子どもにワクチンを」という願いのもと、家庭からの協力を得て使用した飲料水のキャップを回収し寄附を行いました。自分とは違う環境で生活している子どもたちが世界にいることを知り、自分に何ができるかを考えさせる教育を続けていきます。

以　上

２０２２年度聖園女学院附属聖園マリア幼稚園事業報告

★は「南山学園中期計画」(2020 年度～2024 年度)において取り組む事項と関連している項目です。

Ⅰ．２０２２年度事業の概要

本園の特色「おいのり・親切・がまん・ありがとう」を大切にするよう園児に伝えるとともに、心身のバランスのとれた成長を促すために園児一人ひとりを育てることを心がけました。また、園児を安定的に確保できるよう、これまで以上に保護者ならびに見学のために来園した方々の声に耳を傾け、選ばれる幼稚園となるよう、本園のあり方を確認し改善することに努めました。

新型コロナウイルス感染状況を注視し、これまで行ってきた事業全体あるいはその実施方法を見直す必要がありましたが、園児を始め、教職員および保護者の安全・安心を心がけながら、可能な限りこれまでの内容を基本とする事業計画を進めました。

2022 年度の主な新規事業は次のとおりです。

・預かり保育利用時間を延長するとともに、希望選択制による給食を導入しました。
・満 3 歳児クラスに入園しやすくなるよう、教育充実費の入園月に応じた減免制度を導入しました。
・通園の利便性を高め、園児確保につなげるために、小型スクールバスを 1 台購入し、バスコースを増やしました。
・幼稚園の名前や場所を周知できるよう、幼稚園看板を卒園記念品として受け入れ、設置しました。
・広い園庭を利用して、課外サッカー教室を開設しました。
・幼稚園の名前を周知できるよう、神奈川中央交通のバスに広告を掲出しました。

2022 年度の主な継続事業は次のとおりです。

・新型コロナウイルス感染拡大防止を含めた、園児の安全・安心を守るための危機管理体制を継続しました。
・子育て支援事業としての未就園児対象「ひよこらんど」を継続し、園児募集につなげました。
・聖心の布教姉妹会修道院やシニアホームに園児の作品を届け、日頃の感謝の気持ちを伝えました。

Ⅱ．新規事業

１．学校全体

（１）預かり保育利用時間の延長ならびに希望選択制給食の導入　★

2021 年度に、預かり保育ならびに給食についての利用のニーズを探るためのアンケートを、保護者を対象に行った結果、預かり時間の延長や給食導入について一定のニーズがあることが分かりました。以前より、預かり保育の内容が幼稚園を選ぶ際に大きく関わっていることから、園児確保のために、2022 年度より、預かり保育時間をこれまでの 16 時 30 分から 17 時 30 分に延長し、仕事を持つ保護者にとっても、預かり保育がより利用し易くなるよう変更を行いました。また、希望者が利用できるように給食を導入し、就学前の給食体験を含めた食育の充実を図るとともに、保護者のお弁当作りを軽減することができるようにしました。

（２）満 3 歳児クラスの利用促進

園児確保において重要となる満 3 歳児クラスは､満 3 歳となった翌月から入園することができます。そのため､利用者にとっては必然的に年度途中からの入園となります｡利用者の経済的負担を軽減し、園児確保につなげるべく、教育充実費（年額 38,000 円）を、満 3 歳児クラス入園者に対しては入園月に応じて減免することで、満 3 歳児クラスへの入園を促進しました。

２．施設・設備

（１）小型スクールバスの新規導入　★

例年、園児数の約 6 割が利用するスクールバスについて、これまで 2 台（4 コース）運行してきましたが、車両の大きさにより、道が細い住宅地などには入ることができませんでした。通園の利便性を高め、園児獲得につなげるために、小型のバスを 1 台導入することでより細やかなバスコースを設定しました。

（２）幼稚園看板の設置

多くの方に幼稚園名や場所を認知していただき、園児確保につなげるために、卒園記念品として幼稚園名の看板を設置しました。可愛らしい看板にしたことで園児や保護者から好評をいただいています。

３．その他

（１）課外サッカー教室の開設

感染症や事故等に十分対策しつつ、これまでの体操教室に加え、本園の広い園庭を活用して、新たに課外でのサッカー教室を開設しました。対象者は在園児と卒園児（小学生）とし、利用者に新しい課外活動の機会を提供するとともに、園庭での活動により、幼稚園への愛着も高まることを今後も期待します。

（２）神奈川中央交通のバス広告掲出

藤沢市内の広範囲の方に幼稚園名を認知していただけるよう、聖園女学院附属聖園幼稚園と共同で市内を運行する神奈川中央交通のバスに広告を掲出しました。

Ⅲ．継続事業

１．学校全体

（１）新型コロナウイルス感染防止対策の継続

2020 年度に整備した次亜塩素酸空間除去脱臭機小型オゾン除菌・消臭機、加湿器などを今後も活用し、消毒などの日々の取り組みも含め継続しました。また、園医との連携も強化し、園での対策や保育の様子を Web ページ等を利用して発信するとともに、園児や保護者が幼稚園で安心した生活を送ることができるように努めました。

２．社会貢献

（１）子ども子育て支援事業「ひよこらんど」の開催

未就園児対象「ひよこらんど」参加者の過半数が次年度に入園している実績を見ても、この事業の存在が園児獲得に大きく貢献していることが分かります。同時に、コロナ禍で外出も未だままならない中、家庭でどのように過ごしたらよいのか悩んでいるという保護者の声が聞かれます。新型コロナウイルス感染防止対策をしながら、「ひよこらんど」開催を継続し、子育ての悩み相談をしやすいきっかけを提供し、充実させました。

（２）地域の方々への感謝　★

新型コロナウイルス感染防止の観点から、聖心の布教姉妹会修道院・シニアホームを訪問することを控えていますが、園児が正課で作成した作品を届けるという形で感謝を表しました。

以　上

学 園 に 貢 献 し た 人 々

2022年5月1日現在

南山学園名誉学園長

氏名	年月日
Albert Bold	1987.12.11

南山学園長

氏名	年月日
Aloysius Pache	1949.3.29～ 1957.3.31
沼澤喜市	1957.4.1～ 1970.3.31
Albert Bold	1983.4.1～ 1987.12.10
Pedro Simón	1999.4.1～ 2004.3.31

名古屋聖霊学園長

氏名	年月日
Pia Anna Heimgartner	1948～ 1953
Hildebelta Anna Weig	1953～ 1960
嶋美恵子	1960～ 1970

南山大学名誉学長

氏名	年月日
Aloysius Pache	1969.6.18

南山大学名誉博士

氏名	年月日	種類
Karl Tacke	1962.10.3	文学
Ralph Thyken	1966.6.28	経済学
August Mölle	1966.7.20	文学
Reinhold W. H. Baurs-Krey	1966.12.14	経済学
H. C. Prälat Joseph Teusch	1974.11.4	経済学
松本正夫	1974.11.4	文学
Maria Müller-Lüttgenau	1977.5.25	経済学
Karl Rudolf Höller	1977.5.25	経済学
桑原幹根	1977.5.25	文学
Friedrich Kronenberg	1982.11.26	経済学
Michael Joseph Mansfield	1986.7.2	文学
三宅重光	1986.7.2	経済学
豊田英二	1989.11.29	経営学
Willy Kraus	1989.11.29	経済学
小島鐐次郎	2002.6.29	経営学

南山大学名誉教授

氏名	年月日
Ralph Thyken	1952.5.19
Arundel del Re	1954.4.20
Martin Gusinde	1965.1.26
野崎勝太郎	1970.4.1
木村太郎	1971.4.1
工藤　粛	1971.4.1
大庭征露	1971.4.1
沼澤喜市	1973.4.1
Alfons Migdalek	1973.4.1
村松恒一郎	1974.4.1
戸田正志	1974.4.1
直井　豊	1974.4.1
Georg Gemeinder	1976.4.1
国分敬治	1978.4.1
今川憲次	1978.4.1
小林知生	1978.4.1
Konstantin Guddorf	1979.4.1
Henry Van Straelen	1979.4.1
岸田準一	1979.4.1
小松日出雄	1979.4.1
井上紫電	1979.4.1
Anton Lämmerhirt	1980.4.1
Alphonse Hotze	1980.4.1
小島公一郎	1981.4.1
斎藤隆助	1981.4.1
八木　弘	1981.4.1
Edward Grzenia	1982.4.1
元川房三	1983.4.1
Hirschmer,Johannes	1983.6.16
Artur Lang	1984.4.1
Julius Abri	1984.4.1
George Pope	1984.4.1
松浦一郎	1984.4.1
中村　精	1985.4.1
Albert Bold	1987.4.1
佐藤哲夫	1987.4.1
宮内　璋	1990.4.1
長坂源一郎	1990.4.1
卜部小十郎	1990.4.1
Maria Josefa Sarrasin	1991.4.1
伊藤孝一	1992.4.1
宮川茂夫	1992.4.1
石黒　毅	1993.4.1
森　茂也	1994.4.1
加藤道夫	1994.4.1
松山昌司	1994.4.1
大雄令純	1994.4.1
Albert Dewald	1994.4.1
泉　ひさ	1995.4.1
阿江　茂	1995.4.1
Louis Hanzel	1995.4.1
Charles Jarrot	1996.4.1
内藤克彦	1996.4.1
西脇　博	1996.4.1
Jan Van Bragt	1996.4.1
Jan Swyngedouw	1996.4.1
鎌田信夫	1996.4.1
進藤義治	1996.5.26
明石陽至	1997.4.1
杉山俊治	1997.4.1
須磨千穎	1997.4.1
末重正行	1997.4.1
飯原慶雄	1998.4.1
倉田　勇	1998.4.1
Eugen Rucker	1998.4.1
Pedro Simón	1998.4.1
山田隆治	1998.4.1
青山　玄	1999.4.1
立松弘孝	1999.4.1
田中春美	1999.4.1
新井喜久夫	2000.4.1

栗村道夫	2000.4.1
駒井　明	2000.4.1
枝村　茂	2001.4.1
山本和義	2001.4.1
Robert J. Riemer	2001.4.1
岩見恒典	2002.4.1
荻野昌利	2002.4.1
石橋 恭助	2003.4.1
三上　茂	2003.4.1
大津　誠	2003.4.1
五百旗頭博治	2004.4.1
栗須公正	2004.4.1
藤井達敬	2004.4.1
鈴木孝夫	2005.4.1
伴　紀子	2006.4.1
伊藤秋男	2006.4.1
早川正一	2006.4.1
David Mayer	2007.4.1
大岩　勉	2007.4.1
玉崎孫治	2007.4.1
岩野一郎	2007.4.1
寺田邦昭	2007.4.1
John Seland	2007.4.1
長谷川利治	2007.4.1
生野芳徳	2007.6.22
田中恭子	2007.11.16
長倉久子	2008.3.14
高橋弘一	2008.4.1
岡部朗一	2009.4.1
富野幹雄	2009.4.1
村本正生	2009.4.1
美濃部重克	2010.3.12
高橋覚ニ	2010.4.1
横田　忍	2010.4.1
伏見正則	2010.4.1
友岡敏明	2010.4.1
宮川佳三	2011.4.1
申　七郎	2011.4.1
櫻井健吾	2011.10.1
山口眞人	2012.2.3
佐々木剛志	2012.4.1
春藤修二	2012.4.1
長谷川雅雄	2012.4.1
江川　憲	2012.7.27
Hans-Jürgen Marx	2013.4.1
James Heisig	2013.4.1
有元將剛	2013.4.1
練尾　毅	2013.4.1
黒田清彦	2013.4.1
三浦修史	2013.4.1
村松久良光	2013.4.1
藤原道夫	2013.10.18
濵口吉隆	2014.4.1
大森正樹	2014.4.1
安田文吉	2014.4.1
水谷重秋	2014.4.1
Ronald Holland	2014.4.1
津村俊充	2015.4.1
花井　敏	2015.4.1
中谷　実	2015.4.1

森部　一	2016.4.1
グラバア俊子	2016.4.1
岡田　泉	2016.4.1
浜名優美	2016.4.1
木村美善	2016.4.1
服部裕幸	2017.4.1
Calmano Michael	2017.4.1
坂本　正	2017.4.1
橋本　惠	2017.4.1
木下　登	2017.4.1
山田正次	2017.4.1
髙橋広次	2017.4.1
池上久子	2017.4.1
石田裕久	2018.4.1
細谷　博	2018.4.1
佐竹謙一	2018.4.1
近藤　仁	2018.4.1
中矢俊博	2018.4.1
榎本鐘司	2019.4.1
丸山　徹	2019.4.1
SZIPPL Richard	2019.4.1
山田泰広	2019.4.1
CAVALLAR Osvaldo	2020.4.1
市瀬英昭	2020.4.1
大谷津晴夫	2020.4.1
斎藤孝一	2020.4.1
坂井信三	2020.4.1
SWANSON Paul	2020.4.1
鳥巣義文	2020.4.1
横山輝雄	2020.4.1
松戸庸子	2021.4.1
岡地　稔	2021.4.1
阿部泰明	2021.4.1
松永　隆	2021.4.1
青山幹雄	2022.1.21
丸山雅夫	2022.4.1
斎藤　衛	2022.4.1
後藤邦夫	2022.4.1
蔡　毅	2022.4.1

南山短期大学名誉教授

氏名	年月日
Hubert Flatten	1981.4.1
大庭征露	1981.4.1
清水　勇	1981.4.1
嶺　光雄	1981.4.1
新納嘉夫	1981.4.1
Richard A. Merritt	1986.4.1
Albert Bold	1987.5.8
伊藤雅子	2000.4.1
星野欣生	2001.4.1
大橋嘉男	2002.4.1
堀部憲夫	2003.4.1
田中良子	2004.4.1
水野道子	2005.4.1
石田幸栄	2007.4.1
鈴木貞雄	2010.4.1
近江　誠	2011.3.31
宮崎公江	2012.4.1
小知和優江	2012.4.1

Peter Garlid	2012.4.1

名古屋聖霊短期大学名誉教授

氏名	年月日
田中喜平治	1983.4.1
近藤　尚	1985.4.1
Thoma Anna Tellen	1987.4.1
横川文雄	1989.4.1
細井葉子	1991.4.1
中尾正三	1994.4.1
鶴見　鼎	1999.4.1
山本良子	2000.4.1
三上稲子	2000.4.1
Christine Leibetseder	2000.4.1
瀧本昭彦	2001.4.1
賀永マキ子	2002.4.1
大脇淳子	2005.4.1
丸山よし	2005.4.1
會澤俊三	2005.4.1

南山高校・中学名誉教諭

氏名	年月日
一藤季雄	1982.6.25
徳永盛和	1982.6.25
横尾一夫	1982.6.25
荻野秀子	1983.7.29
小林武昌	1987.4.1
黒宮秋夫	1987.4.1
千波冨美子	1989.7.7
平田　伸	1989.7.7
小高知直	1989.7.7
藤井輝夫	1990.6.1
富田謙一	1991.4.1
福山　徹	1992.4.1
橋倉溢子	1992.4.1
大平　稔	1992.4.1
坂口　平	1992.4.1
須田一男	1993.4.1
飯島昭永	1994.4.1
森　昭三	1994.4.1
大橋淳一	1994.4.1
黒川明雄	1995.4.1
高見義朗	1995.4.1
山田鈴夫	1995.4.1
塚本重巳	1995.4.1
伊藤　明	1997.4.1
青木　舜	1998.4.1
山下俊樹	1999.4.1
斎藤邦弥	2000.4.1
久田和彦	2000.4.1
斎藤靖裕	2000.4.1
矢谷恵滋	2000.4.1
伊藤祐美子	2000.4.1
加藤莞二	2001.4.1
佐藤静真	2002.4.1
柴田整子	2002.4.1
渡辺くみ	2002.4.1
長谷部勝	2003.4.1
岩田邦子	2004.4.1
水越淳郎	2004.4.1

高柴　浩	2004.4.1
上村順造	2004.4.1
大津　彰	2005.4.1
平川博三	2005.4.1
星野正毅	2005.4.1
佐々克典	2005.4.1
饗庭駿一	2005.4.1
岡田充弘	2006.4.1
中島　裕	2006.4.1
犬飼隆夫	2006.4.1
坂田一郎	2006.4.1
三好道憲	2007.4.1
本藤毅夫	2007.4.1
松岡　博	2008.4.1
犬飼美知子	2008.4.1
河村剛ちよ	2008.4.1
鈴木友子	2008.4.1
伊藤公二	2009.4.1
吉田信義	2009.4.1
谷上　勝	2009.4.1
伊藤勝人	2009.4.1
薄島和子	2009.4.1
渡邉紘昭	2010.4.1
堤　正文	2010.4.1
酒井正之	2010.4.1
森　和夫	2012.4.1
鍛治多喜知	2013.4.1
松田　智	2013.4.1
鵜飼茂雄	2014.4.1
横田正行	2014.4.1
野呂純二	2014.4.1
宮川佳大	2015.4.1
澤田擴次	2018.4.1
宮崎はるみ	2018.4.1
澤田秋善	2019.4.1
木村　正	2019.4.1
清水榮治	2019.4.1
田上秀丸	2020.4.1
岡　一郎	2020.4.1
奥村説子	2020.4.1
田中雅行	2022.4.1

南山国際高校・中学名誉教諭

氏名	年月日
伊藤紫朗	1994.4.1
浅野　尚	1995.4.1
高橋晴之	2021.4.1
下家善樹	2021.4.1

聖霊高校・中学名誉教諭

氏名	年月日
山田和子	1996.4.1
井爪謙治	1999.11.2
江幡ひさ	1999.11.2
大嶽静男	1999.11.2
加藤絹子	1999.11.2
武内弥太郎	1999.11.2
中井延行	2001.12.1
伊藤　肇	2002.4.1
山根千代美	2002.4.1
伊藤蓉子	2003.4.1
広幡尚司	2005.4.1
渡辺幸男	2005.4.1
奥　宏夫	2006.4.1
佐々康子	2006.4.1
杉若久男	2007.4.1
安藤敏之	2008.4.1
真野良子	2008.4.1
徳竹信夫	2009.4.1
三浦繁則	2009.4.1
武田ミヱ子	2011.4.1
吉田進一	2011.4.1
梶田悠子	2012.4.1
米倉和司	2012.4.1
武田　昇	2013.4.1
中村裕子	2014.4.1
古橋輝明	2020.4.1
杉浦泰也	2021.4.1
永井ひろみ	2022.4.1

聖園女学院高校・中学名誉教諭

氏名	年月日
西江直広	1966.4.1
金浦佐知子	1998.4.1
平岡　功	2002.4.1
青山剛征	2007.4.1
坂東茂範	2010.4.1
浜田正夫	2016.4.1
清水ますみ	2018.4.1
金子喜美江	2018.4.1
鳩　憲子	2018.4.1
佐藤正志	2019.3.31
鴨志田昌子	2021.4.1
下里由香	2022.4.1

南山学園名誉職員

氏名	年月日
瀧田愼吉	1982.6.25
櫻井正夫	1982.6.25
松風誠人	1982.6.25
榊原廣士	1983.5.27
柴山朋子	1986.4.1
春日部道	1988.4.1
栗原幸子	1988.4.1
市原豊子	1989.4.1
中島正治	1992.4.1
小久保俊三	1993.4.1
西田　博	1993.4.1
武田重之	1993.4.1
山本勇郎	1995.4.1
加藤ちゑ子	1995.4.1
加藤松治	1995.4.1
伊部　宏	1995.4.1
村上匡男	1995.4.1
岡崎芳彦	1996.4.1
川島成雄	1996.4.1
松田政子	1996.4.1
新林麗子	1997.4.1
坂田常蔵	1998.4.1
清水二雄	1998.4.1
馬場恭二	1999.11.2
水野壽子	2000.4.1
三田武男	2000.4.1
十時光宏	2001.4.1
桃田千代子	2002.4.1
円城光子	2004.4.1
樋口則子	2004.4.1
木戸寿子	2004.4.1
内藤英明	2004.4.1
余語睦子	2004.4.1
鈴木一富	2005.4.1
後藤　勝	2006.4.1
木村弘子	2006.4.1
小林由樹恵	2007.4.1
佐藤和彦	2009.4.1
加藤忠夫	2010.4.1
会沢俊昭	2010.4.1
栗山義久	2010.4.1
村瀬真剛	2010.4.1
岩間潤子	2010.4.1
瀧田洋子	2011.4.1
鈴木裕子	2011.4.1
福田圭子	2012.4.1
竹内怡子	2012.4.1
糟谷謙三	2012.4.1
各務清子	2013.4.1
中村政義	2013.4.1
岩間陽子	2013.4.1
鈴田幸代	2013.4.1
小川チエ子	2014.4.1
塚本　泉	2014.4.1
蒔田　一	2015.4.1
波田一夫	2015.4.1
倉田啓子	2015.4.1
山邉美津香	2015.4.1
安田智子	2016.4.1
則竹輝一	2016.4.1
沢口定雄	2017.4.1
森　義明	2017.4.1
小川しず子	2017.4.1
西田一子	2017.4.1
関谷治代	2017.4.1
安田　猛	2018.4.1
伊藤敦子	2018.4.1
橋田裕元	2018.4.1
山田雅巳	2018.4.1
奥村良和	2019.4.1
三輪典由	2020.4.1
大川朱美	2020.4.1
浅沼和子	2020.4.1
井上佐智子	2020.4.1
加藤雅毅	2021.4.1
山崎則子	2021.4.1
大川　隆	2022.4.1
大宮則彦	2022.4.1
藤田三保	2022.4.1

歴 代 の 役 職 者

2022年5月1日現在

南山学園理事長

	氏名	在任期間
初 代	ヨゼフ・ライネルス	1932～1941
第2代	松岡 孫四郎	1941～1948
第3代	フーベルト・フラッテン	1948～1951
第4代	ゲオルク・ゲマインダ	1951～1957
第5代	ヘルマン・ベルテルスベック	1957～1960
第6代	ゲルハルト・シュライバー	1960～1963
第7代	アルベルト・ボルト	1963～1984
第8代	ペドロ・シモン	1984～1999
第9代	ミカエル・カルマノ	1999～2008
第10代	ハンス ユーゲン・マルクス	2008～2017
第11代	市瀬 英昭	2017～

名古屋聖霊学園理事長

	氏名	在任期間
初 代	長谷川 小松	1948～1951
第2代	ピア・アンナ・ハイムガルトネル	1951～1954
第3代	マルチンヒルデ・シュリューテル	1954～1961
第4代	トマ・アンナ・テレン	1961～1995

聖園学院理事長

	氏名	在任期間
初 代	聖園 テレジア	1951～1965
第2代	聖園 たへ	1965～1973
第3代	久野 芳子	1973～1991
第4代	菊地 アエ	1991～2003
第5代	後藤 澄子	2003～2016

南山大学長

	氏名	在任期間
初 代	アロイジオ・パッヘ	1949～1957
第2代	沼澤 喜市	1957～1972
第3代	ヨハネス・ヒルシュマイヤー	1972～1983
第4代	ロバート・リーマー	1983～1993
第5代	ハンス ユーゲン・マルクス	1993～2008
第6代	ミカエル・カルマノ	2008～2017
第7代	鳥巣 義文	2017～2020
第8代	ロバート・キサラ	2020～

南山短期大学長

※2011年4月から南山大学短期大学部に名称変更

	氏名	在任期間
初 代	フーベルト・フラッテン	1968～1974
第2代	アルベルト・ボルト	1974～1979
第3代	ヨハネス・シューベルト	1979～1984
第4代	ペドロ・シモン	1984～1988
第5代	宮本 桂	1988～1991
第6代	ペドロ・シモン	1991～1993
第7代	大橋 嘉男	1993～2002
第8代	谷川 義美	2002～2008
第9代	鳥巣 義文	2008～2011
第10代	ミカエル・カルマノ	2011～2017
第11代	鳥巣 義文	2017～2020

名古屋聖霊短期大学長

	氏名	在任期間
初 代	マルチンヒルデ・シュリューテル	1970～1973
第2代	トマ・アンナ・テレン	1973～1987
第3代	會澤 俊三	1987～2005

南山中学校長（旧制）
南山高等学校・中学校長（新制）

	氏名	在任期間
初 代	ヨゼフ・ライネルス	1932～1940
第2代	高山 孫三郎	1940～1944
第3代	野山 忠幹	1944～1945
第4代	牧野 房男	1945～1948
第5代	アロイジオ・パッヘ	1948～1950
第6代	ヨハネス・ポンセレット	1950～1959
第7代	アルベルト・ボルト	1959～1960
第8代	チャールス・バルタ	1960～1966
第9代	フーベルト・フラッテン	1966～1972
第10代	會澤 俊三	1972～1975
第11代	フランツ・トルッケンブロード	1975～1981
第12代	ヨハネス・シューベルト	1981～1987
第13代	谷川 義美	1987～1996
第14代	深堀 進	1996～2008
第15代	西 経一	2008～2015
第16代	ヨセフ・ブルーノ・ダシオン	2015～

南山国際高等学校・中学校長

	氏名	在任期間
初 代	長坂 源一郎	1993～1994
第2代	ロバート・リーマー	1994～2008
第3代	リチャード・ジップル	2008～2017
第4代	山田 利彦	2017～

聖霊高等学校・中学校長

	氏名	在任期間
初 代	マルチンヒルデ・シュリューテル	1949～1961
第2代	林 ハルミ	1961～1980
第3代	三国 重子	1980～1981
第4代	大野 寛二	1981～1989
第5代	榊 米一郎	1989～1991
第6代	尾崎 恵	1991～1993
第7代	樋口 富士夫	1993～1995
第8代	トマ・アンナ・テレン	1995～1996
第9代	伊藤 肇	1996～2002
第10代	大橋 嘉男	2002～2008
第11代	深堀 進	2008～2011
第12代	マイケル・リンストロム	2011～

聖園女学院高等学校・中学校長

	氏名	在任期間
初 代	白根 松介	1946～1947
第2代	聖園 たへ	1947～1954
第3代	聖園 イグナチア	1954～1973
第4代	小畑 佳子	1973～1975
第5代	石橋 弘子	1975～1981
第6代	橋本 美穂	1981～1985
第7代	平田 スエ子	1985～1987
第8代	赤羽 さち	1987～2007
第9代	清水 ますみ	2007～2017
第10代	ミカエル・カルマノ	2017～

南山小学校長

	氏名	在任期間
初 代	野村 浩一	1936～1937
第2代	高山 孫三郎	1937～1941

南山大学附属小学校長

	氏名	在任期間
初 代	ハンス ユーゲン・マルクス	2008～2014
第2代	西脇 良	2014～2021
第3代	鳥巣 義文	2021～

聖園小学校長

	氏名	在任期間
初 代	聖園 たへ	1947～1954
第2代	聖園 イグナチア	1954～1973
第3代	小畑 佳子	1973～1975
第4代	石橋 弘子	1975～1979

聖園女学院附属聖園幼稚園長

	氏名	在任期間
初 代	聖園 イグナチア	1943～1967
第2代	伊藤 トシ	1967～1968
第3代	村井 正子	1968～1970
第4代	今里 隆子	1970～1973
第5代	中村 淳子	1973～1975
第6代	富山 イツ	1975～1978
第7代	瓦田 国子	1978～1987
第8代	本田 登志子	1987～1997
第9代	山下 説子	1997～2002
第10代	平田 スエ子	2002～2019
第11代	マルチヌス オマン	2019～2022
第12代	濵口　末明	2022～

聖園女学院附属聖園マリア幼稚園長

	氏名	在任期間
初 代	聖園 イグナチア	1966～1967
第2代	伊藤 トシ	1967～1968
第3代	村井 正子	1968～1970
第4代	今里 隆子	1970～1973
第5代	中村 敦子	1973～1975
第6代	富山 イツ	1975～1978
第7代	宮野 福貴子	1978～1986
第8代	橋本 美穂	1986～1987
第9代	髙橋 麗子	1987～1989
第10代	小島 靖子	1989～1995
第11代	近藤 弘子	1995～1996
第12代	宮野 福貴子	1996～2002
第13代	山下 説子	2002～2006
第14代	近藤 弘子	2006～2014
第15代	佐藤 昭子	2014～2016
第16代	平田 スエ子	2016～2017
第17代	櫻井 好枝	2017～2019
第18代	マルチヌス オマン	2019～2022
第19代	濵口　末明	2022～

Ⅱ．財務の概要

【総評】

①経営状況の分析

2022 年度の大型事業として、南山大学ではライネルス中央図書館構想による改修工事に 5 億 50 百万円、同じく図書館の屋上防水・外壁修繕工事に 1 億 33 百万円、空調更新工事に 47 百万円を支出しました。また、2021 年度末に竣工したヤンセン国際寮にかかる事業費として 1 億 70 百万円を支出しました。法人本部では、瀬戸第二交流会館取得費用として 1 億 21 百万円を支出しましたが、購入希望があったため、取得後に売却しています。

その他の経理単位では、南山高等学校・中学校（男子部）がグラウンド地下水路補修工事に 11 百万円、南山高等学校・中学校（女子部）が第 1 体育館空調機更新工事に 10 百万円、聖霊高等学校・中学校が瀬戸市所有の土地購入に 6 百万円、南山国際高等学校・中学校が閉校により生じた補助金返還金として 8 百万円、聖園女学院高等学校・中学校が校内 LAN の更新・光回線の契約変更に 13 百万円、南山大学附属小学校が電話設備更新工事に 4 百万円、聖園女学院附属聖園幼稚園が空調更新工事に 2 百万円、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園がバス運転士派遣委託に 3 百万円、それぞれ支出しました。

2022 年 5 月 1 日現在の学園全体の学生生徒児童幼児数は 14,362 名であり、収容定員数（15,070 名）を 708 名下回りましたが、学生生徒等納付金収入については南山大学が 2021 年度に金額改定を行ったことが収入増加に作用し、前年度と比較して 1 億 86 百万円の増収となりました。しかし、経常費等補助金については、南山大学における私立大学等経常費補助金の収入減が影響し、前年度と比較して 3 億 69 百万円の減収となりました。

2022 年度事業活動収支決算について、事業活動収入計は 184 億 30 百万円、事業活動支出計は 190 億 24 百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は△5 億 94 百万円、基本金組入額 10 億 54 百万円を加えた当年度収支差額は△16 億 48 百万円となりました。

②経営上の成果と課題

基本金組入前当年度収支差額について、2021 年度は 2017 年度以来の収入超過となりましたが、2022 年度は支出超過に転じました。支出超過は南山大学における図書館改修工事（修繕費等）や、一部学部の入学定員超過による私立大学等経常費補助金の収入減が大きな要因であり、これらの影響は単年度に留まりますが、南山大学のヤンセン国際寮にかかる維持費は定常化し、光熱費を筆頭とした価格高騰は、今後も全経理単位に影響を及ぼし続ける可能性があります。

このような状況においても、支出超過が継続して発生する状態に陥らないように、各経理単位は各々で収支改善に努める必要があります。理事会では各経理単位に対し、収支改善の目安となるよう、各経理単位の当年度収支差額を収支均衡以上とする財務目標を第 1 目標として設定しつつ、一部の経理単位には 2020 年度より、財政状況等を踏まえた財務目標を第 2 目標として設定しています。2022 年度は閉校を迎えた南山国際高等学校・中学校以外の経理単位で第 1 目標を達成できず、第 2 目標も新校舎取得に伴う借入金返済額、および減価償却額の影響が大きい南山高等学校・中学校（男子部）と聖霊高等学校・中学校は達成できませんでした。今後は各経理単位において財務目標達成に向けた具体的な取り組みを行う必要があると考えています。

③今後の方針・対応方策

2022 年度には理事会において、学園の財政基盤強化の観点から、財政に係る中長期目標（基準財務シミュレーション）が示され、2027 年度まではこのシミュレーションに沿った財政運営をすることとなりました。各経理単位は先述した単年度の財務目標と、新たな中長期目標の両方を意識することとなりますが、収入面から学生・生徒・児童・幼児数の安定的な確保に努めたうえで、適切な支出（事業計画）を進めることにより両目標を達成し、学園全体の健全な財政基盤確立に繋げるものとします。

【事業活動毎の収支状況】（百万円未満四捨五入）

①教育活動収支差額

科目		本年度決算額（百万円）	前年度決算額（百万円）	差額	特記事項
収入	学生生徒等納付金	12,500	12,314	186	
	手数料	723	750	△27	
	寄付金	303	332	△29	
	経常費等補助金	2,931	3,300	△369	大学経常費補助金減少等
	付随事業収入	242	170	72	
	雑収入	583	497	86	
支出	人件費	11,268	11,052	216	
	教育研究経費	5,751	5,408	343	光熱費高騰等
	管理経費	1,517	1,362	155	
	徴収不能額等	1	1	0	
教育活動収支差額		△1,256	△459	△797	

②教育活動外収支差額

	科目	本年度決算額（百万円）	前年度決算額（百万円）	差額	特記事項
収入	受取利息・配当金	1,008	968	40	
支出	借入金利息	75	79	△4	
教育活動外収支差額		933	889	44	

③特別収支差額

	科目	本年度決算額（百万円）	前年度決算額（百万円）	差額	特記事項
収入	資産売却差額	62	19	43	
	その他の特別収入	75	62	13	
支出	資産処分差額	380	48	332	瀬戸交流会館売却等
	その他の特別支出	28	86	△58	
	特別収支差額	△270	△53	△217	

④当年度収支差額

科目	本年度決算額（百万円）	前年度決算額（百万円）	差額	特記事項
当年度収支差額	△1,648	△924	△724	

⑤翌年度繰越収支差額

科目	本年度決算額（百万円）	前年度決算額（百万円）	差額	特記事項
翌年度繰越収支差額	△35,012	△33,835	△1,177	

【基本金の状況】（百万円未満四捨五入）

基本金全体で 10 億 54 百万円の組入れ、4 億 72 百万円の取崩しとなりました。
主な増減理由は以下のとおりです。

科目	増減（百万円）	主な増減理由	残高（百万円）
第 1 号基本金	536	法人本部：瀬戸交流会館売却による取崩（土地・建物）　5 億 23 百万円 南山大学：図書館改修・空調工事による組入 3 億 82 百万円	90,887
第 2 号基本金	25	南山高等学校・中学校女子部：第 1 体育館改修・改築計画による組入	75
第 3 号基本金	21	南山大学：基金への組入	24,772
第 4 号基本金	0	組入なし	1,458

以上

付記：決算額の詳細は別添の決算報告書をご確認ください。
https://www.nanzan.ac.jp/data/item/pdf/2022_kessan.pdf

法人名: 学校法人 南山学園

資 金 収 支 計 算 書

2022年4月 1日から
2023年3月31日まで

＜総括表＞ （単位:円）

	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	12,491,242,000	12,499,701,824	△ 8,459,824
手数料収入	750,094,000	722,967,020	27,126,980
寄付金収入	311,005,000	306,044,167	4,960,833
補助金収入	3,134,449,000	2,936,583,304	197,865,696
国庫補助金収入	1,203,973,000	1,024,790,000	179,183,000
地方公共団体補助金収入	1,930,476,000	1,911,793,304	18,682,696
資産売却収入	1,385,622,000	1,281,642,553	103,979,447
付随事業・収益事業収入	239,326,000	242,179,508	△ 2,853,508
受取利息・配当金収入	993,140,000	1,007,872,312	△ 14,732,312
雑収入	523,916,000	581,522,712	△ 57,606,712
前受金収入	2,461,276,000	2,478,658,504	△ 17,382,504
その他の収入	4,721,812,000	4,426,987,104	294,824,896
資金収入調整勘定	△ 2,826,395,000	△ 2,976,858,266	150,463,266
当期収入合計	24,185,487,000	23,507,300,742	678,186,258
前年度繰越支払資金	7,547,593,000	7,547,594,583	△ 1,583
収入の部合計	31,733,080,000	31,054,895,325	678,184,675
人件費支出	11,513,806,807	11,227,933,775	285,873,032
教育研究経費支出	4,093,152,000	3,769,858,553	323,293,447
管理経費支出	1,449,080,928	1,266,517,066	182,563,862
借入金等利息支出	78,516,194	75,296,769	3,219,425
借入金等返済支出	730,480,000	730,480,000	0
施設関係支出	643,378,256	615,486,111	27,892,145
設備関係支出	218,153,815	207,335,647	10,818,168
資産運用支出	3,702,910,000	3,411,200,150	291,709,850
その他の支出	4,509,561,000	4,600,034,931	△ 90,473,931
[予備費]	(70,000,000) 0		0
資金支出調整勘定	△ 427,228,000	△ 412,052,291	△ 15,175,709
当期支出合計	26,511,811,000	25,492,090,711	1,019,720,289
翌年度繰越支払資金	5,221,269,000	5,562,804,614	△ 341,535,614
支出の部合計	31,733,080,000	31,054,895,325	678,184,675

付記:私立学校法に基づく収益事業会計は、本計算書には含まれておりません。

法人名: 学校法人 南山学園

活 動 区 分 資 金 収 支 計 算 書

2022年4月 1日から
2023年3月31日まで

＜総括表＞ (単位:円)

		科　目	予算	決　算	差異
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	12,491,242,000	12,499,701,824	△8,459,824
		手数料収入	750,094,000	722,967,020	27,126,980
		特別寄付金収入	211,062,000	220,511,131	△9,449,131
		一般寄付金収入	64,943,000	70,208,036	△5,265,036
		経常費等補助金収入	3,128,666,000	2,930,799,504	197,866,496
		付随事業収入	239,326,000	242,179,508	△2,853,508
		雑収入	521,903,000	578,173,001	△56,270,001
		教育活動資金収入計	17,407,236,000	17,264,540,024	142,695,976
	支出	人件費支出	11,513,806,807	11,227,933,775	285,873,032
		教育研究経費支出	4,093,152,000	3,769,858,553	323,293,447
		管理経費支出	1,448,369,073	1,265,805,211	182,563,862
		教育活動資金支出計	17,055,327,880	16,263,597,539	791,730,341
		差引	351,908,120	1,000,942,485	△649,034,365
		調整勘定等	79,854,000	△96,481,228	176,335,228
		教育活動資金収支差額	431,762,120	904,461,257	△472,699,137
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	35,000,000	15,325,000	19,675,000
		施設設備補助金収入	5,783,000	5,783,800	△800
		施設設備売却収入	108,349,000	110,126,252	△1,777,252
		聖園女学院施設設備拡充引当特定資産取崩収入	15,233,000	15,233,000	0
		施設整備等活動資金収入計	164,365,000	146,468,052	17,896,948
	支出	施設関係支出	643,378,256	615,486,111	27,892,145
		設備関係支出	218,153,815	207,335,647	10,818,168
		第２号基本金引当特定資産繰入支出	25,000,000	25,000,000	0
		減価償却引当特定資産繰入支出	588,334,000	588,334,000	0
		南山学園将来構想引当特定資産繰入支出	350,000,000	350,000,000	0
		施設整備等活動資金支出計	1,824,866,071	1,786,155,758	38,710,313
		差引	△1,660,501,071	△1,639,687,706	△20,813,365
		調整勘定等	△ 63,922,000	△37,290,872	△26,631,128
		施設整備等活動資金収支差額	△1,724,423,071	△1,676,978,578	△47,444,493
小計(教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額)			△1,292,660,951	△772,517,321	△520,143,630
その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入	1,277,243,000	1,171,515,221	105,727,779
		退職給与引当特定資産取崩収入	243,711,000	37,697,606	206,013,394
		イブ・ハツエ国際交流奨励金引当特定資産取崩収入	900,000	750,000	150,000
		南山学園単位校間移籍者人件費引当特定資産取崩収入	24,960,000	25,942,915	△982,915
		有価証券売却益分配引当特定資産　取崩収入	0	1,470,000	△1,470,000
		貸付金回収収入	3,722,000	3,385,942	336,058
		預り金受入収入	3,972,383,000	3,887,812,707	84,570,293
		貯蔵品売却収入	30,000	1,080	28,920
		その他の収入	11,482,000	11,325,654	156,346
		小計	5,534,431,000	5,139,901,125	394,529,875
		受取利息・配当金収入	993,140,000	1,007,872,312	△14,732,312
		過年度修正収入	2,013,000	3,349,711	△1,336,711
		その他の活動資金収入計	6,529,584,000	6,151,123,148	378,460,852
	支出	借入金等返済支出	730,480,000	730,480,000	0
		有価証券購入支出	1,197,436,000	1,110,323,221	87,112,779
		第３号基本金引当特定資産繰入支出	21,116,000	21,129,245	△13,245
		退職給与引当特定資産繰入支出	443,712,000	237,697,606	206,014,394
		イブ・ハツエ国際交流奨励金引当特定資産繰入支出	6,000	6,078	△78
		ICT環境構築費引当特定資産繰入支出	3,305,000	3,305,000	0
		有価証券売却益分配引当特定資産繰入支出	0	1,404,000	△1,404,000
		南山学園総合事業引当特定資産　繰入支出	1,074,001,000	1,074,001,000	0
		貸付金支払支出	24,750,000	10,300,000	14,450,000
		預り金支払支出	3,969,839,000	4,079,390,056	△109,551,056
		その他の支出	5,456,000	6,044,846	△588,846
		小計	7,470,101,000	7,274,081,052	196,019,948
		借入金等利息支出	78,516,194	75,296,769	3,219,425
		過年度修正支出	711,855	711,855	0
		その他の活動資金支出計	7,549,329,049	7,350,089,676	199,239,373
		差引	△1,019,745,049	△1,198,966,528	179,221,479
		調整勘定等	△ 13,918,000	△13,306,120	△611,880
		その他の活動資金収支差額	△1,033,663,049	△1,212,272,648	178,609,599
［予備費］			(70,000,000) 0		0
支払資金の増減額 （小計＋その他の活動資金収支差額-予備費）			△2,326,324,000	△1,984,789,969	△341,534,031
前年度繰越支払資金			7,547,593,000	7,547,594,583	△1,583
翌年度繰越支払資金			5,221,269,000	5,562,804,614	△341,535,614

付記:私立学校法に基づく収益事業会計は、本計算書には含まれておりません。

法人名: 学校法人 南山学園

事 業 活 動 収 支 計 算 書

2022年4月 1日から
2023年3月31日まで

＜総括表＞ （単位:円）

			予　算	決　算	差　異
教育活動収支	事業活動収入	学生生徒等納付金	12,491,242,000	12,499,701,824	△ 8,459,824
		手数料	750,094,000	722,967,020	27,126,980
		寄付金	281,438,000	302,505,410	△ 21,067,410
		経常費等補助金	3,128,666,000	2,930,799,504	197,866,496
		国庫補助金収入	1,203,973,000	1,024,790,000	179,183,000
		地方公共団体補助金収入	1,924,693,000	1,906,009,504	18,683,496
		付随事業収入	239,326,000	242,179,508	△ 2,853,508
		雑収入	521,946,000	582,636,744	△ 60,690,744
		教育活動収入計	17,412,712,000	17,280,790,010	131,921,990
	事業活動支出	人件費	11,567,758,963	11,267,885,988	299,872,975
		教育研究経費	6,066,258,492	5,751,232,191	315,026,301
		管理経費	1,734,769,073	1,517,204,089	217,564,984
		徴収不能額等	501,000	501,000	0
		教育活動支出計	19,369,287,528	18,536,823,268	832,464,260
	教育活動収支差額		△ 1,956,575,528	△ 1,256,033,258	△ 700,542,270
教育活動外収支	事業活動収入	受取利息・配当金	993,140,000	1,007,872,312	△ 14,732,312
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	993,140,000	1,007,872,312	△ 14,732,312
	事業活動支出	借入金等利息	78,516,194	75,296,769	3,219,425
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	78,516,194	75,296,769	3,219,425
	教育活動外収支差額		914,623,806	932,575,543	△ 17,951,737
経常収支差額			△ 1,041,951,722	△ 323,457,715	△ 718,494,007
特別収支	事業活動収入	資産売却差額	62,240,000	62,210,153	29,847
		その他の特別収入	87,143,000	75,263,566	11,879,434
		特別収入計	149,383,000	137,473,719	11,909,281
	事業活動支出	資産処分差額	380,066,489	379,957,818	108,671
		その他の特別支出	27,993,789	27,993,789	0
		特別支出計	408,060,278	407,951,607	108,671
	特別収支差額		△ 258,677,278	△ 270,477,888	11,800,610
[予備費]			(70,000,000) 0		0
基本金組入前当年度収支差額			△ 1,300,629,000	△ 593,935,603	△ 706,693,397
基本金組入額合計			△ 1,217,989,000	△ 1,054,272,129	△ 163,716,871
当年度収支差額			△ 2,518,618,000	△ 1,648,207,732	△ 870,410,268
前年度繰越収支差額			△ 33,835,323,000	△ 33,835,321,735	△ 1,265
基本金取崩額			429,712,000	471,838,101	△ 42,126,101
翌年度繰越収支差額			△ 35,924,229,000	△ 35,011,691,366	△ 912,537,634
(参考)					
事業活動収入計			18,555,235,000	18,426,136,041	129,098,959
事業活動支出計			19,855,864,000	19,020,071,644	835,792,356

付記:私立学校法に基づく収益事業会計は、本計算書には含まれておりません。

法人名: 学校法人 南山学園

貸 借 対 照 表

2023年3月31日

＜総括表＞ (単位:円)

資産の部

科　　目	本 年 度 末	前 年 度 末	増　　減
固定資産	93,831,587,988	93,493,245,262	338,342,726
有形固定資産	58,134,490,000	60,036,293,383	△ 1,901,803,383
土地	16,450,695,647	16,700,955,715	△ 250,260,068
建物	32,305,537,855	33,578,612,879	△ 1,273,075,024
構築物	2,130,906,725	2,411,065,192	△ 280,158,467
教育研究用機器備品	856,282,128	999,781,814	△ 143,499,686
管理用機器備品	74,644,231	60,903,173	13,741,058
図書	6,309,986,469	6,275,414,431	34,572,038
車両	3,437,785	6,561,019	△ 3,123,234
建設仮勘定	2,999,160	2,999,160	0
特定資産	35,090,465,740	32,870,682,332	2,219,783,408
第2号基本金引当特定資産	75,000,000	50,000,000	25,000,000
第3号基本金引当特定資産	24,771,865,402	24,750,736,157	21,129,245
減価償却引当特定資産	1,510,906,000	922,572,000	588,334,000
聖園施設設備拡充引当特定資産	351,236,858	351,236,858	0
南山学園将来構想引当特定資産	1,400,000,000	1,050,000,000	350,000,000
南山学園瀬戸聖霊キャンパス整備資金引当特定資産	40,000,000	40,000,000	0
南山大学施設設備拡充引当特定資産	400,000,000	400,000,000	0
南山高等学校・中学校女子部施設設備拡充引当特定資産	50,000,000	50,000,000	0
ICT環境構築費引当特定資産	6,610,000	3,305,000	3,305,000
聖園女学院高等・中学校施設設備拡充引当特定資産	951,052,000	966,285,000	△ 15,233,000
聖園女学院附属聖園幼稚園施設設備拡充引当特定資産	249,052,784	249,052,784	0
聖園女学院附属聖園マリア幼稚園施設設備拡充引当特定資産	201,600,000	201,600,000	0
南山学園単位校間人件費引当特定資産	1,338,789,578	1,364,732,493	△ 25,942,915
退職給与引当特定資産	2,100,024,259	1,900,024,259	200,000,000
諸宗教研究援助引当特定資産	111,396,715	111,396,715	0
有価証券売却益分配引当特定資産	3,612,000	3,678,000	△ 66,000
南山大学短期留学奨学金引当特定資産	200,000,000	200,000,000	0
奨学引当特定資産	123,964,301	123,964,301	0
イブ・ハツエ国際交流奨励金引当特定資産	17,174,843	17,918,765	△ 743,922
学生緊急支援引当特定資産	114,180,000	114,180,000	0
南山学園総合事業引当特定資産	1,074,001,000	0	1,074,001,000
その他の固定資産	606,632,248	586,269,547	20,362,701
電話加入権	10,548,493	10,854,253	△ 305,760
施設利用権	5,240,276	5,369,506	△ 129,230
ソフトウェア	37,916,656	59,611,579	△ 21,694,923
収益事業元入金	463,707,083	428,126,593	35,580,490
長期貸付金	19,019,740	12,107,616	6,912,124
差入保証金	70,200,000	70,200,000	0
流動資産	6,200,818,005	8,129,230,604	△ 1,928,412,599
現金預金	5,562,804,614	7,547,594,583	△ 1,984,789,969
未収入金	515,907,822	445,084,080	70,823,742
貯蔵品	13,335,593	14,003,980	△ 668,387
立替金	1,676,729	6,970,427	△ 5,293,698
前払金	106,988,997	115,486,174	△ 8,497,177
預け金	104,250	91,360	12,890
資産の部合計	100,032,405,993	101,622,475,866	△ 1,590,069,873

負債の部

科　　目	本 年 度 末	前 年 度 末	増　　減
固定負債	13,365,326,836	14,176,554,399	△ 811,227,563
長期借入金	8,067,010,000	8,797,410,000	△ 730,400,000
長期未払金	1,658,485,908	1,746,792,444	△ 88,306,536
退職給与引当金	3,317,824,702	3,282,244,378	35,580,324
長期預り金	322,006,226	350,107,577	△ 28,101,351
流動負債	4,487,300,141	4,672,206,848	△ 184,906,707
短期借入金	730,400,000	730,480,000	△ 80,000
未払金	379,450,562	417,204,531	△ 37,753,969
前受金	2,478,671,254	2,462,267,994	16,403,260
預り金	898,778,325	1,062,254,323	△ 163,475,998
負債の部合計	17,852,626,977	18,848,761,247	△ 996,134,270

純資産の部

科　　目	本 年 度 末	前 年 度 末	増　　減
基本金	117,191,470,382	116,609,036,354	582,434,028
第1号基本金	90,886,604,980	90,350,300,197	536,304,783
第2号基本金	75,000,000	50,000,000	25,000,000
第3号基本金	24,771,865,402	24,750,736,157	21,129,245
第4号基本金	1,458,000,000	1,458,000,000	0
繰越収支差額	△ 35,011,691,366	△ 33,835,321,735	△ 1,176,369,631
翌年度繰越収支差額	△ 35,011,691,366	△ 33,835,321,735	△ 1,176,369,631
純資産の部合計	82,179,779,016	82,773,714,619	△ 593,935,603
負債及び純資産の部合計	100,032,405,993	101,622,475,866	△ 1,590,069,873

付記:私立学校法に基づく収益事業会計は、本計算書には含まれておりません。

学校法人南山学園　2022 年度決算補足資料について

学校法人南山学園 2022 年度決算に係る補足資料として、学校法人会計が企業会計と異なる点を踏まえた各計算書類とその科目についての説明および過去 5 年間の財務数値・財務比率の推移に関する以下の資料をあわせて掲載いたします。

資料 1	学校法人会計の説明	
資料 2	資金収支計算書 グラフ 1－1～2	2018－2022 年度（5 年間）推移
資料 3	活動区分資金収支計算書 グラフ 2	2018－2022 年度（5 年間）推移
資料 4	事業活動収支計算書 グラフ 3－1～4	2018－2022 年度（5 年間）推移
資料 5	財務比率（事業活動収支関連） グラフ 4	2018－2022 年度（5 年間）推移
資料 6	貸借対照表 グラフ 5－1～2	2018－2022 年度（5 年間）推移
資料 7	財務比率（貸借対照表関連） グラフ 6	2018－2022 年度（5 年間）推移

（特記事項）

・金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など金額が一致しない場合があります。

資料１　＜学校法人会計の説明＞

学校法人会計が企業会計と異なる点を踏まえ、各計算書類とその科目について説明いたします。

私立学校（学校法人）は、その運営費の一部として国や地方公共団体から経常費補助金の交付を受けています。
この補助金を受ける場合、「学校法人会計基準」に従って計算書類を作成し、計算書類を所轄庁に届け出ることが義務付けられています（私立学校振興助成法　第 14 条）。この計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表）は以下のとおりです。

(1)-1　資金収支計算書

年間の諸活動に対応する全ての資金の動きを明らかにする計算書

当該年度の現金・預貯金（支払資金）の支払と受入の顛末を表す書類であり、教育研究諸活動に対応して生じる全ての収入および支出の内容を明らかにするものです。企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書と同じく資金の収支内容と顛末を明らかにすることを目的としていますが活動に収入と支出を関連付けて表示していない点で大きく異なります。

また、学校法人会計基準特有の考え方で、調整勘定というものがあります。資金収支計算書は本来あるべき年度に収支を計上する発生主義と、実際の資金の出入りを計上する現金主義の折衷を図っています。例えば、大学の新入生の授業料は通常前年度までに納入されます。新入生に対する授業自体は入学年度から行われるため、入学年度の収入とするのが妥当です。しかし、実際には前年度に納入されており、入学年度の収入としてしまうと支払資金の残高が合わなくなってしまいます。そこで、入学年度には授業料収入として計上するとともに、前期末前受金という調整勘定を用いてマイナス計上し、調整します。これにより、入学年度の授業料収入を正しく認識するとともに、実際の資金の残高を把握することが可能になります。調整勘定には前受金の他に、未収入金、未払金、前払金があります。

＜資金調整勘定＞

期末未収入金：当年度中に収受すべき収入のうち、入金が翌年度以降になるもの
前期末前受金：当年度中に収受すべき収入のうち、前年度までに入金済みのもの
期末未払金：当年度中に支払うべき支出のうち、翌年度以降に支払うもの
前期末前払金：当年度中に支払うべき支出のうち、前年度まで支払済みのもの

＜資金収支計算書の科目の解説＞

・学生生徒等納付金収入

学生・生徒・児童から教育の対価として徴収させて頂いている収入です。入学金や授業料などがあります。

・手数料収入

教育研究活動に付随して用益の提供を行い、その対価として徴収させて頂いている収入です。入学検定料などがあります。

・寄付金収入

金銭の寄付を頂いた際に計上される収入です。寄付者が特定の意図を持って寄付したものや、学校が用途を指定して募集したものを「特別寄付金」、特に用途指定の無いものを「一般寄付金」といいます。

・補助金収入

国または地方公共団体からの助成金です。

・資産売却収入

固定資産等を売却した時に得られた収入です。

・付随事業・収益事業収入

食堂・売店・学生寮・スクールバスなど教育に付随する活動によって得られた収入および寄附行為に規定した収益事業がある場合の収益事業会計から繰り入れられた収入です。

・受取利息・配当金収入

学校法人が所有する資産を運用した結果得られた収入です。預貯金の利息や有価証券の配当金による収入などがあります。

・雑収入

上記に含まれない収入で事業活動収入となるものです。私学の退職金団体からの交付金や施設利用料収入などがあります。

・借入金等収入

新規の借入れによる資金調達のことです。南山学園は発行していませんが、学校債発行による収入も含まれます。

・前受金収入

翌年度の事業活動収入とすべきもので当会計年度末までに入金があった場合に使われます。

・人件費支出

学校法人と雇用契約によって提供される労働サービスの対価として支払われる支出です。

・教育研究経費支出

教育研究のための経費支出です。ただし、学生生徒等を募集するための経費は管理経費支出になります。

・管理経費支出

教育研究経費支出以外の経費支出です。

・借入金等利息支出

借入金や学校債などの債務から発生する利息支出です。

・借入金等返済支出

借入金や学校債などの債務の返済支出です。

・施設関係支出

学校法人が使用する土地、建物、構築物などを取得するための支出です。

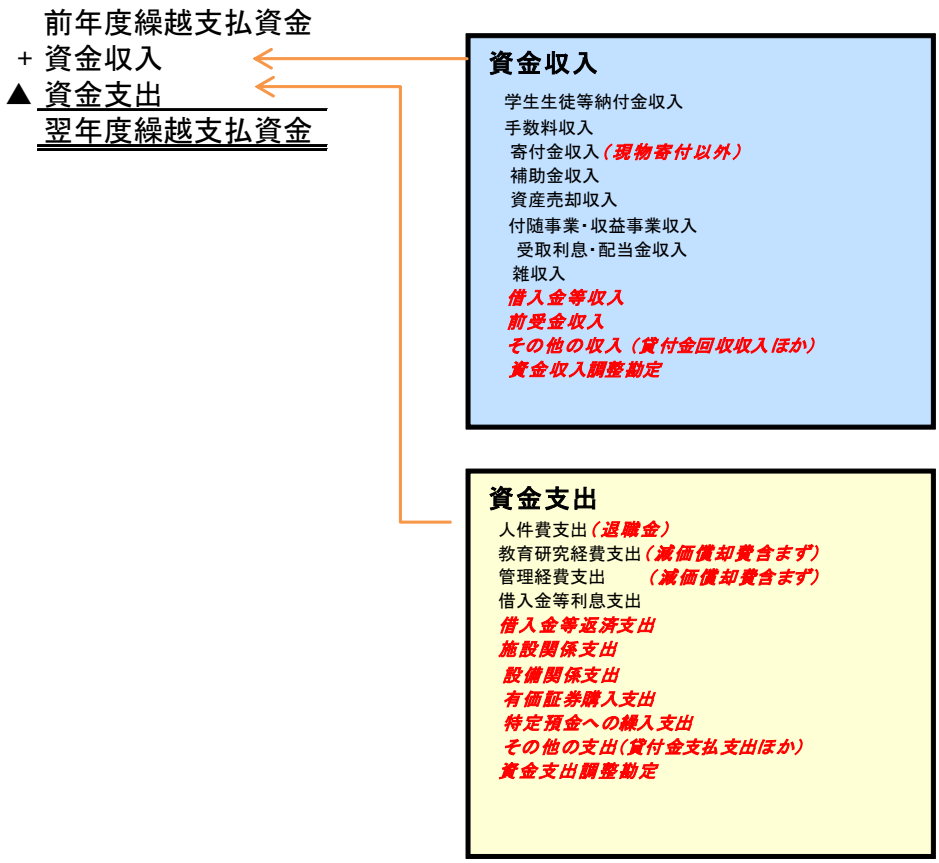
・設備関係支出

学校法人が使用する備品、図書、車輌などを取得するための支出です。

・資産運用支出

有価証券の購入や引当特定資産への繰入のための支出です。

資金収支計算書の計算



※上記の図の*斜体字*は、資金収支計算書と事業活動収支計算書とで内容が異なる科目

(1)-2 活動区分資金収支計算書

資金収支計算書の付表であり、活動区分ごとの資金の流れがわかる計算書

＜活動区分＞

①教育活動による資金収支

学校の本業である教育活動（研究活動を含む）に関係する収入・支出が該当します。ただし、教育活動の範囲は多岐に渡り、定義が困難なことから以下の②、③にあてはまらないものを計上することとしています。

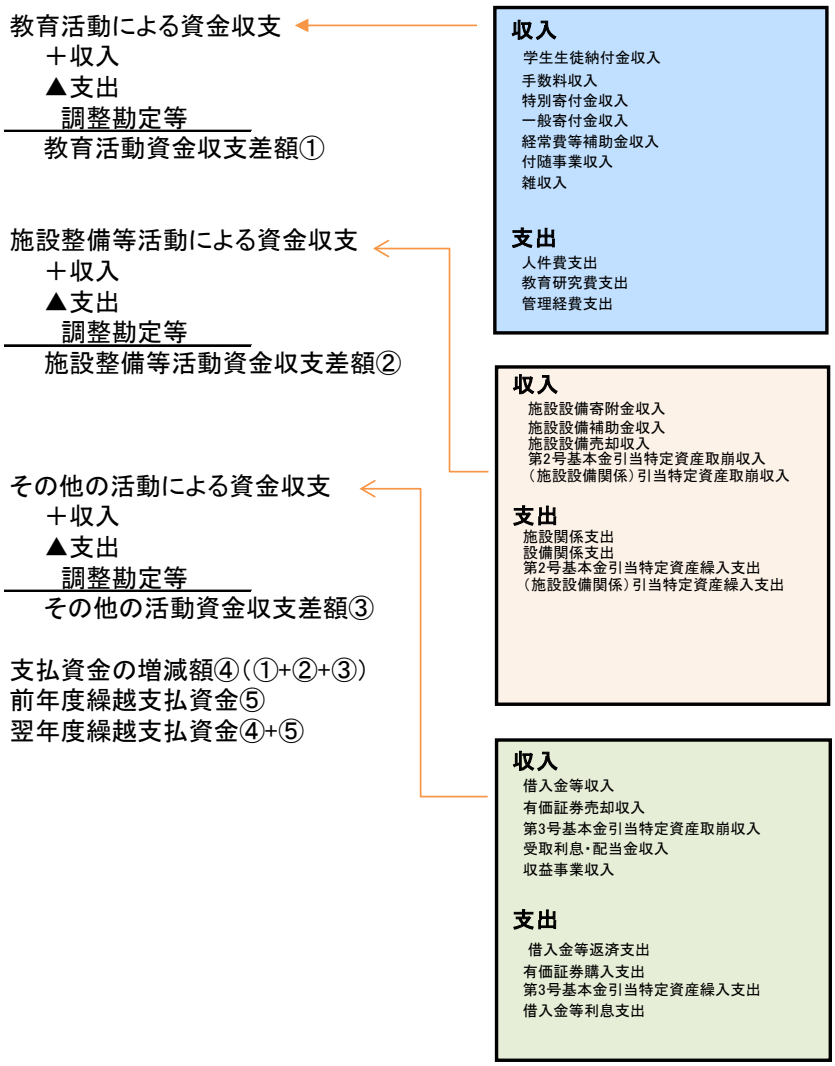
②施設整備等活動による資金収支

施設設備に関係する収入・支出が該当します。例えば固定資産の購入や売却、施設設備の拡充のための寄付金や補助金、施設設備の取得を目的とした特定資産への繰入や戻入等が挙げられます。

③その他の活動による資金収支

財務活動（資金調達・資金運用）、収益事業、預り金の受け払い等の経過的な活動、過年度修正額による収入・支出が該当します。

活動区分資金収支計算書の計算



(2)事業活動収支計算書

当該年度における収支の状況を明らかにする計算書

事業活動収支計算書は単年度の事業活動収入と事業活動支出の差額から基本金組入額を控除した当年度収支差額によって、収支の均衡状態を明らかにする計算書であり、企業会計における損益計算書に相当します。

事業活動収支計算書では、資金の増減を示すのではなく、経営状態が健全であるかを示すための実質的な収支を計算します。このため資金収支計算書の収入や支出とその内容が異なります。

例えば、支払資金の増加や減少を伴わない現物寄付、減価償却額、退職給与引当金繰入額、徴収不能引当金繰入額などを事業活動収支計算書では収入または支出に含めます。

逆に支払資金の増加や減少を伴う借入金等収入、預り金収入、前受金収入、借入金返済支出、施設関係支出、設備関係支出等は事業活動収支計算書では収入または支出に含めません。

企業会計では、収益から費用を引くことにより利益を計算します。これに対して学校法人会計では、まず事業活動収入から事業活動支出を引くことにより基本金組入前当年度収支差額を計算します。そして、さらに学校法人が維持すべき資産に相当する金額である基本金への組入額を控除して収支差額を計算する点が特徴的です。企業では、利益額を大きくすることが求められますが、学校法人では長期的にはこの差額が過大にならず、収支均衡であることが要請されています。

＜事業活動収支計算書の用語の解説＞

(1)事業活動収入

学生生徒等納付金、補助金、寄付金、資産運用収入などの負債とはならず純資産を増加させる収入のことです(学校法人会計基準　第 16 条)。

負債の性質をもつ借入金、前受金、預り金などは事業活動収入には含めません。

事業活動収入＝学校法人の負債とならない収入＝純資産を増加させる収入

(2)事業活動支出

人件費をはじめ光熱水費、消耗品費等の費用は純資産を減少させる支出であるため、これらを事業活動支出としています。光熱水費、消耗品費等は使途により教育研究経費と管理経費に分類されます。

借入金等返済支出や貸付金支払支出等は、資金は減少するものの同時に負債の減少や資産の増加を伴うため純資産は減少しておらず、事業活動支出には該当しないことになります。

一方、減価償却額、退職給与引当金繰入額、徴収不能引当金繰入額等、資金支出を伴わないが該当期間の費用とすべきものは事業活動支出として計上します。

(3)基本金組入前当年度収支差額

事業活動収入から事業活動支出を差し引いて計算されます。企業会計の「当期純利益(損失)」と比較されるもので学校法人会計基準改正前は帰属収支差額と呼ばれていました。

(4)基本金組入額

学校法人が教育研究活動を行っていくためには、校地、校舎、機器備品、図書、現金・預金などの資産は必須であり、これらを継続的に保持するために学校法人会計独特の「基本金」制度があります(学校法

人会計基準　第 29 条)。

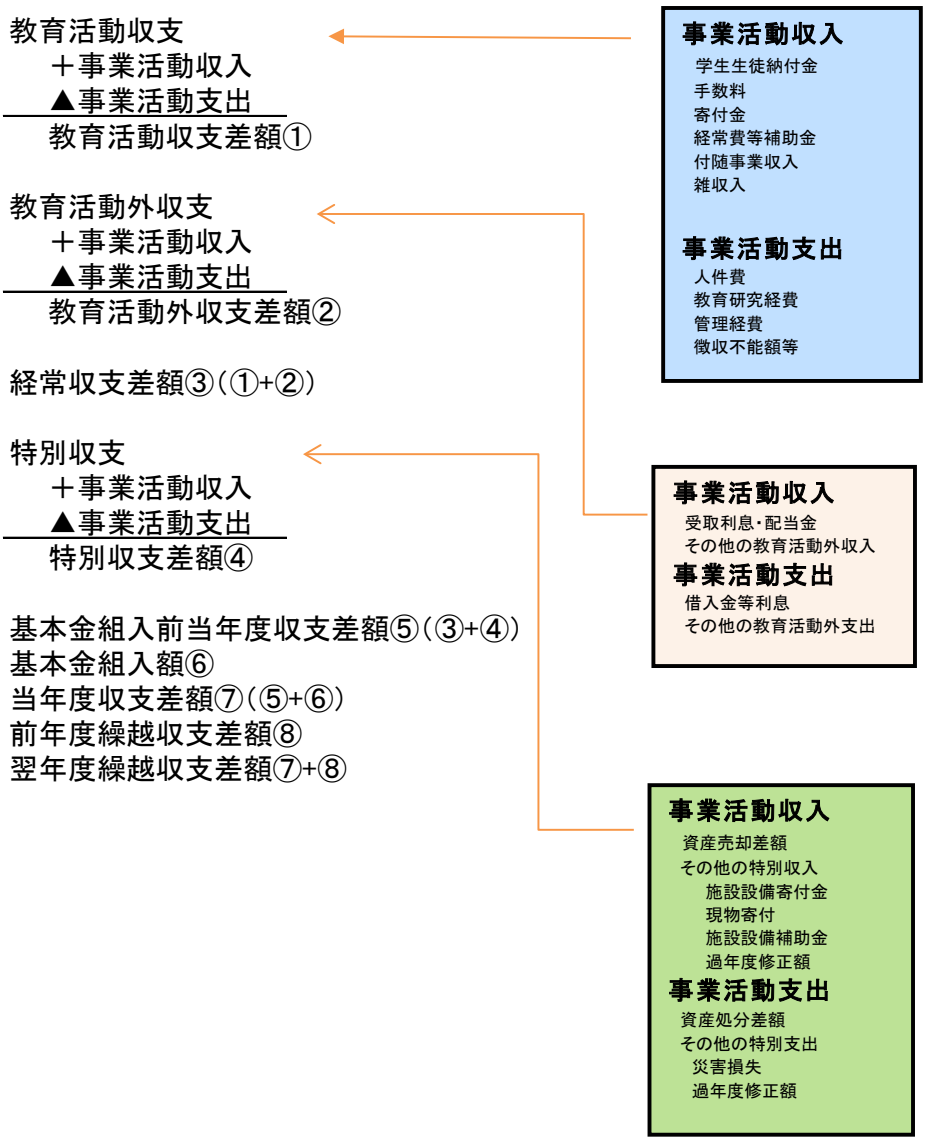
学校法人会計基準において、学校法人が維持すべき資産として以下の 4 種類をあげ、それに相当する金額を事業活動収入から基本金として組み入れる必要があります(学校法人会計基準　第 30 条)。

第 1 号基本金:校地、校舎、機器備品、図書等の自己資金で取得した固定資産の取得価額
第 2 号基本金:将来取得する固定資産の取得に充てる予定の預金などの資産の額
第 3 号基本金:奨学基金、研究基金などとして継続的に保持・運用する資産の額
第 4 号基本金:文部科学大臣が定める恒常的に保持すべき運転資金の額

(5) 当年度収支差額

基本金組入前当年度収支差額に基本金組入額を加味したものを当年度収支差額といいます。学校法人会計ではこの差額が過大にならず、収支均衡であることが要請されています。

事業活動収支計算書の計算



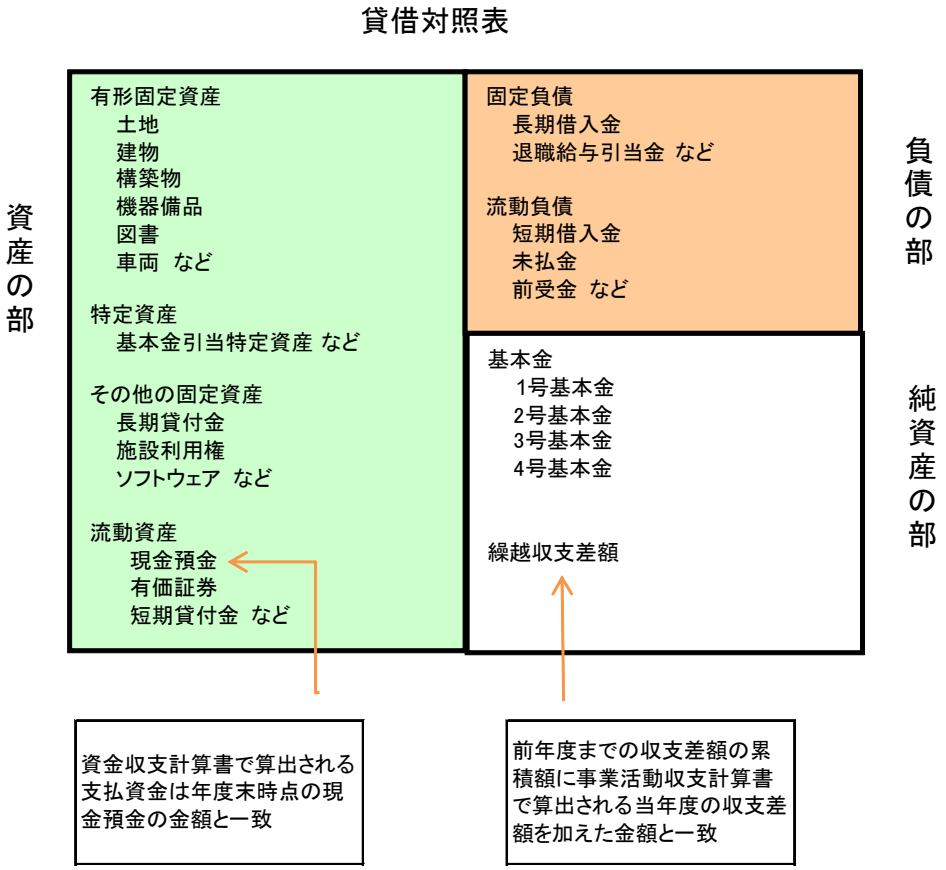
(3) 貸借対照表

年度末における財政状態を表わす表

貸借対照表は、当該年度の決算日（年度の末日）における資産（現金預金、固定資産等）や負債（借入金等）の内容とその金額を明示し、学校の財政状態を明らかにすることを目的としています。
また、資金収支計算書および事業活動収支計算書は、年度中における収入および支出の状況、すなわち、年度中の動き（フロー）を示すのに対し、貸借対照表は決算日における財産の金額（ストック）を表しています。

資産と負債の差額は企業会計と同様に「純資産の部」と呼ばれています。企業会計では「純資産の部」は主として株主に帰属する部分である株主資本ですが、学校法人会計では「基本金」と「繰越収支差額」の合計を指します。

また、企業会計ではほとんどの場合、流動性の高いものから順に記載していきますが、学校法人会計では固定資産、固定負債が流動資産、流動負債より先に記載されています。これは固定性配列法と呼ばれ、固定資産の占める割合が極めて高い場合に用いられ、学校法人の他にも電気会社やガス会社で採用されています。

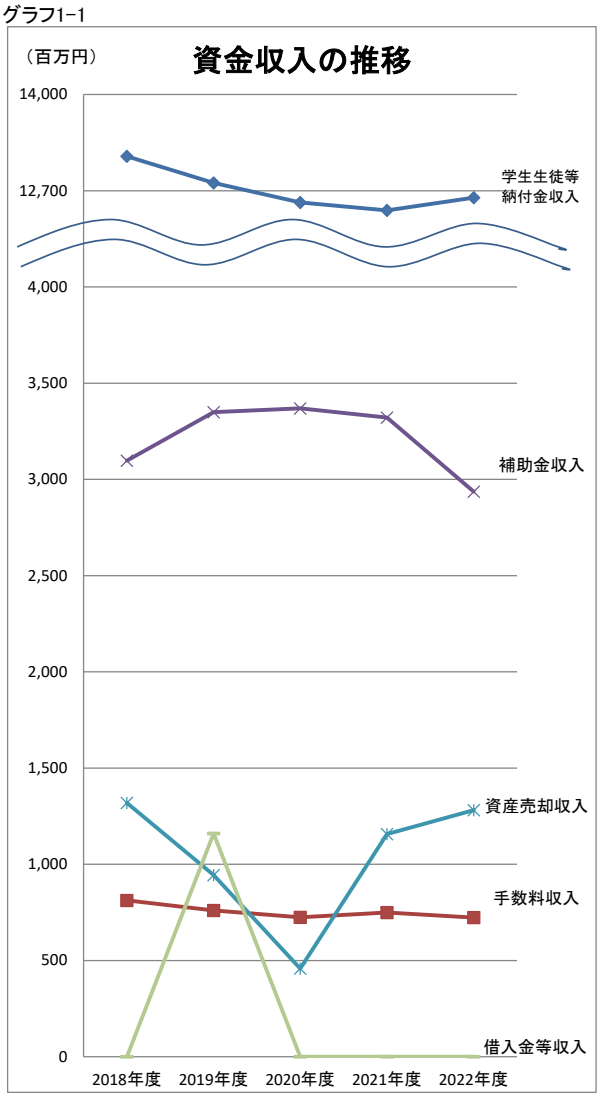


資料2　資金収支計算書　2018-2022年度(5年間)推移

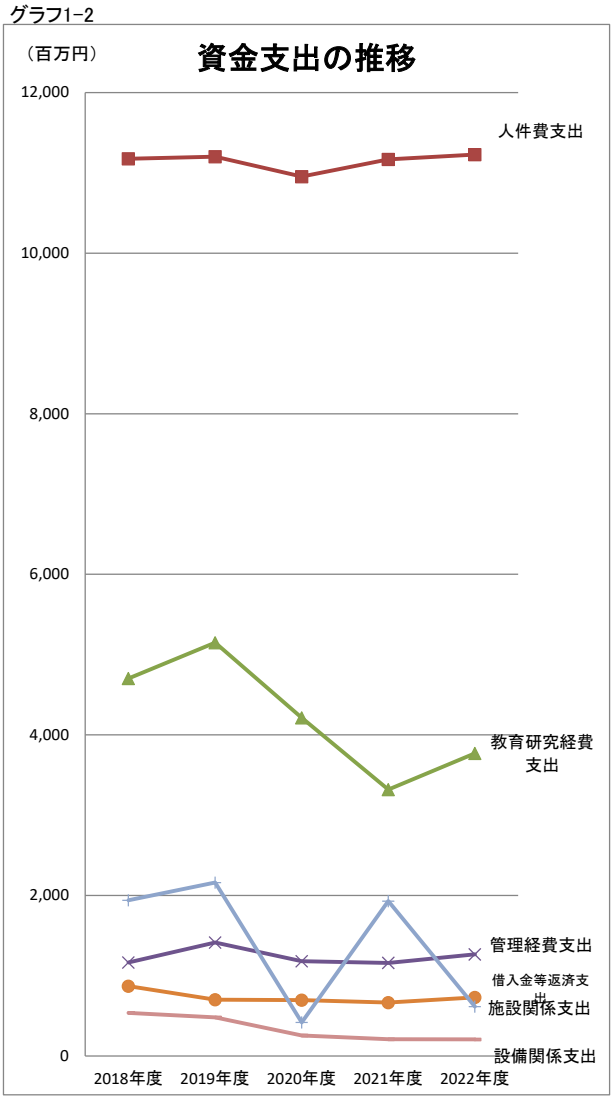
（単位：百万円）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
資金収入の部					
学生生徒等納付金収入	13,100	12,715	12,429	12,314	12,500
手数料収入	813	760	725	749	723
寄付金収入	416	322	448	334	306
補助金収入	3,097	3,350	3,369	3,321	2,937
資産売却収入	1,319	944	458	1,157	1,282
付随事業・収益事業収入	230	225	161	170	242
受取利息・配当金収入	785	810	882	968	1,008
雑収入	638	519	573	488	582
借入金等収入	0	1,160	0	0	0
前受金収入	2,299	2,424	2,382	2,462	2,479
その他の収入	5,613	5,521	5,177	5,032	4,427
資金収入調整勘定	△ 2,941	△ 2,863	△ 2,913	△ 2,827	△ 2,977
当期収入合計	25,368	25,885	23,691	24,168	23,507
前年度繰越支払資金	12,026	9,971	7,296	7,549	7,548
収入の部合計	37,394	35,857	30,986	31,717	31,055
資金支出の部					
人件費支出	11,176	11,202	10,954	11,168	11,228
教育研究経費支出	4,703	5,149	4,213	3,319	3,770
管理経費支出	1,164	1,414	1,182	1,159	1,267
借入金等利息支出	64	87	85	79	75
借入金等返済支出	871	701	696	666	730
施設関係支出	1,941	2,161	419	1,930	615
設備関係支出	537	482	255	210	207
資産運用支出	4,289	3,884	1,005	2,211	3,411
その他の支出	4,626	5,129	5,316	5,662	4,600
資金支出調整勘定	△ 1,949	△ 1,647	△ 689	△ 2,234	△ 412
当期支出合計	27,423	28,561	23,437	24,169	25,492
翌年度繰越支払資金	9,971	7,296	7,549	7,548	5,563
支出の部合計	37,394	35,857	30,986	31,717	31,055

グラフ1-1



グラフ1-2

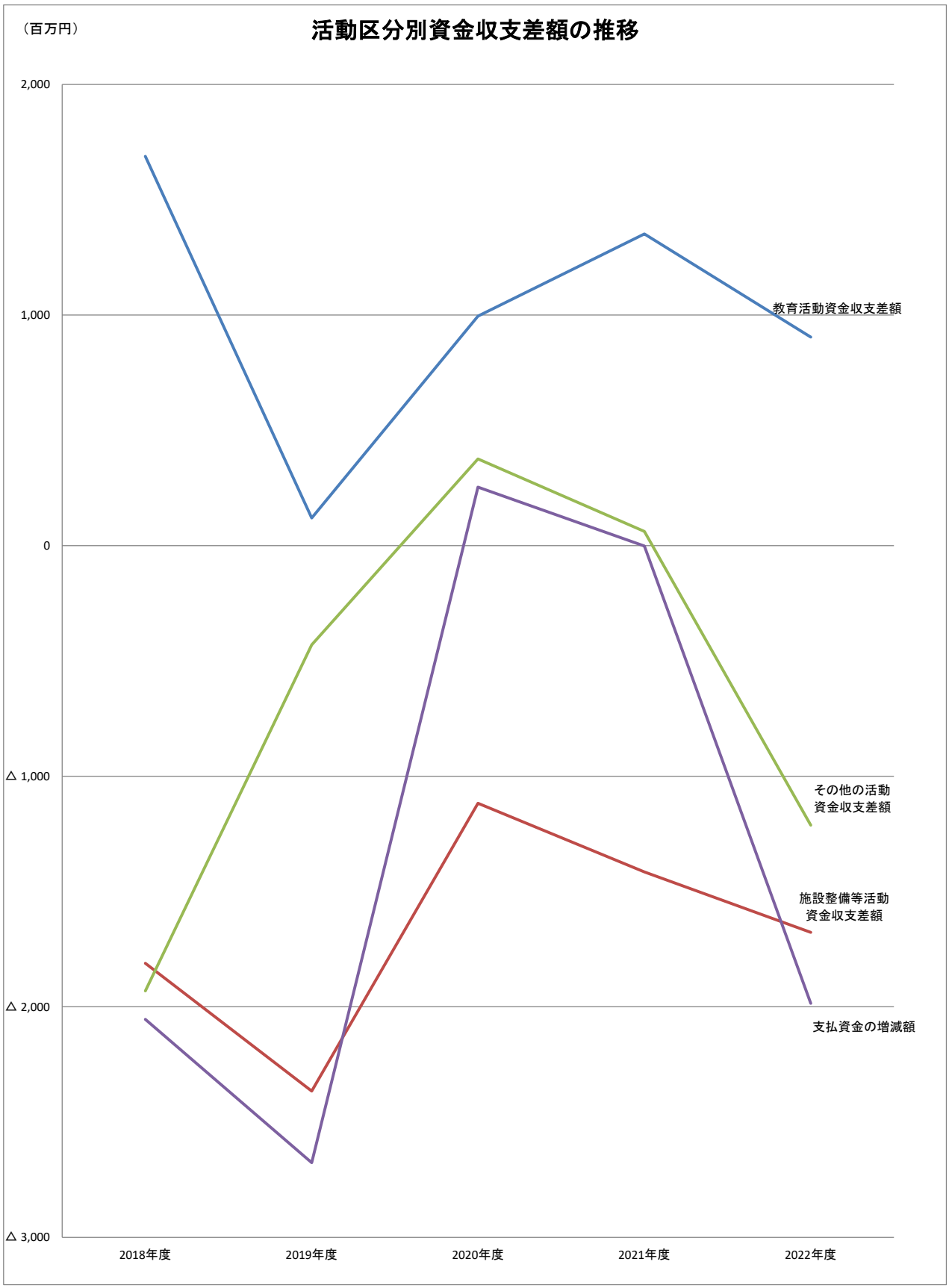


資料3 活動区分資金収支計算書 2018-2022年度(5年間)推移

(単位:百万円)

科目 ／ 年度			2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	13,100	12,715	12,429	12,314	12,500
		手数料収入	813	760	725	749	723
		特別寄付金収入	330	212	259	242	221
		一般寄付金収入	70	87	173	74	70
		経常費等補助金収入	3,041	3,173	3,319	3,300	2,931
		付随事業収入	230	225	161	170	242
		雑収入	633	514	563	486	578
		教育活動資金収入計	18,217	17,685	17,628	17,336	17,265
	支出	人件費支出	11,176	11,202	10,954	11,168	11,228
		教育研究経費支出	4,703	5,149	4,213	3,319	3,770
		管理経費支出	1,162	1,305	1,163	1,157	1,266
		教育活動資金支出計	17,041	17,656	16,330	15,643	16,264
	差引		1,177	30	1,298	1,692	1,001
	調整勘定等		512	90	△ 303	△ 341	△ 96
	教育活動資金収支差額		1,688	120	995	1,351	904
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	15	23	16	18	15
		施設設備補助金収入	56	177	50	21	6
		施設設備売却収入	1	0	33	140	110
		第2号基本金引当特定資産取崩収入	653	287	0	0	0
		その他の引当特定資産取崩収入	313	162	0	300	15
		施設整備等活動資金収入計	1,038	648	99	479	146
	支出	施設関係支出	1,941	2,161	419	1,930	615
		設備関係支出	537	482	255	210	207
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	0	0	25	25	25
		その他の引当特定資産繰入支出	932	591	227	885	938
		施設整備等活動資金支出計	3,410	3,234	926	3,050	1,786
	差引		△ 2,372	△ 2,586	△ 827	△ 2,571	△ 1,640
	調整勘定等		561	220	△ 290	1,156	△ 37
	施設整備等活動資金収支差額		△ 1,811	△ 2,365	△ 1,117	△ 1,415	△ 1,677
小計(教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額)			△ 123	△ 2,246	△ 122	△ 64	△ 773
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	0	1,160	0	0	0
		有価証券売却収入	1,318	944	425	1,017	1,172
		第3号基本金引当特定資産取崩収入	431	0	5	0	0
		その他の収入	3,770	4,606	4,607	4,244	3,968
		小計	5,519	6,710	5,038	5,260	5,140
		受取利息・配当金収入	785	810	882	968	1,008
		過年度修正収入	5	5	10	2	3
		その他の活動資金収入計	6,309	7,525	5,930	6,230	6,151
	支出	借入金等返済支出	871	701	696	666	730
		有価証券購入支出	1,296	950	446	1,014	1,110
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	440	11	0	18	21
		その他の支出	5,581	6,209	4,202	4,402	5,412
		小計	8,187	7,870	5,344	6,101	7,274
		借入金等利息支出	64	87	85	79	75
		過年度修正支出	2	109	19	2	1
		その他の活動資金支出計	8,253	8,066	5,448	6,182	7,350
	差引		△ 1,944	△ 541	483	48	△ 1,199
	調整勘定等		13	111	△ 107	14	△ 13
	その他の活動資金収支差額		△ 1,931	△ 430	376	62	△ 1,212
支払資金の増減額 (小計＋その他の活動資金収支差額)			△ 2,054	△ 2,676	254	△ 2	△ 1,985
前年度繰越支払資金			12,026	9,971	7,296	7,549	7,548
翌年度繰越支払資金			9,971	7,296	7,549	7,548	5,563

グラフ2

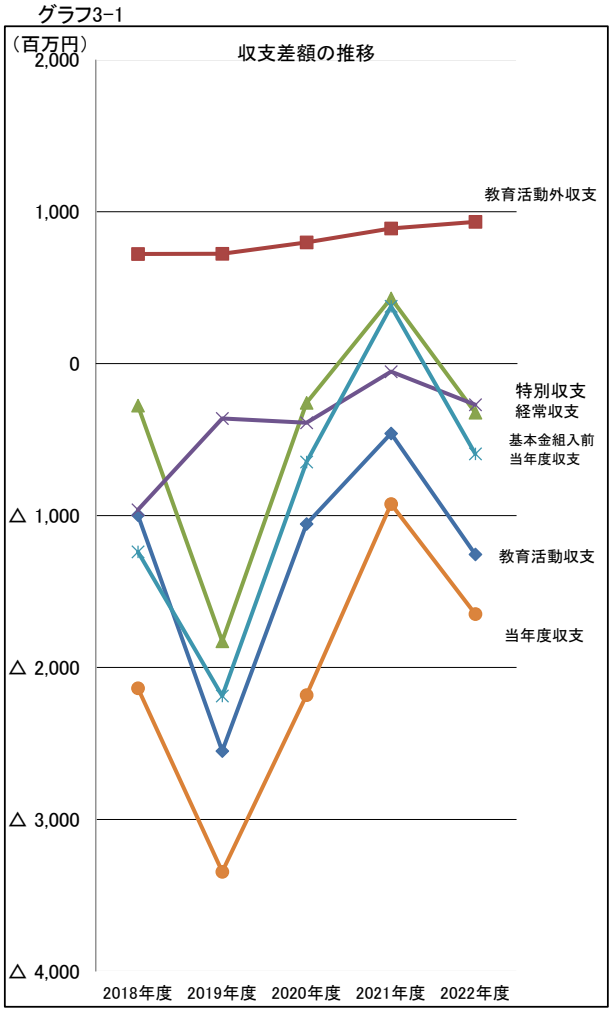

（百万円）
活動区分別資金収支差額の推移
2,000
1,000
0
△ 1,000
△ 2,000
△ 3,000
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
教育活動資金収支差額
その他の活動
資金収支差額
施設整備等活動
資金収支差額
支払資金の増減額

資料4　事業活動収支計算書　2018～2022年度(5年間)推移

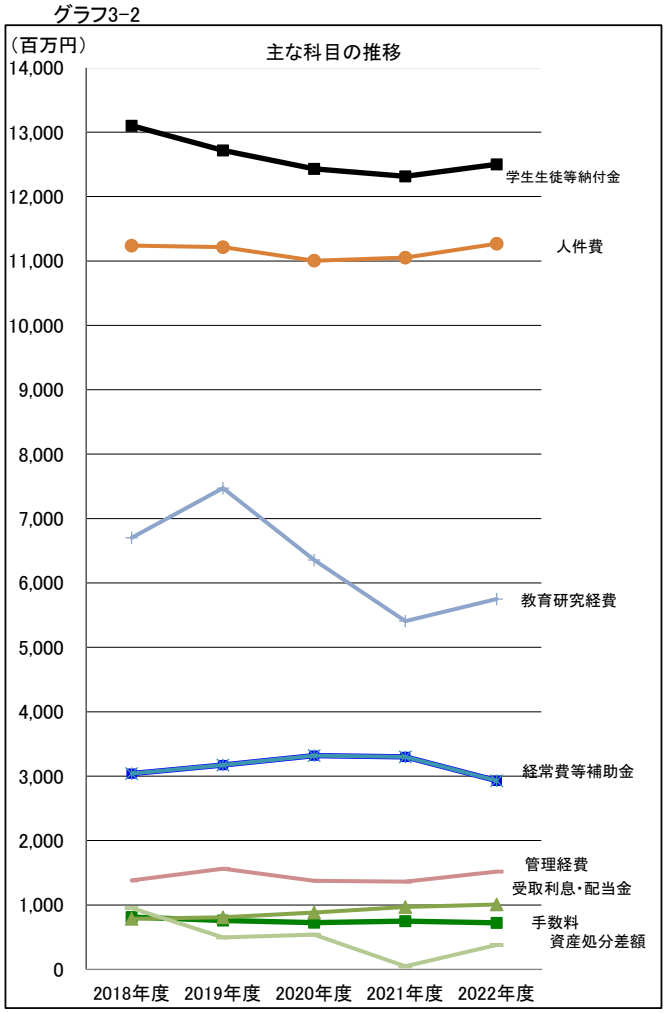
（単位：百万円）

		科　目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
教育活動収支	事業活動収入	学生生徒等納付金	13,100	12,715	12,429	12,314	12,500
		手数料	813	760	725	749	723
		寄付金	415	307	454	332	303
		経常費等補助金	3,041	3,173	3,319	3,300	2,931
		付随事業収入	230	225	161	170	242
		雑収入	732	525	594	497	583
		教育活動収入計	18,330	17,705	17,681	17,362	17,281
	事業活動支出	人件費	11,239	11,216	11,003	11,052	11,268
		（退職給与引当金組入額・退職金）	682	585	553	469	743
		教育研究経費	6,703	7,473	6,356	5,408	5,751
		（減価償却額）	1,985	2,040	2,124	2,074	1,968
		管理経費	1,383	1,564	1,374	1,362	1,517
		（減価償却額）	221	217	212	207	253
		徴収不能額等	2	2	2	0	1
		教育活動支出計	19,328	20,254	18,736	17,822	18,537
		教育活動収支差額	△ 997	△ 2,549	△ 1,055	△ 459	△ 1,256
教育活動外収支	事業活動収入	受取利息・配当金	785	810	882	968	1,008
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	785	810	882	968	1,008
	事業活動支出	借入金等利息	64	87	85	79	75
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	64	87	85	79	75
		教育活動外収支差額	721	722	797	889	933
		経常収支差額	△ 276	△ 1,827	△ 258	430	△ 323
特別収支	事業活動収入	資産売却差額	23	0	68	19	62
		その他の特別収入	106	244	108	62	75
		特別収入計	129	244	177	81	137
	事業活動支出	資産処分差額	952	496	538	48	380
		その他の特別支出	138	109	28	86	28
		特別支出計	1,091	605	566	134	408
		特別収支差額	△ 962	△ 360	△ 390	△ 53	△ 270
基本金組入前当年度収支差額			△ 1,238	△ 2,188	△ 647	377	△ 594
基本金組入額合計			△ 898	△ 1,156	△ 1,534	△ 1,301	△ 1,054
当年度収支差額			△ 2,137	△ 3,344	△ 2,181	△ 924	△ 1,648
前年度繰越収支差額			△ 31,066	△ 31,016	△ 33,207	△ 33,058	△ 33,835
基本金取崩額			2,186	1,154	2,330	146	472
翌年度繰越収支差額			△ 31,016	△ 33,207	△ 33,058	△ 33,835	△ 35,012
（参考）							
事業活動収入計			19,244	18,759	18,740	18,411	18,426
事業活動支出計			20,482	20,946	19,387	18,034	19,020

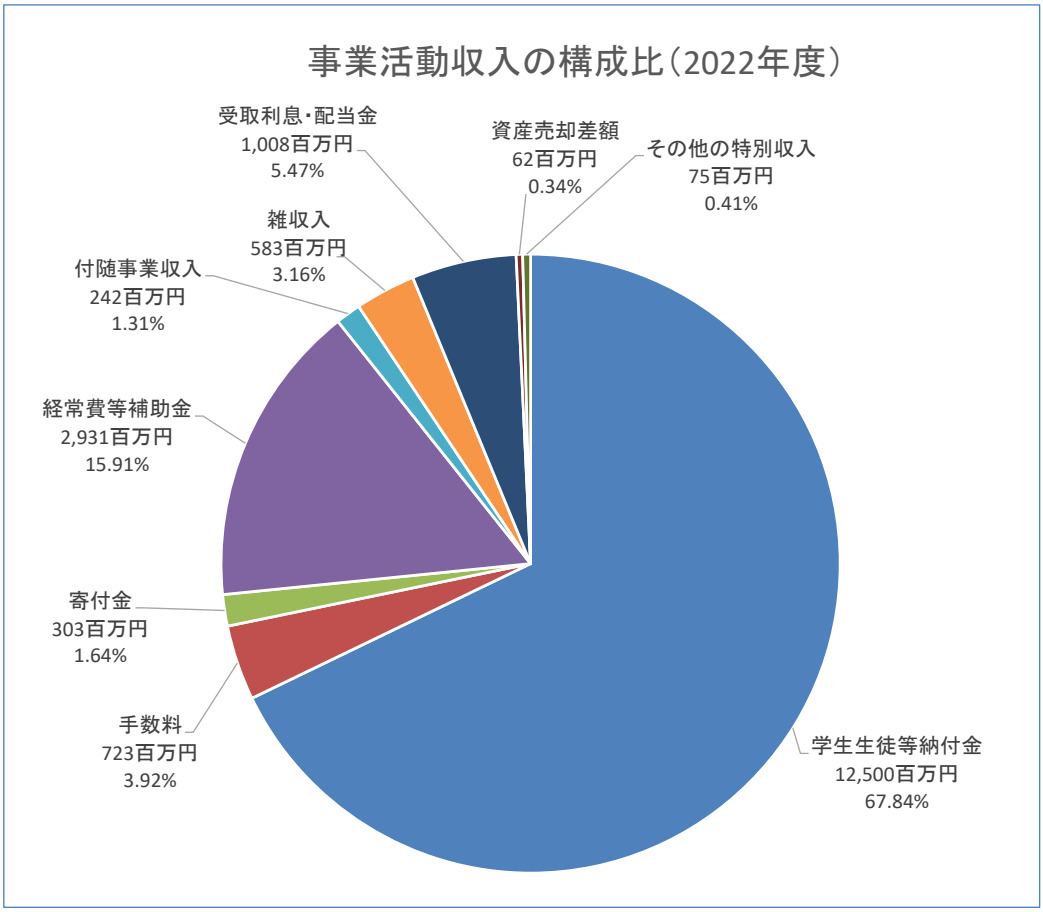
グラフ3-1



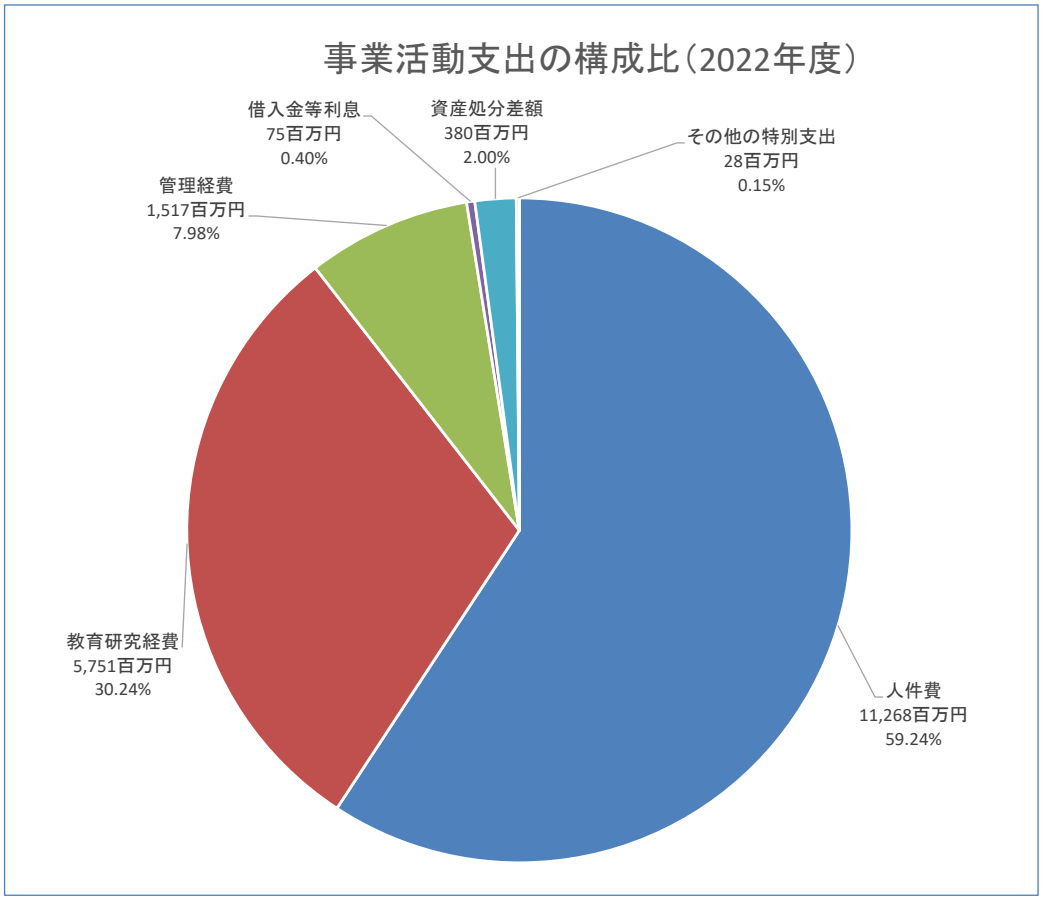
グラフ3-2



グラフ3-3


事業活動収入の構成比（2022年度）
受取利息・配当金
1,008百万円
5.47%
資産売却差額
62百万円
0.34%
その他の特別収入
75百万円
0.41%
雑収入
583百万円
3.16%
付随事業収入
242百万円
1.31%
経常費等補助金
2,931百万円
15.91%
寄付金
303百万円
1.64%
手数料
723百万円
3.92%
学生生徒等納付金
12,500百万円
67.84%

グラフ3-4

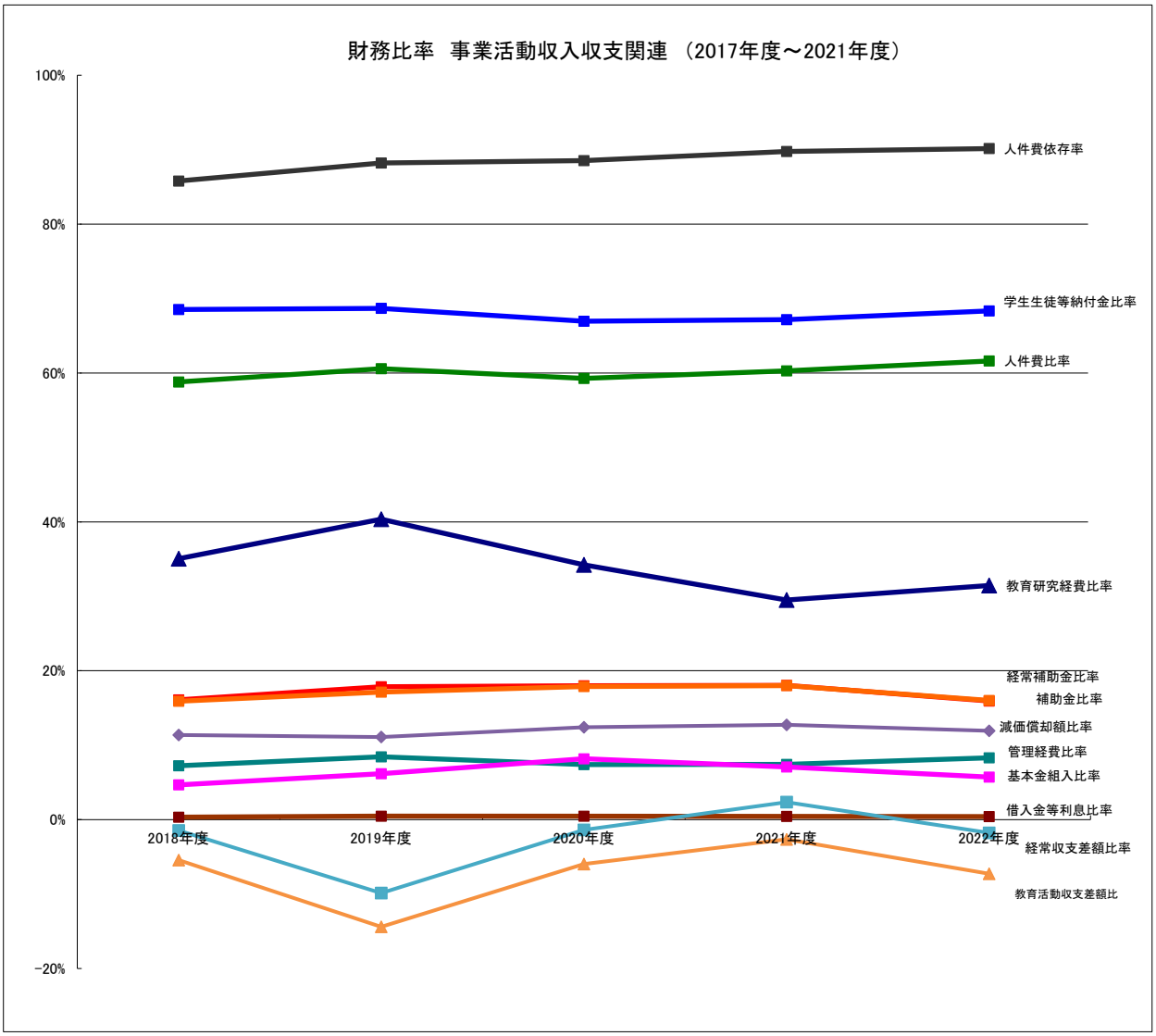

事業活動支出の構成比（2022年度）
借入金等利息
75百万円
0.40%
資産処分差額
380百万円
2.00%
その他の特別支出
28百万円
0.15%
管理経費
1,517百万円
7.98%
教育研究経費
5,751百万円
30.24%
人件費
11,268百万円
59.24%

資料5　財務比率（事業活動収支関連）　2018-2022年度（5年間）推移

比率	計算式	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	全国平均　※1	評価指標　※2
人件費比率	人件費/経常収入	58.8%	60.6%	59.3%	60.3%	61.6%	51.3%	▼
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	85.8%	88.2%	88.5%	89.7%	90.1%	69.7%	▼
教育研究経費比率	教育研究経費/経常収入	35.1%	40.4%	34.2%	29.5%	31.4%	34.3%	△
管理経費比率	管理経費/経常収入	7.2%	8.4%	7.4%	7.4%	8.3%	8.3%	▼
借入金等利息比率	借入金等利息/経常収入	0.3%	0.5%	0.5%	0.4%	0.4%	0.1%	▼
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/経常収入	68.5%	68.7%	67.0%	67.2%	68.3%	73.6%	～
補助金比率	補助金/事業活動収入	16.1%	17.9%	18.0%	18.0%	15.9%	14.3%	△
経常補助金比率	教育活動収支の補助金/経常収入	15.9%	17.1%	17.9%	18.0%	16.0%	14.1%	△
基本金組入比率	基本金組入額/事業活動収入	4.7%	6.2%	8.2%	7.1%	5.7%	10.1%	△
減価償却額比率	減価償却額/経常支出	11.4%	11.1%	12.4%	12.7%	11.9%	11.8%	～
経常収支差額比率	経常収支差額/経常収入	−1.4%	−9.9%	−1.4%	2.3%	−1.8%	5.9%	～
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額/教育活動収入計	−5.4%	−14.4%	−6.0%	−2.6%	−7.3%	4.2%	～

※1　全国平均　：大学法人（医歯系法人を除く）の令和二年度全国平均　典拠：「今日の私学財政」（日本私立学校振興・共済事業団）より
※2　評価指標　：評価は、それぞれの大学法人の特殊性があり一概にはいえないが、一般的には以下のように考えられる
△高い値がよい　▼低い値が良い　～どちらともいえない

グラフ4

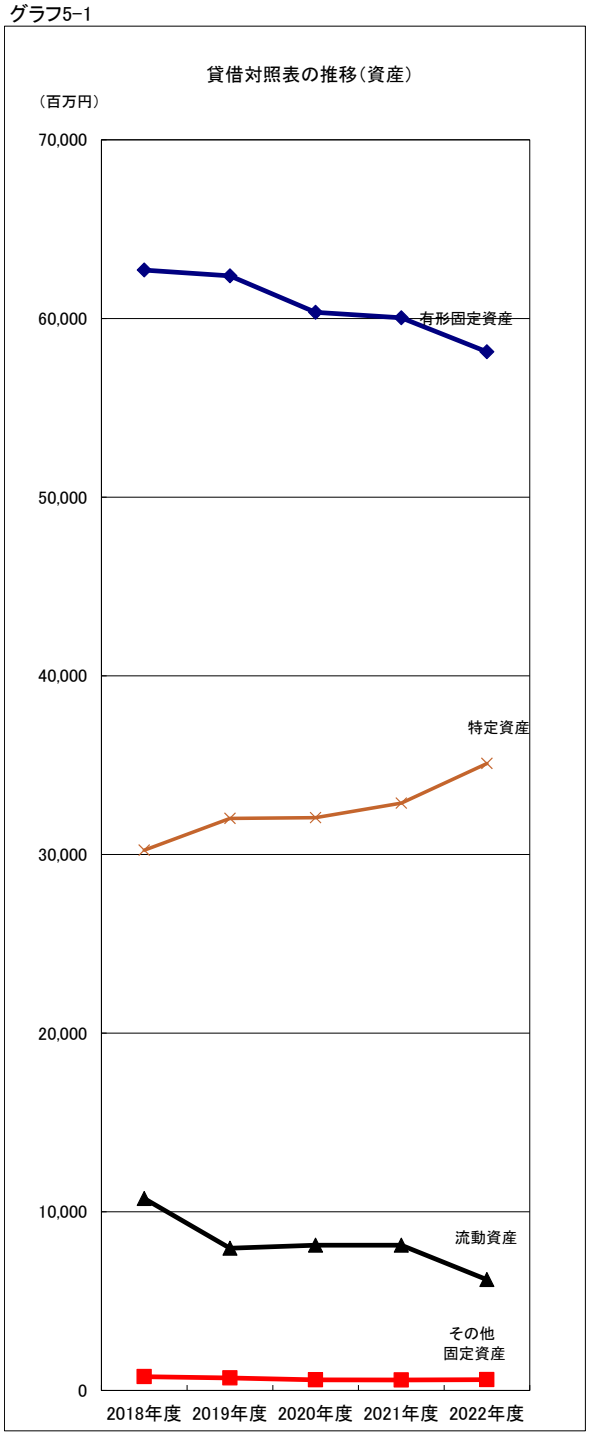


資料6　貸借対照表2018-2022年度(5年間)推移

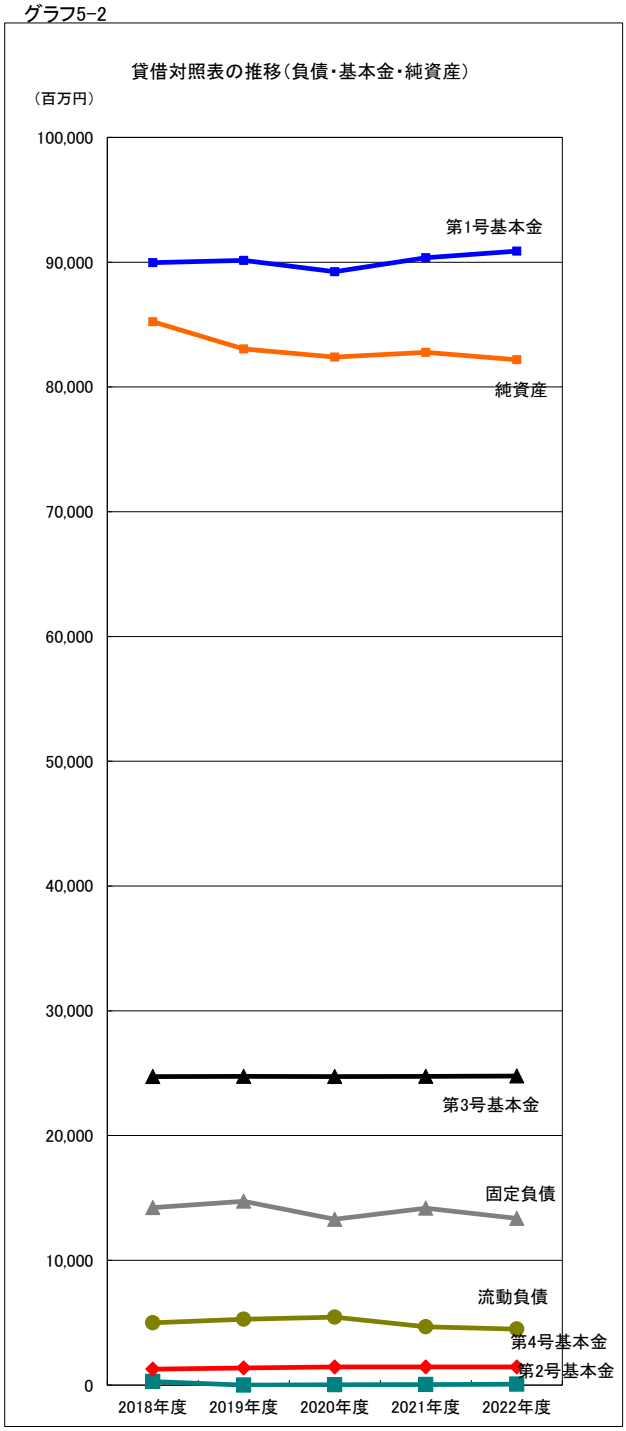
（単位：百万円）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
資産の部					
固定資産	93,717	95,096	93,004	93,493	93,832
有形固定資産	62,708	62,389	60,347	60,036	58,134
特定資産	30,239	32,012	32,063	32,871	35,090
その他固定資産	770	694	594	586	607
流動資産	10,741	7,957	8,134	8,129	6,201
資産の部合計	104,458	103,053	101,138	101,622	100,032
負債の部					
固定負債	14,232	14,733	13,295	14,177	13,365
流動負債	4,994	5,276	5,447	4,672	4,487
負債の部合計	19,226	20,009	18,741	18,849	17,853
純資産の部					
基本金	116,248	116,251	115,454	116,609	117,191
第1号基本金	89,955	90,138	89,239	90,350	90,887
第2号基本金	287	0	25	50	75
第3号基本金	24,727	24,738	24,732	24,751	24,772
第4号基本金	1,280	1,375	1,458	1,458	1,458
繰越収支差額	△ 31,016	△ 33,207	△ 33,058	△ 33,835	△ 35,012
翌年度繰越収支差額	△ 31,016	△ 33,207	△ 33,058	△ 33,835	△ 35,012
純資産の部合計	85,232	83,044	82,397	82,774	82,180
負債および純資産の部合計	104,458	103,053	101,138	101,622	100,032

グラフ5-1



グラフ5-2

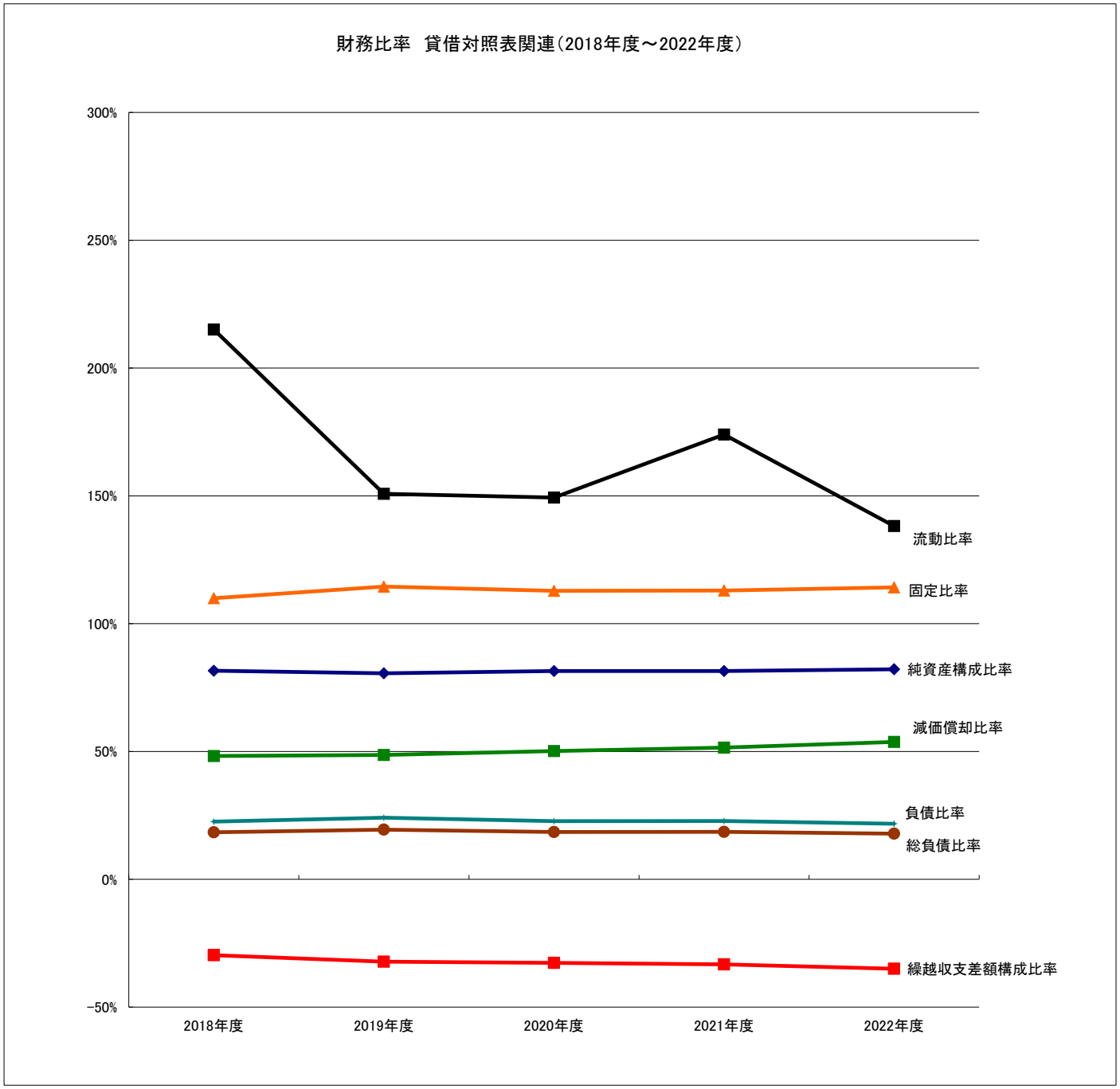


資料7　財務比率（貸借対照表関連）　2018-2022年度（5年間）推移

比率	計算式	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	全国平均 ※1	評価指標 ※2
純資産構成比率	純資産/（負債+純資産）	81.6%	80.6%	81.5%	81.5%	82.2%	88.0%	△
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額/（負債+純資産）	−29.7%	−32.2%	−32.7%	−33.3%	−35.0%	−15.2%	△
固定比率	固定資産/純資産	110.0%	114.5%	112.9%	113.0%	114.2%	97.6%	▼
減価償却比率	減価償却累計額/減価償却資産取得額	48.2%	48.6%	50.2%	51.5%	53.7%	54.3%	～
流動比率	流動資産/流動負債	215.1%	150.8%	149.3%	174.0%	138.2%	262.9%	△
総負債比率	総負債/総資産	18.4%	19.4%	18.5%	18.5%	17.8%	12.0%	▼
負債比率	総負債/純資産	22.6%	24.1%	22.7%	22.8%	21.7%	13.6%	▼

※1　全国平均　：大学法人（医歯系法人を除く）の令和二年度全国平均　　典拠：「今日の私学財政」（日本私立学校振興・共済事業団）より
※2　評価指標　：評価は、それぞれの大学法人の特殊性があり一概にはいえないが、一般的には以下のように考えられる
△高い値がよい　▼低い値が良い　～どちらともいえない

グラフ6



学校法人南山学園　財産目録［２０２３年３月３１日現在］

（単位　円）

Ⅰ．資産総額			100,032,405,993
内　１．基本財産			57,282,256,344
２．運用財産			42,750,149,649
［収益事業用財産			463,707,083 ］
Ⅱ．負債総額			17,852,626,977
［収益事業用負債			0 ］
Ⅲ．正味財産			82,179,779,016
［1］　資　産			100,032,405,993
１．基本財産			57,282,256,344
（１）土地	474,315.92	㎡	15,619,786,441
（２）建物	264,934.62	㎡	32,265,773,949
（３）構築物	652	件	2,111,429,525
（４）機器備品			930,926,359
ア　教育研究用機器備品	19,344	点	856,282,128
イ　管理用機器備品	349	点	74,644,231
（５）図書	1,153,914	冊	6,309,986,469
（６）車輌	36	台	3,437,785
（７）建設仮勘定	1	件	2,999,160
（８）ソフトウェア	14	ロ	37,916,656
２．運用財産			42,750,149,649
（１）預貯金・現金			5,562,804,614
ア　預貯金		諸口	5,558,044,886
イ　現金			4,759,728
（２）特定資産		諸口	35,090,465,740
（３）不動産			870,673,112
ア　土地	99,218.88	㎡	830,909,206
イ　建物	2,461.58	㎡	39,763,906
（４）構築物	31	件	19,477,200
（５）電話加入権	203	本	10,548,493
（６）施設利用権	11	件	5,240,276
（７）長期貸付金	33	ロ	19,019,740
（８）差入保証金	1	ロ	70,200,000
（９）収益事業元入金	1	ロ	463,707,083
（10）貯蔵品		諸口	13,335,593

（11） 未　収　入　金		諸口	515,907,822
（12） 前　　払　　金		諸口	106,988,997
（13） 立　　替　　金	15	口	1,676,729
（14） 預　　け　　金	7	口	104,250
［ 収益事業用財産 ］			463,707,083
（１） 土　　地	4,524.86	㎡	454,645,362
（２） 建　　物	183.04	㎡	1
（３） 預 貯 金 ・ 現 金			9,061,720
ア 預　　貯　　金	1	口	9,061,720
イ 現　　金			0

［2］　負　債　　**17,852,626,977**

１．固定負債			13,365,326,836
（１） 長 期 借 入 金	9	口	8,067,010,000
（２） 退 職 給 与 引 当 金		諸口	3,317,824,702
（３） 長 期 預 り 金		諸口	322,006,226
（４） 長 期 未 払 金	8	口	1,658,485,908
２．流動負債			4,487,300,141
（１） 返済期限が１年以内の長期	9	口	730,400,000
（２） 前　　受　　金	10,836	口	2,478,671,254
（３） 未　　払　　金		諸口	379,450,562
（４） 預　　り　　金		諸口	898,778,325
［ 収益事業用負債 ］			0

［3］　借用財産

（１） 土　　地	56,966.53	㎡
（２） 建　　物	3,832.94	㎡

監　査　報　告　書

2023年5月22日

学校法人南山学園
　理　事　会　御中
　評議員会　御中

学校法人南山学園
監事　蒔田
監事　根本景子

私たち監事は、私立学校法第37条第3項および学校法人南山学園寄附行為第15条第1項の規定にもとづき、学校法人南山学園の2022年度の業務および財産の状況ならびに理事の業務執行の状況について監査を行いましたので、その結果について以下のとおり報告します。

1．監査の方法

監査にあたり、理事会、評議員会およびその他の重要な会議に出席し意見を述べたほか、理事の業務を確認するとともに、計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表）等および南山大学における公的研究費の管理・執行について確認し、必要と思われる監査手続きを実施しました。

2．監査の結果

(1)　本法人の業務に関する決定および執行は、適切な手続きを経て行われており、業務もしくは財産または理事の業務執行に関する不正の行為はなく、かつ法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

(2)　計算書類等は、本法人の収支および財産の状況を適正に表示しているものと認めます。

(3)　南山大学における公的研究費の管理・執行は、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（令和3年2月1日改正、文部科学大臣決定）にもとづき、適正に行われているものと認めます。

以上

南山学園役員報酬・退職金支給規程

（目的）

第１条　学校法人南山学園寄附行為第 37 条の規定に基づく、役員の報酬等の支給の基準については、この規程の定めるところによる。

（定義等）

第２条　この規程において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

１　役員とは、理事および監事をいう。

２　この法人の職員とは、学校法人南山学園と直接雇用関係のある者をいう。

３　報酬等とは、報酬、退職金その他の役員としての職務執行の対価として受ける財産上の利益であって、その名称の如何を問わない。この役員の報酬等には、職員に対する各学校の給与規程に基づくものを含まない。

４　費用とは、役員としての職務執行に伴い生じる旅費（交通費、宿泊費等）、会合参加費および手数料等の経費をいう。

（報酬等の支給）

第３条　役員に対しては、次のとおり報酬等を支給するものとする。

１　理事　　報酬、退職金

２　常任監事　　報酬、退職金

３　監事　　報酬

②　退職にあたっては、前項に定める退職金以外については、功労金をはじめとするいかなる金員も支給しない。

（報酬等の額の算定方法）

第４条　理事に対する報酬等の額は、次のとおりとする。

１　この法人の職員である理事

(1)　報酬　　別表第１に定める額

(2)　退職金　別表第６に定める額

２　この法人の職員でない理事

(1)　報酬　　別表第２に定める額

(2)　退職金　別表第７に定める額

②　常任監事に対する報酬等の額は、次のとおりとする。

１　報酬　　別表第２に定める額

２　退職金　別表第７に定める額

③　監事に対する報酬の額は別表第２および別表第３に定める額とする。

④　報酬の基礎となる指定職俸給表は別表第４、期末手当基礎額への加算月数および加算乗率は別表第５のとおりとする。

（報酬等の支給方法）

第５条　役員に対する報酬等の支給の時期は、次の各号による報酬等の区分に応じて、当該各号

に定める時期とする。

1　報酬　毎月 17 日（ただし、支給日が休日または土曜日にあたる場合は、16 日、16 日が土曜日に当たるときは、15 日とする。）

2　退職金　任期の満了、辞任または死亡により退職した後 1 か月以内

②　報酬等は、通貨により本人に支給する。ただし、本人の同意を得れば、本人の指定する金融機関の口座に振り込むことができる。

③　報酬等は、法令の定めるところによる控除すべき金額および本人から申し出のあった立替金、積立金等を控除して支給する。

（費用）

第６条　役員には、南山大学出張等に関する規程に準じて、旅費を支給する。

②　役員が職務の執行にあたって旅費以外の費用を要する場合は、当該費用を支給する。

（報酬の日割り計算）

第７条　新たに役員に就任した者には、就任の日から月末までの日割計算で報酬を支給する。

②　役員が退任し、または解任された場合は、発令の日の属する月分の全額を支給する。

（端数の処理）

第８条　この規程により、報酬の計算金額に1,000円未満の端数が生じたときは、その端数金額が500円未満であるときは、これを切り捨て、その端数金額が500円以上であるときは、これを1,000円に切り上げるものとする。

②　退職金の計算金額に 100 円未満の端数が生じたときは、その端数金額を切り上げるものとする。

③　費用の計算金額に１円未満の端数が生じたときは、その端数金額が50銭未満であるときは、これを切り捨て、その端数金額が50銭以上であるときは、これを１円に切り上げるものとする。

（公表）

第９条　この法人は、この規程をもって、私立学校法第 63 条の２第 4 号に定める報酬等の支給の基準として公表する。

（補則）

第 10 条　この規程の実施に関し必要な事項は、理事長が、別に定める。

第 11 条　この規程の改廃は、評議員会の意見を聴いた上で、学園理事会の議決により行う。

附　　則

1　この規程は、2020 年 4 月 1 日より施行する。

2　次の規程は、これを廃止する。

(1)　南山学園役員給与規程（平成 4 年 4 月 1 日施行）

(2)　南山学園役員退職金支給規程（平成 4 年 4 月 1 日施行）

附　　則

この規程の改正は、2021 年 4 月 1 日より施行する。

別　　表　第１　この法人の職員である理事の報酬

報酬はポイント制とし、1ポイント月額16,000円とする。

区分	役職名、ポイントの基準	ポイント
基本	理事	6
	常務理事	18
	副理事長	18
	理事長	30
加算	常務理事で担当理事を委嘱された者 受けた者	１つにつき3
	理事で担当理事を委嘱された者	１つにつき6

別　　表　第２　この法人の職員でない理事および常任監事の報酬

報酬は以下の算式により算出する額とする。

区分	役員区分	報酬（月額）
基本	この法人の職員でない理事	〔指定職俸給表指定額×12ヶ月+期末手当(指定職俸給表指定額×加算月数×加算乗率)の10万円未満を切り捨てた額〕×週５日のうち出勤を要する日数÷12ヶ月
	常任監事	
	監事	

別　　表　第３　監事の加算報酬

区分	加算の基準	報酬（月額）
加算	公認会計士、税理士またはそれ相当の資格を有する場合	別表第２による報酬額に5割を加算する
	決算監査を行った場合	決算監査1回につき7万円（行った月にのみ加算）

別　　表　第４　指定職俸給表

俸給月額	573,000円

別　　表　第５　期末加算月数および加算乗率

区　分	加算月数	加算乗率
理事、常任監事、監事	5.0か月	20%

別　　表　第６　この法人の職員である理事の退職金

区　分	期　間	金　額
理事長	在任1か年につき	200,000円
副理事長		200,000円
常務理事		200,000円
担当理事		150,000円
理事		100,000円

※上記期間における端数は月割りとする。ただし、1か月未満は1か月に切り上げる。

別　　表　第７　この法人の職員でない理事および常任監事の退職金

区　分	期　間	金　額
この法人の職員でない理事	在任1か年につき	報酬年額の120分の15
常任監事		

※上記期間における端数は月割りとする。ただし、1か月未満は1か月に切り上げる。